

を先方に預けます、これが即ち人質であります、さて其後、その約束に背いて、譬へば、甲の方から乙の方へ攻めにでも行きますと、乙の方では、甲から預かつた人質を殺しても構はぬので、息子や娘が可愛ければ、この約束に背けないやうにしております。

家康も三河國に生れ、人駿河國に預けられたものです

が、或時今川の邸宅から従者に負はれて印地打を見にゆきました。印地打の遊びは、五月五日の

節句の日、西と東に分れて、男の子が石の投合をする遊びです。家康はその時、竹千代といふ名でありましたが、その遊びを見

て、従者に向ひ、アノ西の方が勝つよ、といひましたに果して西の勝となりました。従者は、なせアノ人数の少ない方が勝つといふことを知つてゐなかつたかと聞きますと、竹千代は、外でもない、人数が少いと心が揃ふから、その力で勝てる、といひました。幼い頃から、それほど物事に對し考へのおつた上、人質となつて苦勞をしたから、とうとうアノ通り幸福な老爺になつたのでせう。

家康は元和二年四月十八日を以て、昔の駿府即ち今の静岡で亡くなり、その靈を日光山に祀り、東照大権現と申します。下野の國

家康の死んだは七十五才でした、若しその時まで太閤秀吉が生きて居たらば、八十一であつたのです。

◎徳川家光

徳川の天下が三百年も續いたは

三代將軍家光

の代で、確乎

定つたのである、家光について、面白話がある、或時、家光、天海僧正を呼んで

天海僧正

を呼んで

佛の力は廣大なものであるかと聞くが、今も眞個さうか」と聞きました。天海いふ「これは又た改まつた御言葉、まことに佛力は廣大無邊、花なき枝に花も咲かせまする」、「花なき枝に花も咲くとな、いよく左様か」、「御言葉までも御座りませぬ」

「さらば天海、その佛力を見せてもらひたい」、「何と仰せられます」、「さらば、予いまで一子なし、いはゞ花なき枝も同然、天海、ごうじや、其方は當代隨一の生佛といふが、予の天めに、その佛力を見せてくれぬか」との事に、負けぬ氣の

海はッと畏こまつて「心得ました」と答へた、それから三七二

私、祈り居ります中に、一句の經文、空中に、アリくと浮んで、「何と申す」、「その經文の句は（便生福德智惠男）」

「ム、さらば佛力にて……」、「いかにも御誕生あるべき筈、しかも確かに和子様」といつた天海の言葉が、不思議にもうま

く中、四代將軍家綱が誕生

された

三代將軍家光をアノ通りの人 春日局 である、家光が
に育てあげたは、世に名高い 亡くなつたは、
後光明天皇の慶安四年、今から三百六十年ばかりの昔です。

◎伊井直弼

今から百年あまり前、光格天皇の文化元年に露國の船が長崎へ
來て貿易の事を申し込んだことがある、それから後、だんく
と西洋各國の船が日本へ來ました。しかし江戸近海へは入つ
て來なかつたので幕府もそれほど恐れなかつたが、嘉永六年
亞米利加の船が浦賀へ來て、ドンと打つた
相摸の大砲の響き 即ち黒

舟騒ぎ 幕府は始めて周章て出す、日本國中大騒ぎとなつ
たが、亞米利加との談判はむつかしくなり、とうとう己むを得
ず 條約 を結ぶやうになつたので、その幕府のやり方に
に 反對を唱へるものがあつて、目の碧い髻の赤い
西洋人 日本國の耻辱
際しては 大老井伊直弼
るといひだし、アノ通りの 大老井伊直弼
條約を結ぶやうになつたは 仕

業である。直弼は多くの人の恨みの的になりましたから堪りま
せん、とうとう万延元年三月三日、折しも春であるに、いつに
ない雪の降る日でした、大老井伊直弼は多
くの供人をつれて、將軍に謁見するため 櫻田門
來た

どこ
ろを **水戸の浪人** 大關和七郎 佐野竹之助 **薩摩の**

浪士 有村兼清等十七人、バラ／＼と不意に出て来た、中に一人、ドンと一發の彈丸を直弼の橋にうちこみま

した。これはと驚くまもなく、有村兼清、直弼を轡の中から引出し、首を斬つてしまいました。これはホンの僅かの間であつたさうです。

この直弼が死んでから、今年(明治四十二年)丁度五十年、兎に角西洋との條約を結ぶについて種々苦心した功勞があるから **銅像** を拵へることになり、横濱開港五十年の祝賀をするに ついて、その銅像を横濱の掃部山に建てられました。

◎ **維新三傑**

亞米利加の黒舟が浦賀へ入つてから、世の **徳川幕府** 中は大騒ぎとなり、その騒ぎからさうく

は潰れて **明治維新** となりましたが、その明治となし
しまひ、 るには、いろ／＼と込入つた事情

があつて多くの人が、いろ／＼と奔走をしました。その委し
い話は、迎も茲に手短かく出来ませぬから、略することゝしま

す **西郷隆盛、大久保利通、木戸**

孝允 の三人は明治維新となるに付て餘程の功勞のある人
でした。それで、この三人を維新の三傑といひます

◎箱館の役

徳川三百年の幕府が潰れて
五代將軍慶喜が政權を朝廷に奉

還し明治政府が出来たについて幕府の臣で、随分と不平を唱へたものがあつて、その連中

相集まり、榎本釜次郎に亡くなつた榎本子爵

海軍の方は、**榎本釜次郎** 横濱から箱

の事||が大將軍艦八隻を率ゐて、**横濱** 海路 **箱**

となつて幕府の **大鳥圭介** || 今の大鳥男爵 || 榎本

軍の方は **大鳥圭介** が大將となつて、榎本

の率ゐた海軍に味方をするといふ事になり、箱館で、官軍と大

に戦ふたが、結局は糧食が竭きて降参することになつた。

世にはこの **江戸兒** が咲か **最後の花** であ

戦争を以て **五稜廓** は **凍氷** の製造地

いひます、この時、**五稜廓** は **凍氷** の製造地

激しい戦争のあつた **凍氷** として頗

る名高いところでもあります。

◎西南の役

明治六年、朝廷では征韓 **征韓論** といふのは、日本の

論について紛議が出来た **征韓論** 國威を揚げるために

日本から、韓國を征伐しなければならぬといふ議論で、これに賛成な人々は、陸軍大將 西郷隆

盛を始め 江藤新平、桐野利秋、

九州から出た人でまた 三條實美、岩倉具

視、大久保利通、

で、西郷、江藤、桐野、その他の連中は官を辭して、各自國に

所 江藤は不平で堪らず、とうとう明治七年に戦争を起し

維新の時に功 維新十傑 治政府となつた時、最初の

司法卿 今の司法大臣 となり、種々の法律を定

なることも、自分が定めた法律の中にあるから、こうしたら生

命のないものど知つてゐながら、とうとう忍耐が出来なかつた

明治十年の春になりました、以前征韓 篠原

國幹等 西郷隆盛を味方の 新政厚

徳と書いた旗を押し立て、**日本**の**大人物**

に御座いましたから**西郷先生**とい**神様**の

九州到る所の人々は、うに思つてゐましたので我もく味方をして、なかく盛んなる勢ひ、もし西郷の兵が、九州の土地を離れて、長門へ渡つ

たらば、迎も平定することは出来**熊本城**を守りまし

まいと、官軍は死物狂ひとなつて**熊本城**を守りまし

知つて**谷村計介**は、この戦争に非常な手柄をいた

る**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

しか**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

つた**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

つた**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

つた**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

つた**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

つた**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

つた**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

つた**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

つた**田原阪**の戦争の繪は、繪草紙屋にありますのし

叶はず、次第々々に追詰めら**城山**の奥**西郷先**

生**生**始め、一同は自殺して、この戦争は平らぎましたのもとか

う**二萬**の**兵士**が、自分を**大將****生命**を

惜まぬ、その情に感じて、一緒に死んでしまはれたところに

兵を起したた**賊**といふ名をつけられてゐました**憲法**

發布の御祝ひのある目出たい日、**天皇陛下**は、**隆盛**がむ

かしの功勞を思召され、特に**賊**の名を除くことを許

今、東京 **上野公園** には西郷先生が犬を牽いて立つてゐられる大きな **銅像**

像が建てられてある。

◎日清戦役

明治十八年に **内閣** が出来、明治二十二年には **憲法** が發布される **國**

會 が開か **日本** は短い月日の **進歩** をいたし

さて明治十七八年の **日清戦役** は、我が國と支那との戦争で即ち我が日本が始めて外國を

敵として戦ふたのであります。支那は我が國よりも **清國** 遙かに大きな國であるから、この戦争は、確かに

の **勝利** であること **世界** の凡ての國が思つてゐましたにその戦争の結果は

見事に我が日本の勝利 となりましたから、今まで

小供のやうに思はれてゐた、我が日本は、これで大人の仲間入

をいたしました。 **遼東半**

島を日本の領土とする **償金二億兩** を取る

所^{しよ}が、^{しま}した露^ろ西^{せい}亞^あ獨^{どく}逸^{いつ}佛^{ふつ}蘭^{らん}西^{せい}の三^{さん}國^{こく}か

があつたの^が遼^{れう}東^{とう}を^を支^し那^なに^に還^{くわん}附^ふする^{する}こと^{こと}と^とし^しま^ました^{した}。

で、我^{われ}は其^{その}の^の遼^{れう}東^{とう}を^を支^し那^なに^に還^{くわん}附^ふする^{する}こと^{こと}と^とし^しま^ました^{した}。

玄^{げん}武^ぶ門^{もん}の先^{せん}登^{とう}者^{しゃ}原^{はら}田^だ重^{ちゆう}吉^{きち}の^の話^{はなし}旅^{りょ}順^{じゆん}の

總^{そう}攻^{こう}擊^{げき}を^を實^{じつ}行^{こう}した^{した}山^{やま}地^ち中^{ちゆう}將^{じやう}の^の事^{こと}や^や大^{だい}寺^{てい}

少^{せう}將^{じやう}の^の事^{こと}可^か兒^に大^{だい}尉^ゐの^の話^{はなし}や、^やそれ^{それ}か^か李^り鴻^{こう}

章^{しやう}を^を馬^ば關^{かん}で^で狙^{ねら}ひ^ひ撃^{げき}ち^ちした^{した}小^こ山^{やま}六^{むつ}之^の助^{すけ}の^の話^{はなし}は、^は諸^{しよ}君^{くん}も^も能^よ

から、略^{りやく}すること^{こと}とし、こゝにはチトばかり丁汝昌^{ていじやう}の話^{はなし}をしま

せう、^{てい}汝^{じやう}昌^{しやう} ^は支^し那^なの^の水^{すい}師^し提^{てい}督^{とく} ^{で、}日^に本^{ほん}で^いへば

た、この日清^{にっしん}役^{やく}の時^{とき}、丁汝^{ていじやう}昌^{しやう} ^に居^かま^ました^が、清^{しん}

昌^{しやう}は支^し那^なの^の海^{かい}軍^{ぐん}を^を率^{すう}ゐ^ゐて ^に居^かま^ました^が、清^{しん}

敗^{さい}けて、迎^{むか}へ^へる^る事^{こと}が^が出^で来^きぬ^ぬや^やう^うに^にな^なり^りま^ました^{した}、し^しか

し丁汝^{ていじやう}昌^{しやう}は、^もた^たも^も尙^{なほ}飽^あく^くま^まで^でも^もと^と戦^{たたか}ひ^ひま^ました^{した}、^ちか^から

限^{かぎ}り、砲^た丸^{まる}や^や彈^{だん}藥^{やく}の^のつ^つく^く限^{かぎ}り、^もた^たも^も勇^{いさ}ま^ましく^く戦^{たたか}ひ^ひま^ました^{した}、^され^れど

終^{つひ}に^に叶^{かな}は^はぬ^ぬこ^こと^とな^なり^りま^ました^{した}か^から、^凡て^ての^の軍^{ぐん}艦^{かん}や^や武^ぶ器^きを^を日^に本^{ほん}に

海軍中將

に送り、その承諾を得た上

毒藥

を飲んで死にました『三十六計

逃ぐるを上策とす』といつて、逃げることの上手な清國の武官の中にも

汝昌

のやうなニライ人がありました

◎日露戦役

明治二十七八年の戦争に勝つたため、世界の國々は、我が日本を侮ることの出来ない國と思ひましたが、明治三十三年、清國に團匪の亂暴者が北京にある所の外國公使館を圍ん

獨逸

士を出して、亂暴者の團匪を

佛蘭西露西亞

攻めました、この時に於ける我

日本兵

の働き振りには、多くの西洋人を驚かして、度程日本は強い

國であると思はしめたこの時の騒動が即ち

北清事件

であります

所が、この露西亞

露西亞

は清國の領分なる

滿洲

を我が物にしやうとの野心

を示しましたから我が日本では打捨て置けぬので

明治卅七年二月

十一日

の紀元節にあたりて

宣戰

の詔勅が下り、いよいよ世界の廣さの六分一

を持つてゐる大國の

露西亞

を敵として戦ふ事になりました

この戦役に、我 **大山元帥** 総参謀長は、 **兒玉大**

將 それから陸軍の **黒木大將** 第一軍司令官は **奥大**

將 第三 **乃木大將** 第四 **野津大將**

そして敵 **アレキセーフ、クロパト**

キン、ステツセル、スタケルベ

ルグ などでありました。

それから我 **東郷中將** 司令長官で **出羽**

が海軍では **中將上村中將** そして **マカロツ**

フ といふ世界に名 **ロゼストウエンス**

キ 高い兵衛家と

所で **陸軍** の方は明治三十七 **南山** で戦ひ、六 **得**

先づ **利寺** で戦ひ、八 **遼陽** の大戦、十 **沙河** の會

十一月三十一日 二〇三高地の占領、翌二十八

順の開城、一月二十六日には黒溝臺の戦勝を三月十

日に奉天で大會戦をやりま大勝利を得ました

海軍は、三十七年三月廿七日に旅順第一二回の

閉塞隊が決行軍神廣瀬中佐片は一

肉塊を残して見事に戦死しました 黄海の大戦、翌五

た、それから、八月の十日には

月廿八日に日本海大海戦があ

敵波羅的艦隊は全滅し

兔に角、一年半に亘つた戦争ですから、その間には、悲壯な話

は随分に多いが、茲には略して、左に名高い日本海大海戦に於

て我が驅漣が、敵ロゼストウエン

スキーを捕へた時の御話をいたしませう。さて對

馬海峡で我が日本の艦隊と、露西區の波羅的艦隊とは、

風もあり、波も烈しく、そのため、敵の艦隊は次第に亂れて
 ナスラビヤ、グニヤーシス
 ワロフ、アレキサンドル三
 世の三艦は火
 事をおこし
 セムチユーグ
 所は非常な損
 所が出来た

といふ有様の、さてその夜の事、月も
 なく、霧が深い、所で我が驅逐艦の
 漣霞薄雲の三
 隻は
 霧の中をズン／＼と進みました、やがて二十八日の夜が、ホノ
 リ／＼とあけかけましたので、霞と薄雲とは各自の任務を盡した

めに、思ひ／＼の方角に進みましたので、漣は一隻となりて、
 尙もズン／＼と進みました、すると、向ふの方に、かすかに煤
 烟が揚つてゐる、さては敵か味方かと、全速力に近よつて見る
 と、そ
 一本橋の軍艦が二隻で、無論、敵、露西亞の
 れは
 ものでしたから、漣も猶豫もせず砲撃
 しました、所が、昨日から負けついで、今は波の音にさへ恐
 れてゐるのか、その一隻は忽ち逃げ出したが、一隻は、チツと
 待構へてゐる、敵にしては殊勝な奴と、漣は、その
 舟の近くへ行くと、これはいかに艦の先に、たかく
 をかゝげ
 赤十字旗を立て
 ペトウキ
 艦の方に

號

であります。戦場で白旗を立てるのには、降参したしるしですから、

漣

に乘組んだ兵は、勇み進んでペトウ

キ號に乗り移り、一室の中に入つて見ると、思ひがけない、そこに敵の

艦隊司令長

官ロゼストウエンスキー提督

督が腕 **大怪我**

をして、血潮まみれながら臥て居ましたので、直ぐに、提督をは

捕虜

とし、舟と共に率ゐて歸りましたが、これは實に

漣

にとつて思ひがけない大功名でありました。

◎伊藤博文

博文は長門の人、一代の中に、公爵、大勳位まで昇つた人であり、内閣が出来た時、始めての

總理

大臣

となつたも此の人、國會が開けた時、最初の

貴族院議長

つたも此の人、

韓國統監

となつたも此の人で實に明治の功臣でありました

れから、最初の、**哈爾賓** 十月満州視察に上り、その二十六日午前、

哈爾賓

停車場

に於て、列車の中で、露國の大藏大臣なる

コロウゾフ

氏と半時間ばかり談話をして、二人一緒にプラットホームへ出た。この日は満州名物の曇天で、肌を劈くやうな風が吹

いてゐました。博文は、露國の兵の整列した前を巡つて、列車から向つて左の方、露國將校の整列してゐる處を通り、更に引返してこの日、歡迎に來てゐた四十名程の日本人の居る處へ來て、それから二三歩行くと、突然日本人と露國兵との間から、**烏打帽**を被つた**韓人**が現はれ、博文の腹部を覗つて、ピストルで射ちました。

博文は「やられた、確かに三發ばかり……」と叫んで、やがて「酷くやられた、もう駄目じや、犯人は何者じや」と、傍のものに聞いたまゝ、半時間の後、**安應七**といふ朝鮮人でした。

絶命しました。この犯人は、**安應七**といふ朝鮮人でした。

博文の遺骸は、日本に送り還され、**國葬**を行はれました。

十一月四日、町重なる儀式により

◎ 數字

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、萬、億、兆、京、垓、秭、穰、溝、澗、正。

億は萬の萬倍である。兆は億の萬倍である。京は兆の萬倍である。以下凡て萬倍である。

◎ 算用數字

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 一 二 三 四 五 六 七 八 九

いておりました。博文は、露國の兵の整列した前を巡つて、列車から向つて左の方、露國將校の整列してゐる處を通り、更に引返してこの日、歡迎に來てゐた四十名程の日本人の居る處へ來て、それから二三歩行くと、突然日本人と露國兵との間から、**鳥打帽**を被つた**韓人**が現はれ、博文の腹部を覗つて、ピストルで射ちました。

博文は「やられた、確かに三發ばかり……」と叫んで、やがて「酷くやられた、もう駄目じや、犯人は何者じや」と、傍のものに聞いたまゝ、半時間の後、**安應七**といふ朝鮮人でした。

絶命しました。この犯人は、**安應七**といふ朝鮮人でした。

博文の遺骸は、日本に送り還され、**國葬**を行はれました。

十一月四日、町重なる儀式により

● 數字

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、萬、億、兆、京、垓、秭、穰、溝、澗、正。

億は萬の萬倍である。兆は億の萬倍である。京は兆の萬倍である。以下凡て萬倍である。

● 算用數字

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 一 二 三 四 五 六 七 八 九

◎羅馬數字

I	一
II	二
III	三
IV	四
V	五
VI	六
VII	七
VIII	八
IX	九
X	十
L	五十
C	百
D	五百
M	千

◎小數

忽	十厘の
分	十厘の
厘	十毫の
毫	十絲の
絲	十忽の
沙	十塵の
塵	十埃の
埃	十渺の
渺	十漠の
漠	

◎日本貨幣

塵 十埃の

埃 十渺の

渺 十漠の

漠

五錢 (これは白銅貨である)

五拾錢 貳拾錢 拾錢 五錢 (以上は銀貨)

貳拾圓 拾圓 五圓 (以上は金貨である)

壹錢 壹錢 五厘 壹厘 (以上は青銅貨である)

● 數目

◎ 貨幣

圓

百錢の

十

十錢の

錢

一厘の

厘

十毫の

◎ 榘目

石

十斗の

斗

十升の

升

十合の

合

勺

十抄の

抄

十撮の

撮

十圭の

圭

十勺の事
十粟の事

粟

◎ 尺目

匹

二端の

端

二丈七尺から三丈一尺位までの
いろいろ物により相違がある

丈

十尺の

尺

十寸の

寸

十分の

分

十厘の事

厘

十毫の

毫

(これより下は小數の位の通りです)

◎ 田畑

町ちやう

十反じゅうたんの
こと

反たん

十畝じゅうせの
こと

畝せ

三十歩さんじゅうほ
のこと

歩ほ

六尺りっく
四方しやうほうの

◎貫目くわんめ

貫くわん

千匁せんまの
こと

百ひやく

十匁じゅうまの
十倍じゅうばいの

十じゅう

一匁いちまの
十倍じゅうばいの

匁ま

十分じふぶん
の事こと

分ぶん

十厘じゅうりんの
こと

厘りん

◎斤目しんめ

斤しん

百二十匁ひやくにじゅうまのもあれば、二百三十匁にひやくさんじゅうま、三百匁さんひやくま、二百匁にひやくまなどあるが、普通の一斤いちしんは百六十匁ひやくろくじゅうまです

兩りやう

四匁しよんまの
こと

◎里程りてい

里り

三十六町さんじゅうろくちやう
のこと

町ちやう

六十間ろくじゅうけん
のこと

間けん

六尺りっくの
こと

哩ま

十四町じゅうしちやうと
七五一九しちごいちゆう

湮えん

十六町じゅうろくちやう五十八
間けん三尺一寸さんしちゆ一寸六

◎日時にちじ

年ねん

平年へいねんは三百六十五日さんひやくろくにじゅうごにち、
閏年うるすねんは三百六十六日さんひやくろくにじゅうろくにち

(閏年うるすねんは四年よねん目に來きたる)
又一年またいちねんは十二ヶ月じふにげつ

月

大の月は三十一日、小の月は三十日、そして一年の中、一、三、五、七、八、十、十二の七ヶ月は大の月で、二、四、六、九、十一、の五ヶ月は小の月である、尙注意すべきは二月は小の月に數へるが、其の月に限つて、二十八日である、閏年にはこの二月が二十九日になるため、一年が三百六十六日となるのである、

四時間 六十分 六十秒

週 七日の 日 十二

の こと

◎加算九九

- 一に九足すの十
- 二に八足すの十
- 三に七足すの十
- 四に六足すの十
- 五に五足すの十
- 六に四足すの十

七に三足すの十

八に二足すの十

九に一足すの十

◎減算九九

- 一引いて九残る
- 二引いて八残る
- 三引いて七残る
- 四引いて六残る
- 五引いて五残る
- 六引いて四残る
- 七引いて三残る
- 八引いて二残る
- 九引いて一残る

◎乗算九九

- 一一が一一三が二二三が三三一四が四二五が五
- 一六が六一七が七一八が八一九が九二二三が四

二三が六 二四が八 二五 十二六十二 二七十四
 二八十六 二九十八 三三が九 三四十二 三五十五
 三六十八 三七二十一 三八二十四 三九二十七 四四十六
 四五二十 四六二十四 四七二十八 四八三十二 四九三十六
 五五二十五 五六三十三 五七三十五 五八四十四 五九四十五
 六六三十六 六七四十二 六八四十八 六九五十四 七七四十九
 七八五十六 七九六十三 八八六十四 八九七十二 九九八十一

◎ 除算九九

二二添作五 二進一十 三三三十一 三三六十二 三進一十
 四二二十二 四二添作五 四三七十二 四進一十五 一加一

五二加二 五三加三 五四加四 五進一十六 二下加四
 六三三十二 六三添作五 六四六十四 六五八十二 六進一十
 七一下加三 七二下加六 七三四十二 七四五十五 七五七十一
 七六八十四 七進一十八 二下加二 八二下加四 八三下加六
 八四添作五 八五六十二 八六七十四 八七八十六 八進一十
 九一下加一 九二下加二 九三下加三 九四下加四 九五下加五
 九六下加六 九七下加七 九八下加八 九進一十

◎ 見一の割聲

見一無頭作九の一 歸一倍一

見二無頭作九の二	歸一倍二
見三無頭作九の三	歸一倍三
見四無頭作九の四	歸一倍四
見五無頭作九の五	歸一倍五
見六無頭作九の六	歸一倍六
見七無頭作九の七	歸一倍七
見八無頭作九の八	歸一倍八
見九無頭作九の九	歸一倍九

◎各國貨幣度量衡

◎貨幣

英國

一 ファシング	一 錢
一 ペニー	四 錢
一 グロート	十六 錢
一 シルリング	四十八 錢
一 フロリン	九十六 錢
一 クラウン	二圓四十 錢
一 ソブタン(一ポンド)	九圓六十 錢
一 ギニア	十圓八 錢

清國

一厘五毛
一錢五厘四毛
十五錢四厘
一圓五十四錢

同上海

一錢二厘七毛
十二錢六厘八毛
一圓二十六錢八厘

同天津

一錢三厘五毛
十三錢四厘五毛
一圓二十四錢五厘

本港洋銀

八錢四厘五毛
八圓四十四錢五厘八毛

米國

一ミル.....二厘
一セント.....二錢
一ハーフダイム.....十錢
一ダイム.....二十錢
一クォーターダラー.....五十錢
一ハーフダラー.....一圓
一ダラー.....二圓
一クォーターイーグル.....五圓
一ハーフイーグル.....十圓
一イーグル.....二十圓
一グレートイーグル.....四十圓

佛國

- 一サンチーム……………三厘八毛
- 一デシム……………四錢
- 一フラン……………三十八錢七厘
- 一シルバーナポレオン……………三圓八十七錢
- 一ゴールドナポレオン……………七圓七十四錢

露國

- 一コベツク……………一錢五厘
- 一グリエンニク……………十五錢四厘
- 一ルーブル……………一圓五十四錢四厘
- 一ツカット……………四圓六十二錢
- 一インペリアム……………十五圓四十四錢

和蘭

- 一ステバール……………四錢餘
- 一フロリン……………八十錢六厘

奧地利

- 一クルツチエル……………一錢七厘四毛
- 一クローネ……………四十錢七厘
- 一フロリン……………九十六錢八厘
- 一ドロラム……………一圓九十三錢六厘
- 一シカート……………三圓八十七錢二厘

伊太利

- 一サンチーム……………三錢八厘七毛
- 一リラ……………三十八錢七厘
- 一アンナ……………四錢一厘四毛

印度

- 一ルピー……………六十六錢二厘四毛
- 一モハー……………九圓九十二錢六厘

獨逸

- 一マルク……………四十七錢八厘

暹羅	一チカル……………六十一錢
西班牙	一ペヤタ……………三十八錢七厘
土耳其	一ピアスタル……………八錢六厘
葡萄牙	一ミルライ……………二圓十六錢八厘
白耳義	一フランク……………三十八錢七厘
瑞西	一フランク……………三十八錢七厘
諾威	一クローネ……………五十三錢八厘
瑞典	一クローネ……………五十三錢八厘
丁抹	一クローネ……………五十三錢八厘

墨西哥	一ドルラル……………一圓〇〇三厘
埃及	一ピアストル……………十錢
波斯	一トーマン……………五圓
秘露	一ペソ……………一圓
智利	一ペソゴロンテ……………一圓八十錢
巴拉刺	一ミルライス……………一圓
希臘	一ドラハム……………三十八錢七厘
羅馬尼	一レイノグ……………三十八錢七厘

◎ 尺 度

一 ライン	七厘
一 インチ	八分三厘
一 ハンド	三寸三分四厘五毛
一 スパン	七寸五分餘
一 フート	一尺餘
一 キュビット	一尺五寸餘
一 ヤード	三尺〇一分
一 フアヅム	六尺〇二分
一 ボール	一丈六尺五寸
一 チェーン	十一間二寸四分二厘

英 國
米 國

獨 逸

一 フアロング	百十間二尺八寸四分
一 マイル	十四町四十五間餘
一 ノット	十六町五十八間三尺
一 リーグ	一里八町二十五間餘
一 デグリー	十四里二十四町廿間餘
一 ラニトヒ	七厘一毛
一 ズル	八分五厘九毛
一 スウス	一尺〇三分二厘
一 エル	二尺一寸九分二厘
一 レオターフ	六尺六寸八分九厘
一 ルトゼ	一丈三尺三寸七分八厘餘
一 モール	一里廿八町四十六間餘

佛

國

ミリメートル……………三厘三毛
 センチメートル……………三分三厘
 デシメートル……………三寸三分
 メートル……………三尺三寸
 デカメートル……………三丈三尺
 ヘクトメートル……………三十三丈
 キロメートル……………三百三十丈
 ミリアメートル……………三千三百丈

清

國

一分……………一分一厘七毛
 寸……………一寸一分七厘二毛
 尺(商用)……………一尺二寸一分五厘
 尺……………一尺一寸七分二厘

露

國

尋……………一丈〇五寸九分四厘二毛
 丈……………一丈一尺七寸一分五厘
 引……………十一丈七尺一寸五分
 里……………五町十五間三尺

奧地利

トイム……………八分三厘八毛
 ウエルシヨグ……………一寸四分三厘
 フート……………一尺一寸四分二厘
 アルシン……………二尺三寸四分二厘
 サーセン……………七尺〇五寸七分
 バルスト……………九町四十五間八寸
 フート……………一尺〇五分四厘
 メルト……………一里三十一町四間五尺

和蘭

◎重量

一 スツリブ 三厘三毛
 一 ツイム 三分三厘
 一 バーム 三寸三分
 一 エル 三尺三寸
 一 ロード 三丈三尺
 一 マイル 九町八間五尺

澳地利

一 クインタル 一匁一分四厘七毛
 一 ハツク 四匁六分九厘六毛
 一 ウンセン 九匁三分九厘二毛
 一 ボンド 百五十匁二分九厘七毛

露國 英國 米國

一 フォット 百九匁七分〇五毛
 一 プード 四貫三百九十匁四分餘
 一 グレオン 一厘七毛
 一 ドラム 四分七厘二毛
 一 オンス 七匁五分六厘
 一 ポンド 百二十匁九分五厘八毛
 一 ストーン 一貫六百九十三匁四分
 一 クォーター 三貫三百八十六匁八分
 一 ハンドレットウエート 十三貫九百五十四匁餘
 一 トン 二百七十貫九百四十六匁
 一 センチグラム 二毛
 一 デシグラム 二厘六毛

佛國

清國

一グラム	二分六厘六毛
一デカグラム	二匁六分六厘六毛
一ヘクトグラム	廿六匁六分六厘六毛
一キログラム	二百六十六匁六分餘
一ミリヲグラム	二貫六百六十六匁六分餘
一クイントアル	廿六貫六百六十六匁餘
一兩	十匁
一斤	百六十匁九分九厘
一引	三百二十一匁九分九厘
一擔	十六貫〇九十九匁餘
一グラシム	二分七厘
一ポンド	百二十九匁三分九厘六毛

獨逸

英斗量

和蘭

獨逸

一ポンド	一貫三百七十九匁三分餘
一テスト	五十貫百五十八匁七分餘
一トンチ	二百六十六貫二百三匁餘
一スチツプル	五升五合
一ムツド	五斗五升
一カン	五合五勺
一フアツト	五升五合
一メツヲ	一升八合一勺餘
一セツフェル	二斗九升一合一勺餘
一ウイスバル	六石九斗八升六合九勺餘
(水酒)	
(穀米)	

澳大利

一モリセル.....五合〇二抄四
一ヌリス.....七升八合
一オームル.....三斗一升二合餘

露國

一カンカス.....八合五抄
一ウエトロ.....五升五合〇五四
一ウエストポルト.....一石一斗二升五合〇二

英國

一パイソト.....三合二勺四八
一クワート.....六合二勺九六
一ガロン.....二升五合一八七

米國

一ベツク.....五升〇三七六
一アッセル.....二斗〇一合四九六
一チオバドロン.....七石二斗五升三合八五六

英國

(酒)

一ギル.....七勺五八
一ポイント.....三合二勺四八
一クワート.....六合二勺九六
一ガロン.....二升五合一八七
一アウカー.....二斗五升一合八勺七

(水)

一ランドレツド.....四斗五升三合三勺六六
一パズレル.....七斗九升三合三勺九〇五
一チアトス.....一石〇五升七合八勺五四
一ホウグスヘッド.....一石五斗八升六合七八九
一ボンチエオン.....二石一斗一升五合七〇八
一パイプ.....三石一斗七升三合五六二
一タン.....六石三斗四升七合一二四

清 佛
國 國

一斗	一升	一合	(水)	酒	(穀)	米
一斗	一升	一合	一キロリツトル	一デカリツトル	一テカステル	一テシステル
.....
二斗	二升	二合	二キロリツトル	二デカリツトル	二テカステル	二テシステル
.....
三斗	三升	三合	三キロリツトル	三デカリツトル	三テカステル	三テシステル
.....
四斗	四升	四合	四キロリツトル	四デカリツトル	四テカステル	四テシステル
.....
五斗	五升	五合	五キロリツトル	五デカリツトル	五テカステル	五テシステル
.....
六斗	六升	六合	六キロリツトル	六デカリツトル	六テカステル	六テシステル
.....
七斗	七升	七合	七キロリツトル	七デカリツトル	七テカステル	七テシステル
.....
八斗	八升	八合	八キロリツトル	八デカリツトル	八テカステル	八テシステル
.....
九斗	九升	九合	九キロリツトル	九デカリツトル	九テカステル	九テシステル
.....
十斗	十升	十合	十キロリツトル	十デカリツトル	十テカステル	十テシステル

一乘	一石	一釜
一乘	一石	一釜
.....
二乘	二石	二釜
.....
三乘	三石	三釜
.....
四乘	四石	四釜
.....
五乘	五石	五釜
.....
六乘	六石	六釜
.....
七乘	七石	七釜
.....
八乘	八石	八釜
.....
九乘	九石	九釜
.....
十乘	十石	十釜

數字づくしの歌

八万三十八三六九三三四四一八二、四五十二四六六四
 億四百、これは左の通り讀むと一つの和歌になります
 やまざとはさむくさみししひとつやに、よごとにしる
 くもよおくしも

●珠算早學

算盤には上と下とに珠がある。そしてその珠は、上に一個、下に五個ある。所で、この上の珠一個で、下の珠の五個の代りをするのであります。

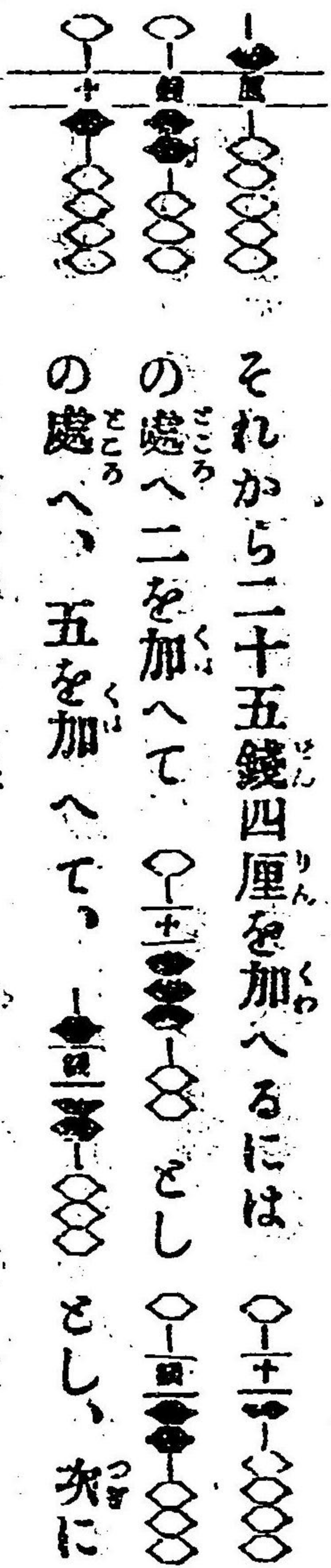
これから加法の仕方を御話しませう

加法

一、金十二錢五厘と二十五錢四厘とを合せて何程

答 三十七錢九厘

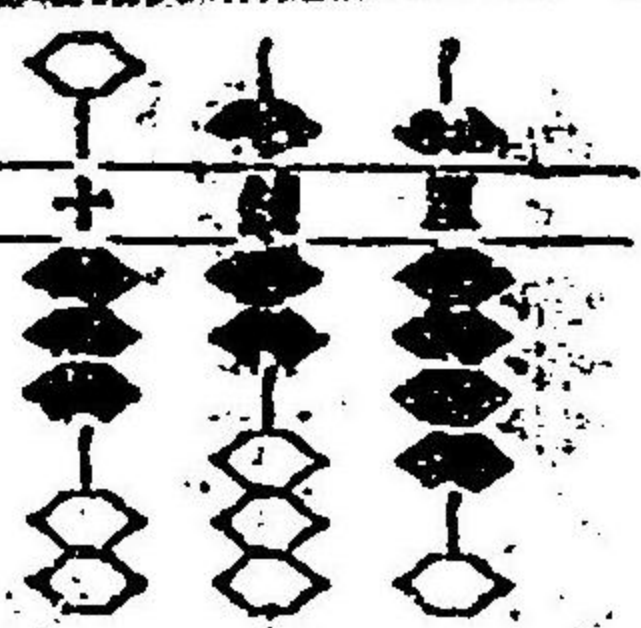
先づ十二錢五厘を、左圖の通りに布きます。



の處へ、四を加へて

○出來上りは、左の通りになります

即ち三十七錢九厘です。

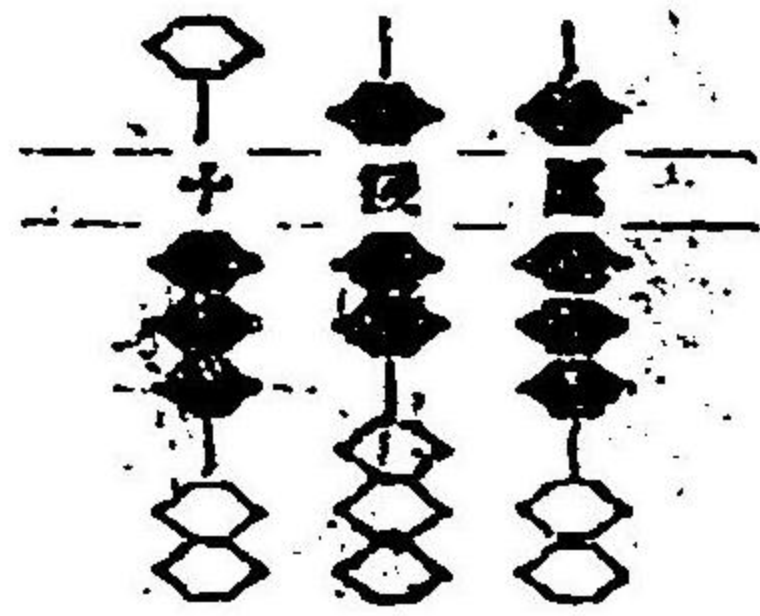




今度は、少しむづかしい加法を一つ説明させう

問題 金三十七錢八厘と八十五錢四厘とを合せて、何程

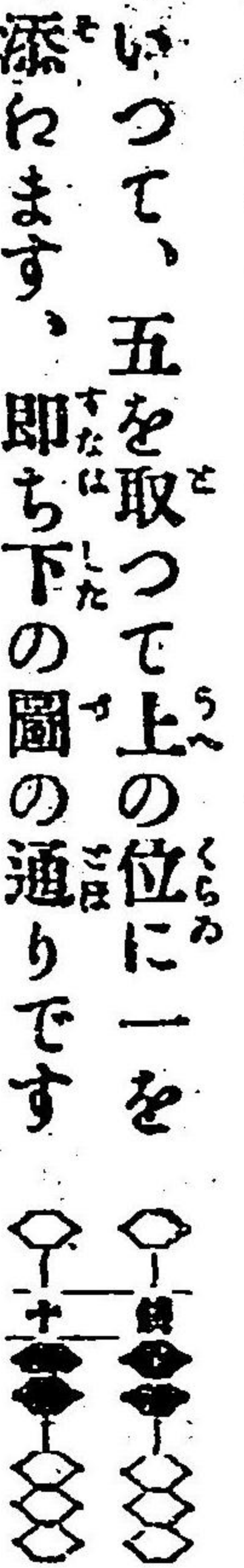
答 一圓二十三錢二厘

先づ三十七錢八厘と布きます、左圖の通り

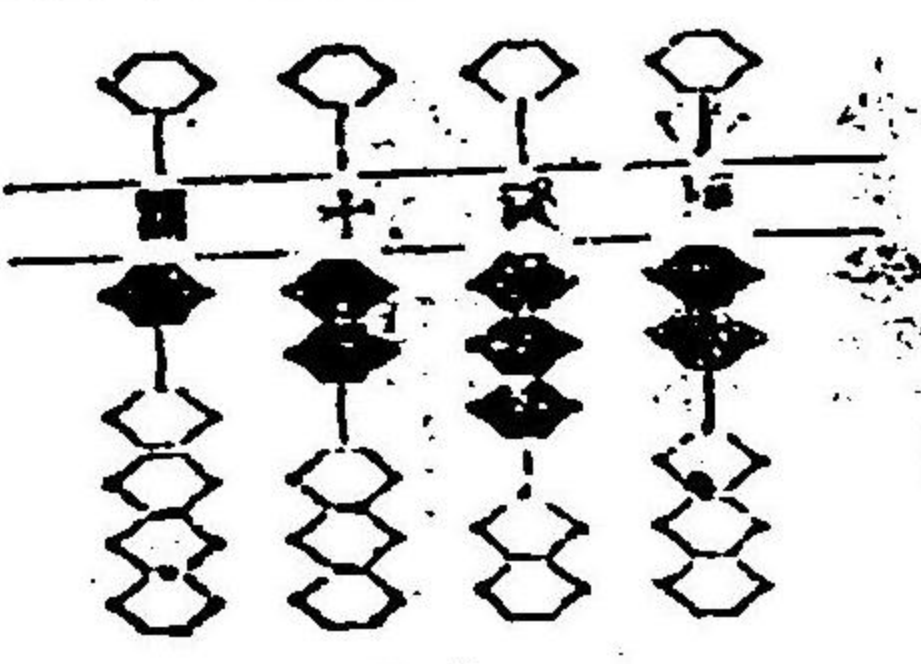


これへ八十五錢四厘を加へるには、の處へ、八に二足すの十といつて、から二を取つて、上の位に一の添へます即ち

の處へ、五を加へるには、五に五足すの十といつて、五を取つて上の位に一を添へます、即ち下の圖の通りです



次に の處へ、四を加へるには、四に六足すの



十といつて、六を取つて、上の位に一を添へます、即ち下の圖の通りです

そこで、計算した結果は、上の圖の通りになります

ことに注意のために云ひます、八に二足すの十といふことは、八に二を足したら十となることで、つまり八を加せる時に、そこが、一ぱいになつて

合せられぬことがあると、二を減いて、その代りに、上の位に一を添へるのと同じことになるといふことです、この道理が分つたら、九に一足すの十も、七に三足すの十も、三に七足すの十も、皆同じ道理です、諸君、わかりましたか

次に減法の仕方を申しませう。

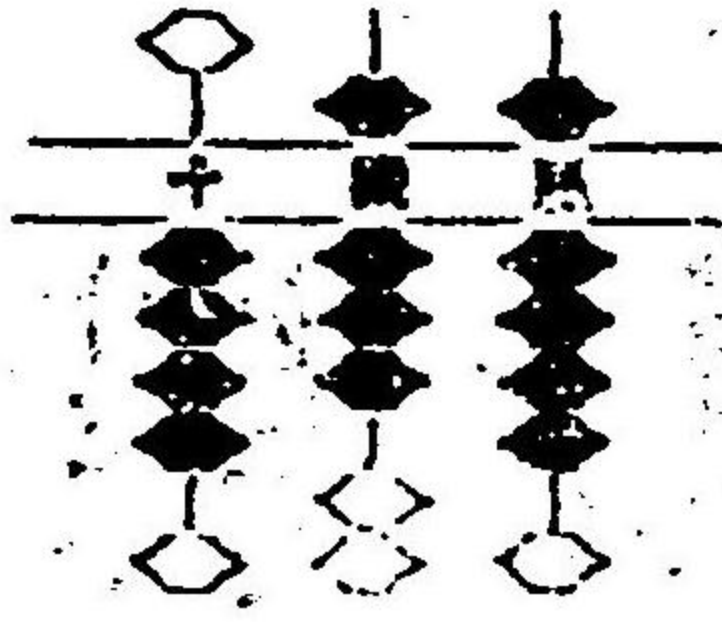
減法

問題 金四十八錢九厘から二十三錢五厘を減くと、残り何程

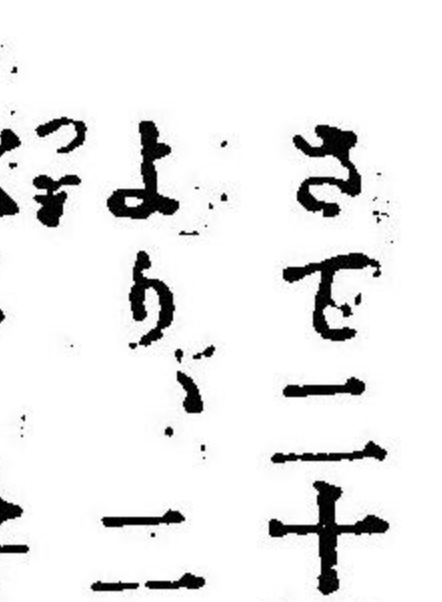
答 二十五錢四厘

先づ四十八錢九厘を布きます。


さで二十五錢四厘を減くには



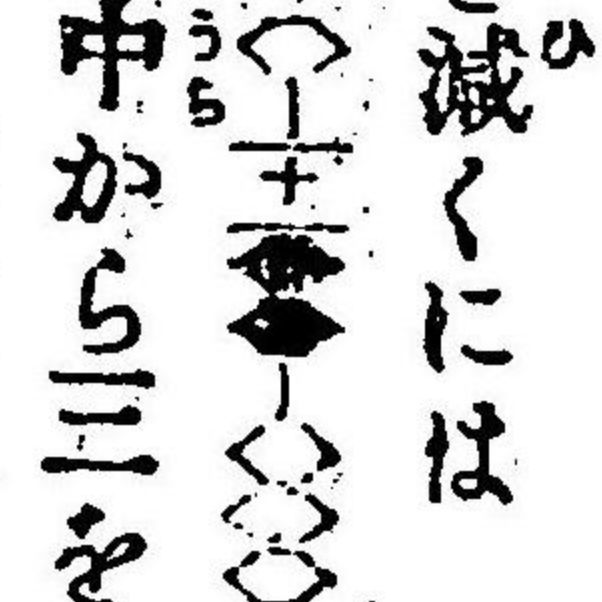
より、二を減いて





次に



の中から三を減いて



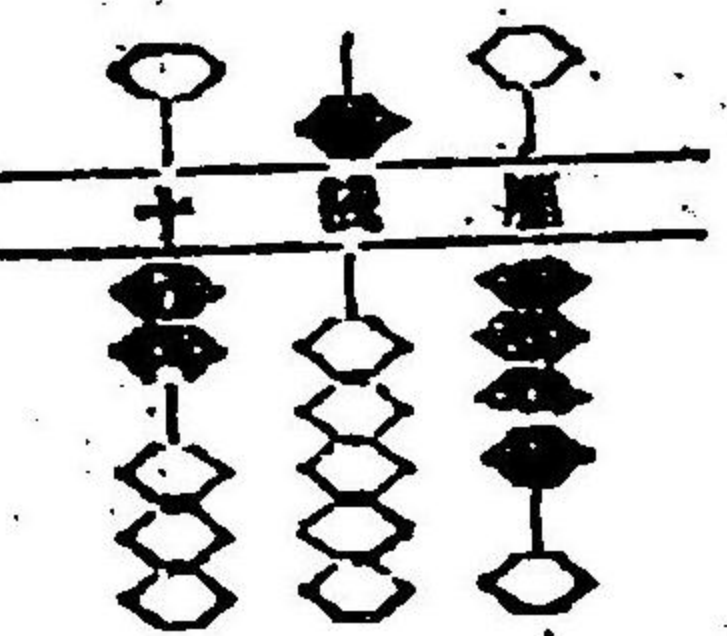
とします。

次に  から五を減いて  としま

す。

即ち計算した結果は下の圖の通り


りになります。







今、もう一つ、此度は、少しむつかしい問題を出して見ませう。

問題 金八十五錢四厘から三十七錢八厘を減くと残り何程

答 四十七錢六厘

先づ八十五錢四厘  を布きます。この中から、三十七錢

と布きます。下の  八厘を減くには  の中から三を減て  の中から三を減て 

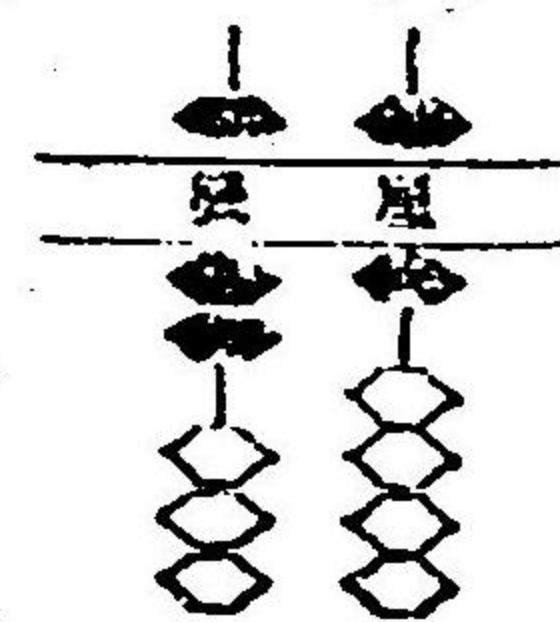
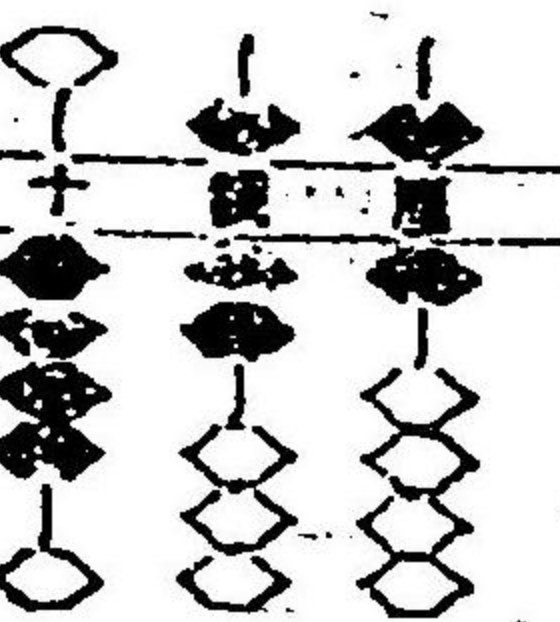
とします。

次は $1000 - 1000$ の中から、七を減くのですが、減けませんから、七減いて三残るといつて上の位から一を取る代りに、錢位に $1000 - 1000$ この通りにします。

三を加へます $1000 + 1000$

次は $1000 - 1000$ から八を減くのですが、足りませんから八減いて二残るといつて、上の位の $1000 - 1000$ から一を減いて、厘位に二を加へます、即ち左の圖の通りになる。

そして其の結果は下の通り、



この仕方が分つて居たら、ドンナ減法でも出来、即ち減算の九九さへ覚えて居れば、上の位から、借りて来て、餘りを加へることを忘れないやうにしたら、いつでも計算が出来、次に乗法の仕方を申しませう。

乗法

乗法では、乗けられる数を、實又は被乗数といひ、乗ける数を法又は乗数といひます。そして、乗け合せて出て来た数を積といひます。

左に法の一桁な時の乗法から説明しませう。

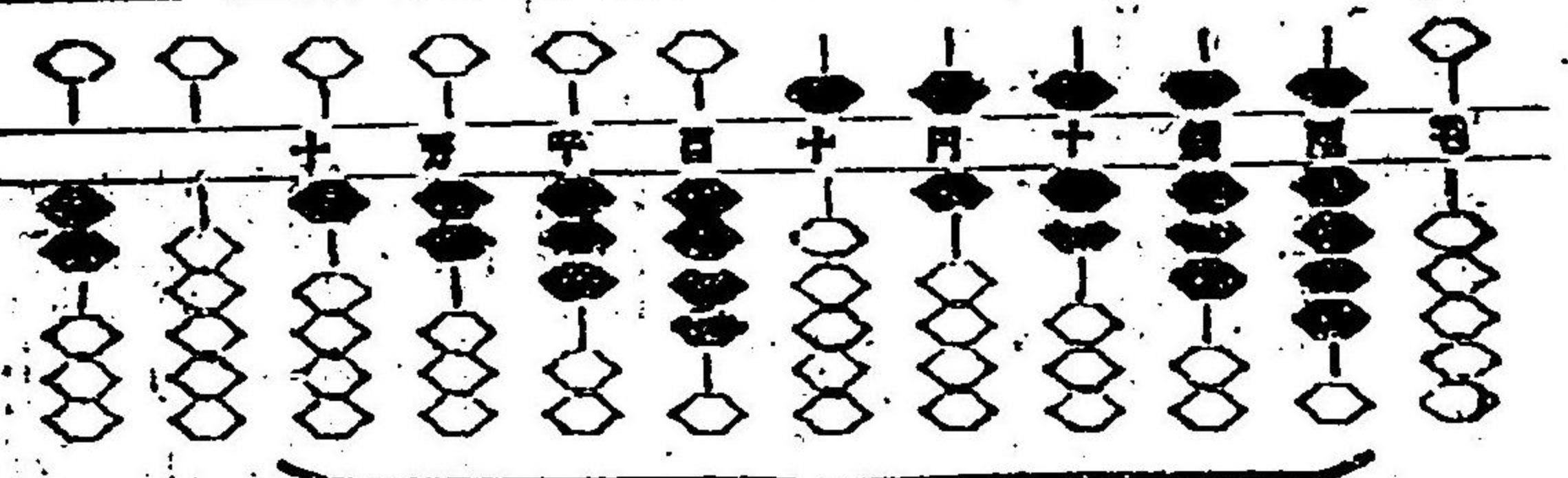
問題 金十二万三千四百五十六圓七十八錢

九厘を二倍すれば何程

答 二十四万六千九百十三圓五十七錢八厘

この乗算の仕方を申しませう、和算の乘法は、實の一番終の位から乗けて行くものです、そこで、

第一、法の二と實の九とを見合せ、二九十八といつて、今、九であつたところを、一とし、その下の位に入れます、即ち下圖の通り、さて第二に、法の二と實の八とを見



法

實

せ、二八十六といつて、八を一にし、下の位に六を加へます、即ち下圖の通り、
第三、法の二と、實の七とを見て、二七十四といつて、七を一とし、下の位に四を加へます、下圖の通り、
第四、法の二と實の六とを見て、二六十二といつて、六を一とし、下の位に二を加へます、下圖の通り、
第五、法の二と實の五とを見て、二五十といつて、五を一にします、即ち下圖の通り、
第六、法の二と實の四とを見て、二四ヶ八といつて、その

四を取り去り、下の位に入を添へる
即ち下の圖にある通りになります、

第七、法の二と實の三を見て、二三ケ六といつて、その
三を拂ひ去り、下の位に六を添へ
ます、即ち下の圖の通りです、

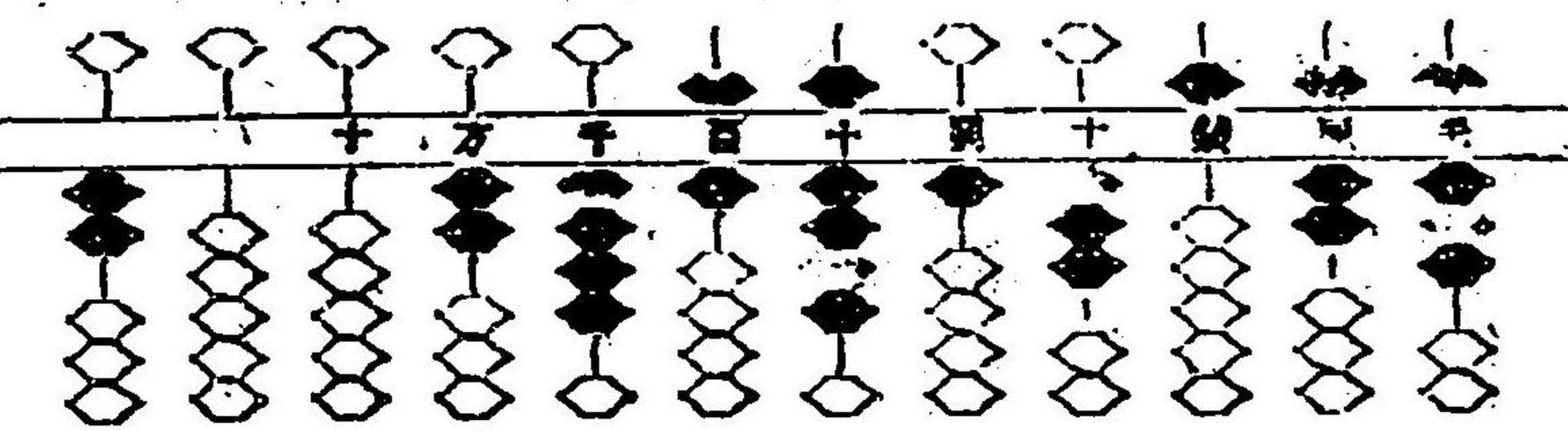
第八、法の二と實の二を見て、二二ケ四といつて、その
二を拂ひ去り、下の位に四を添へ
ます、即ち下の圖の通りになる、

第九、法の二と實の一を見て、一二ケ二といつて、その
一を拂ひ去り、下の位に二を添へ
ます、即ち下の圖の通りになる、

そこで、計算した結果は、上の圖の通りになります。

ところで、乗け上つた數の、位を取るには、法が一桁であれば、以前の位より一つ下つたところが以前の位であります、即ち以前に厘の位であるものが、毛の位のところに當るのです。

依つて、毛のところを、厘として、錢、十、圓、十、百、千、万、十万、といつて位を取ります。これで、二の乗法は分つた筈です、次に三の乗法を説明しましょう。

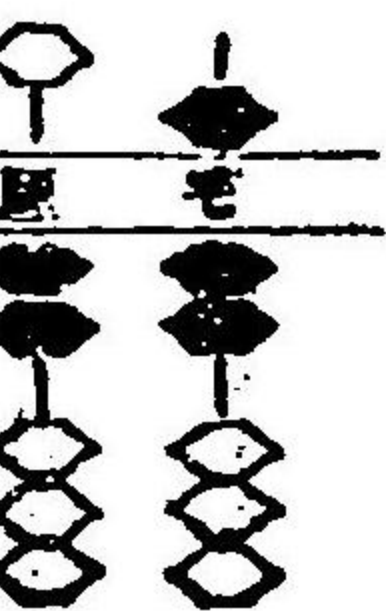


問題 金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘
を三倍すれば何程

答 三十七万〇三百七十圓三十六錢七厘

この掛け方は次の通りです。

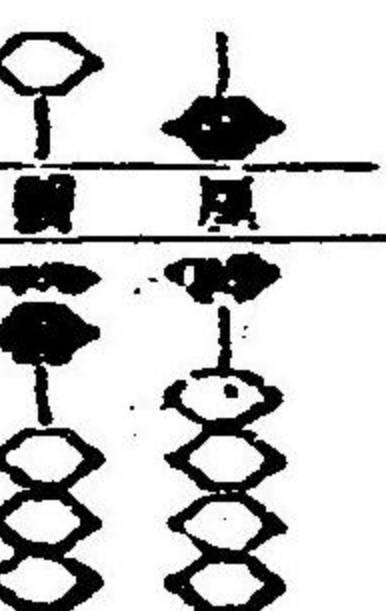
第一、三九二十七と



いつて、下圖の通り

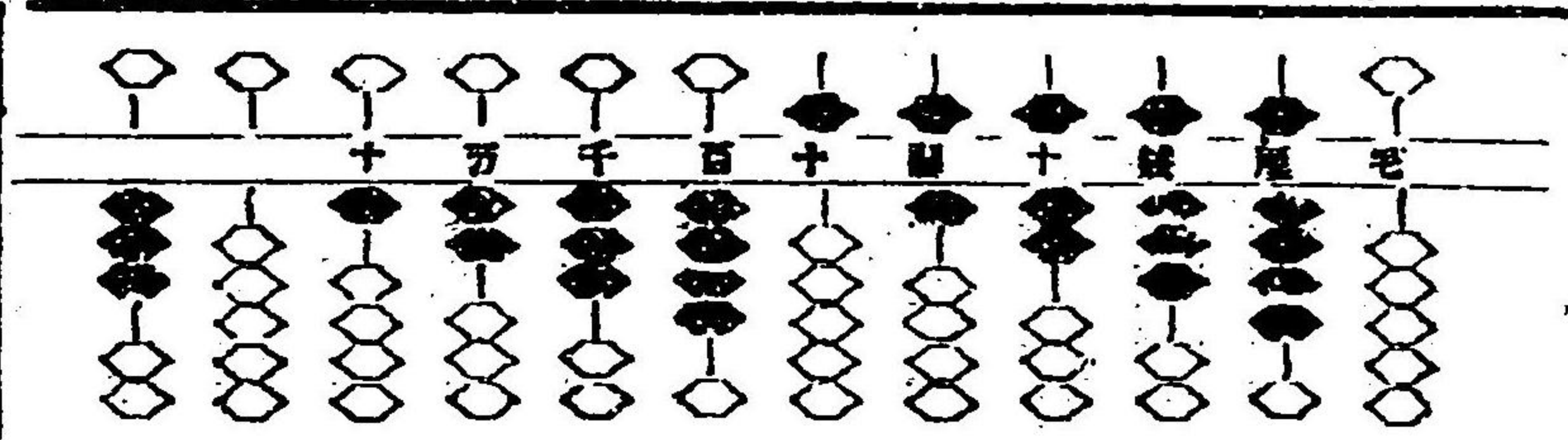
にする。

第二、三八二十四と

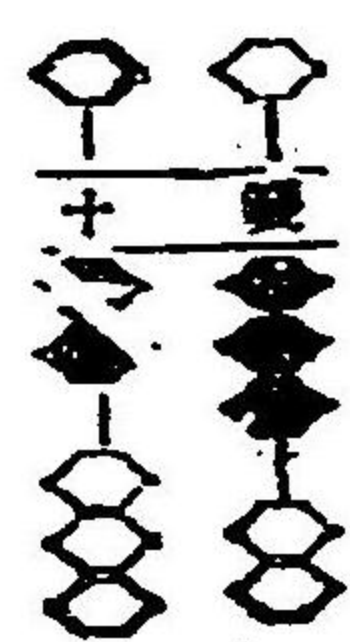


いつて、下圖の通り

にする。

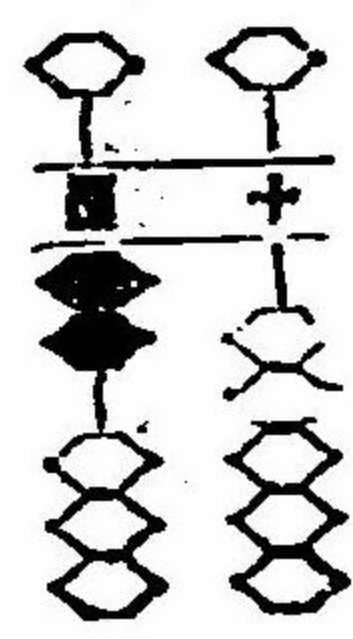


第三、三七二十一といつて



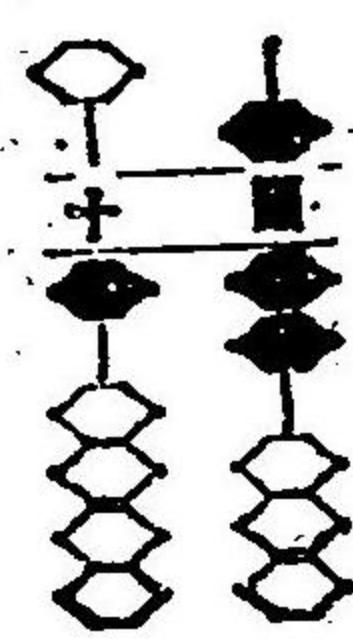
下の圖のやうに布きます。

第四、三六十八といつて



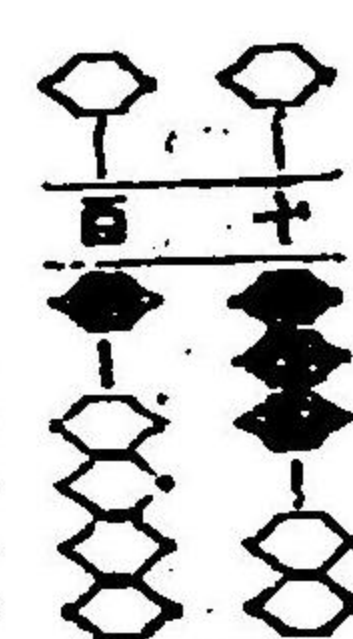
下の圖のやうにします。

第五、三五十五といつて



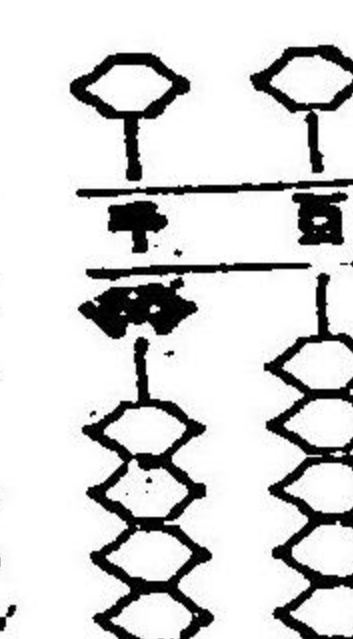
下の圖のやうにします。

第六、三四十二といつて



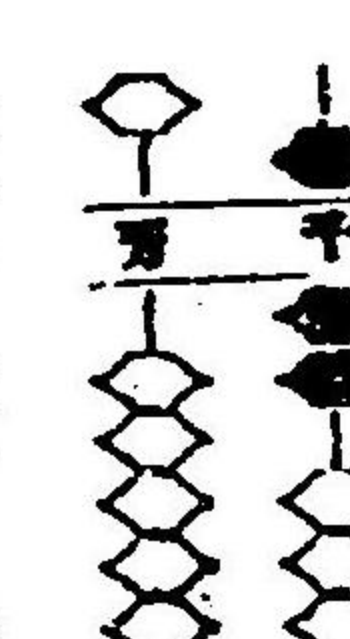
下の圖のやうにします。

第七、二三ケ九といつて

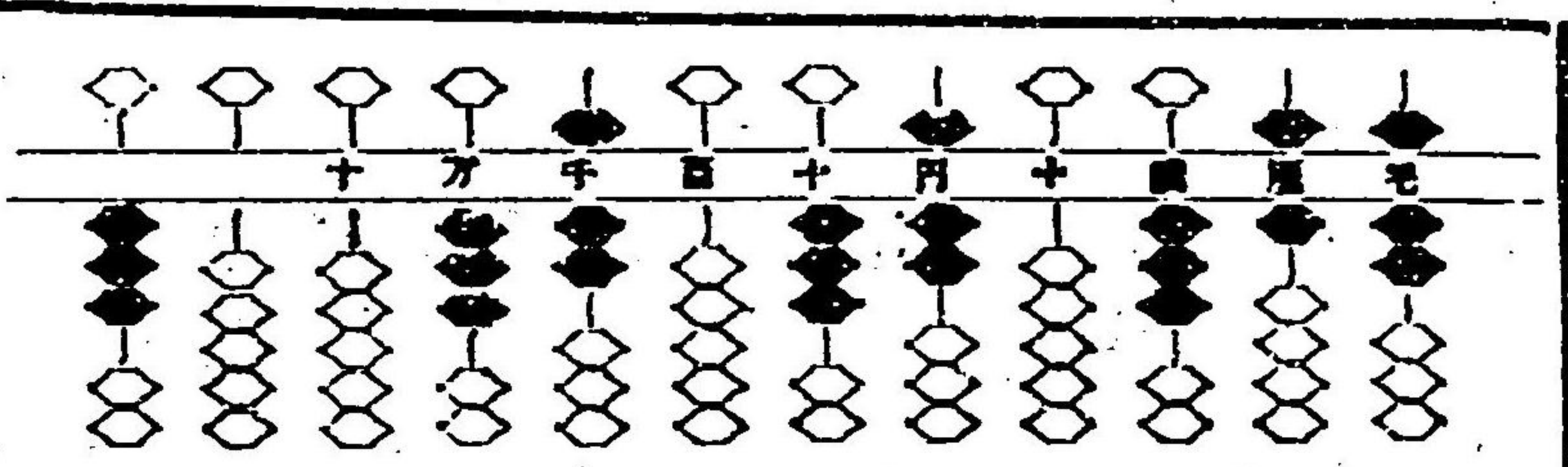


下の圖のやうにします。

第八、二三ケ六といつて

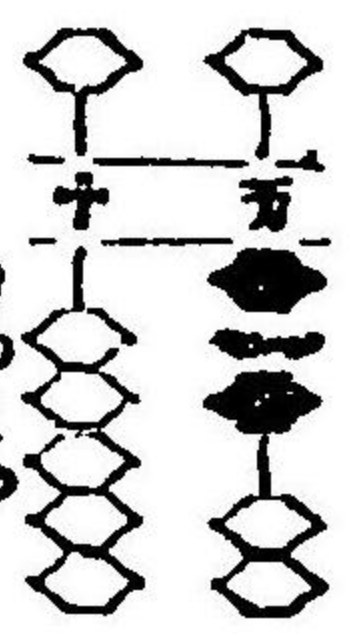


下の圖のやうにします。



四四四

第九、一三ケ三といつて下圖の通りにす、これが出来上つたのである、結果を、上に書いて見ませう

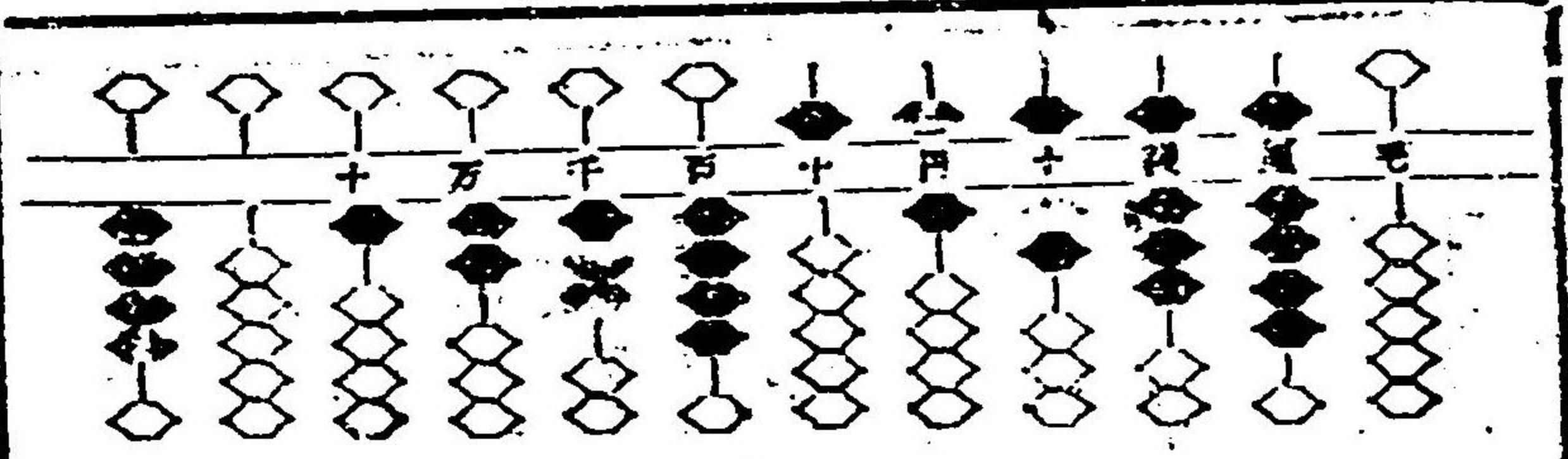


位取は、以前にもいふた通り、毛の位を厘として、凡ての位を取る。

次に四の乗法の説明をしませう

問題 金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘を四倍すれば何程

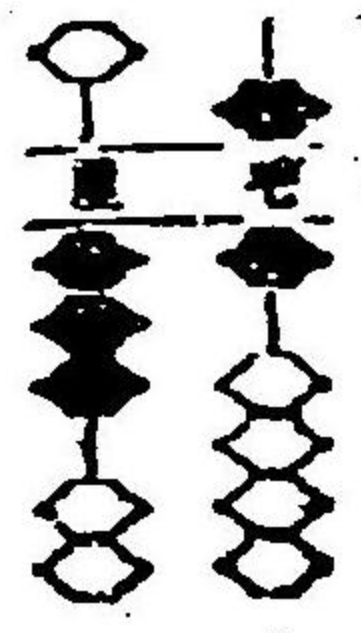
答 四十九万三千八百二十七圓十五錢六



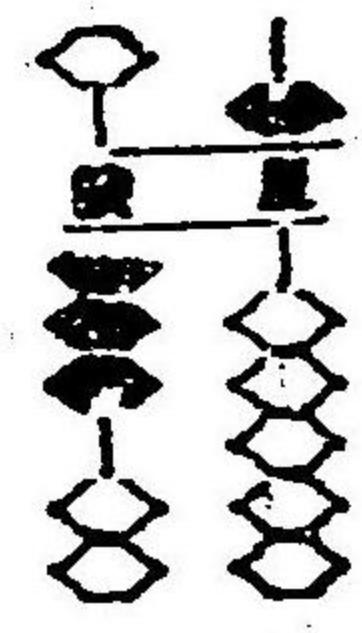
厘

この乗法を左に説明しませう。

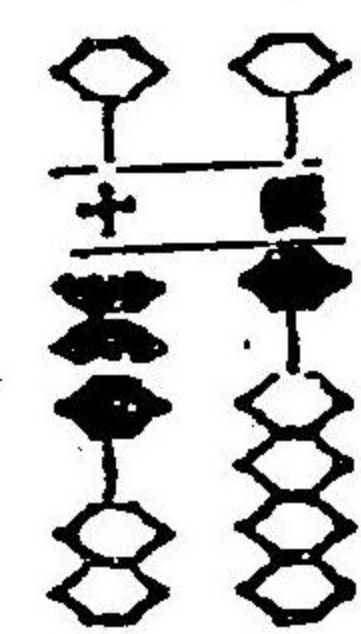
第一、四九三十六といつて下圖の通りにする。



第二、四八三十二といつて下圖の通りにする。



第三、四七二十八といつて下圖の通りにする。



第四、四六二十四といつて、左の圖の通りに

四四五

しまし
す

第五、四五二十といつて左の圖の通り、
にします

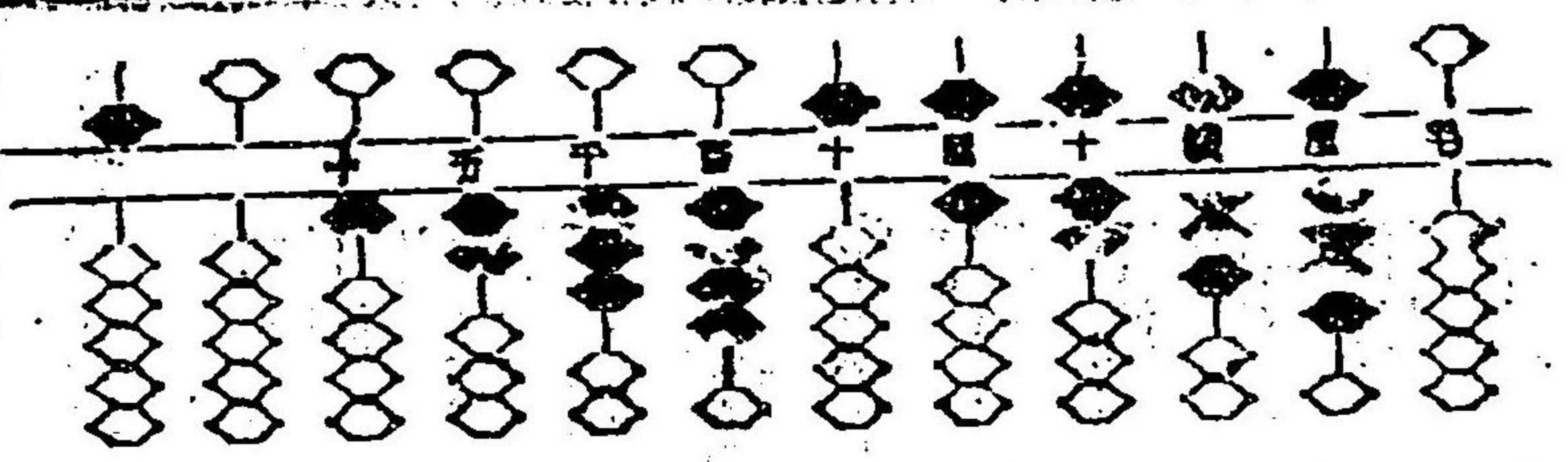
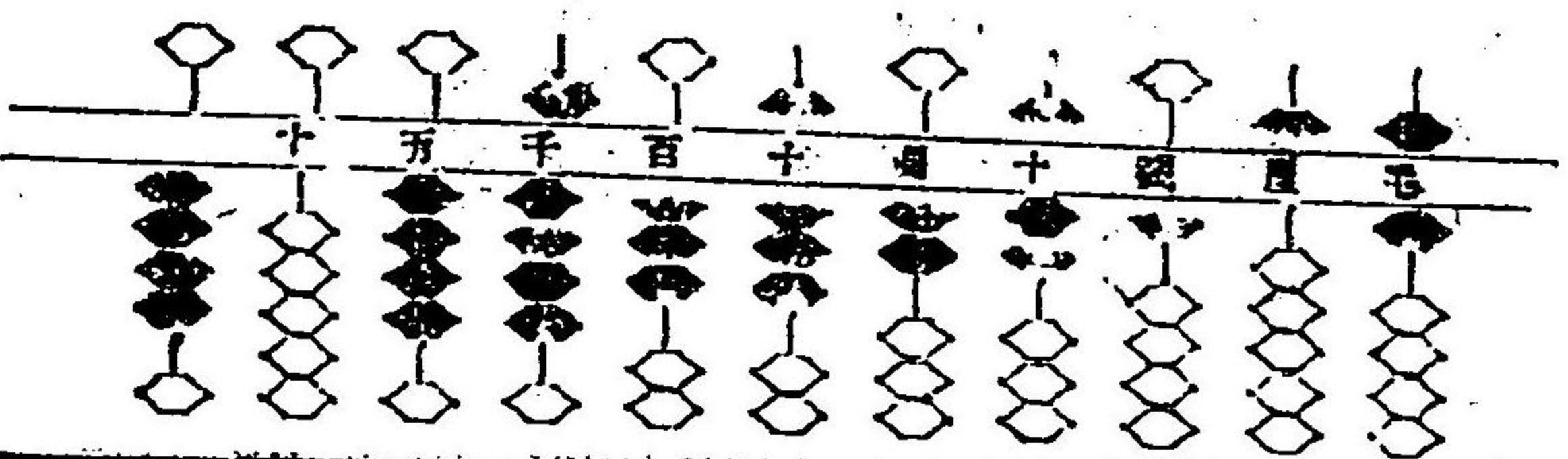
第六、四四十六といつて
下の圖の通りにする、

第七、三四十二といつて
下の圖の通り、

第八、二四ケ八といつて
下の圖の通り、

第九、一四ケ四といつて
下の圖の通りにする、

これは四段の結果であります



これから、五の乗法を説明しませう。

問題

金十二万三千四百五十六
圓七十八錢九厘を五倍す

れば何程

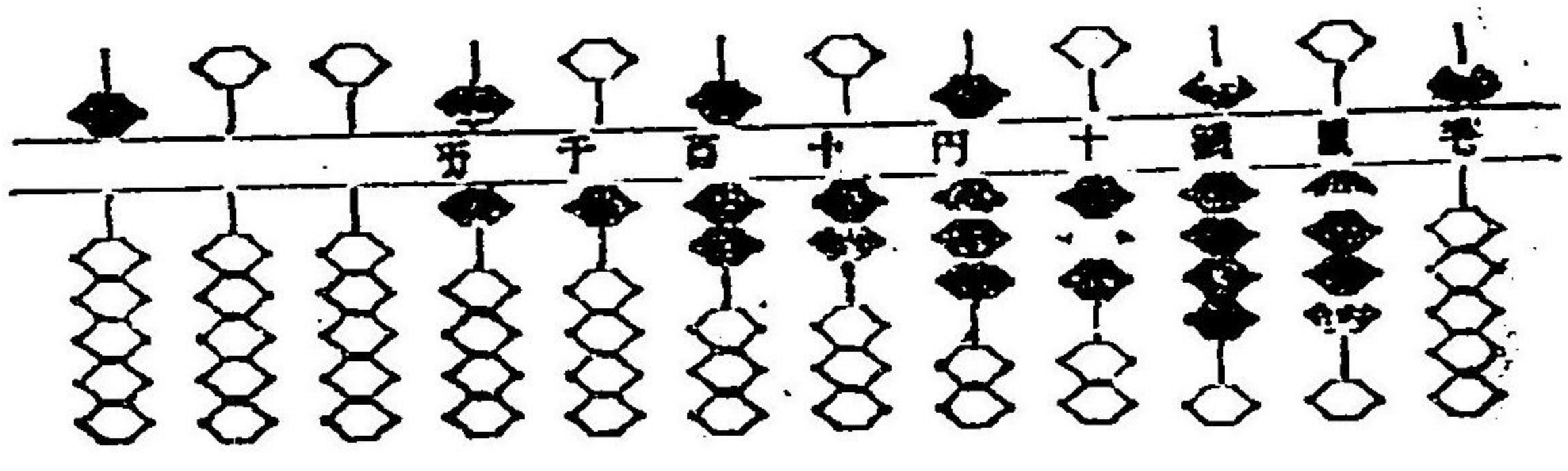
答 六十一万七千二百八十

三圓九十四錢五厘即ち

この下の圖は、五を乗

けた結果を示したもので

である。



さて、乗け方を説明しませう。

第一、五九四十五といつて
下圖の通りにします。

第二、五八四十といつて
下の圖の通りにする。

第三、五七三十五といつて
上の圖の通りにする。

第四、五六三十といつて
下圖の通りする。

第五、五五二十五といつて
下圖の通りにします。

第六、四五二十といつて
上圖の通りする。

これから六の乗法をいたしま
す。

問題 金十二万三千四百五

十六圓七十八錢九厘

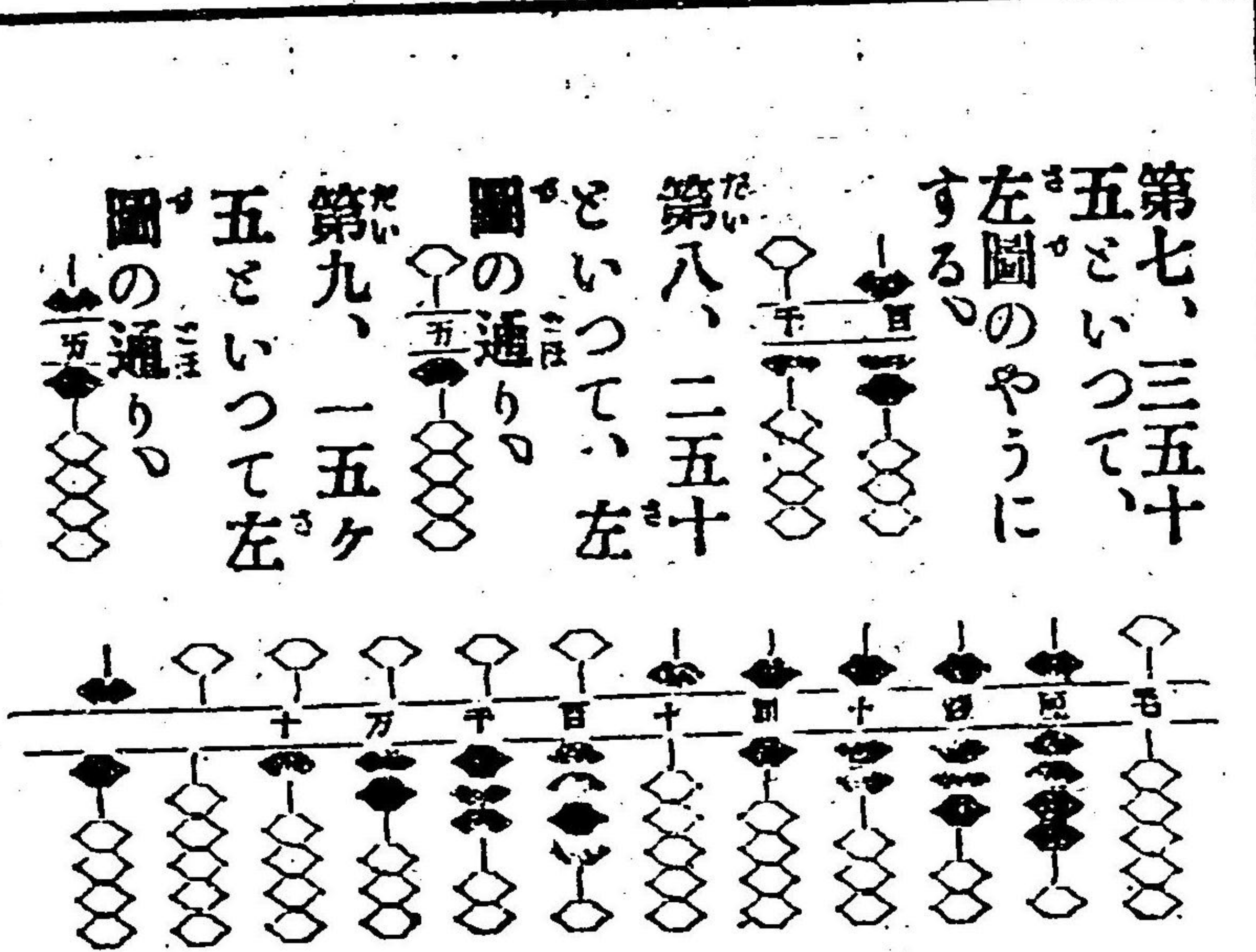
を六倍すれば何程

答 七十四万七百四

十圓七十三錢四

厘

即ち、この次の圖は、六
の乗法をした結果を示し
たものである。



さてその乗け方を説明しませう。

第一、六九五十四といつて
下圖の通りにします。

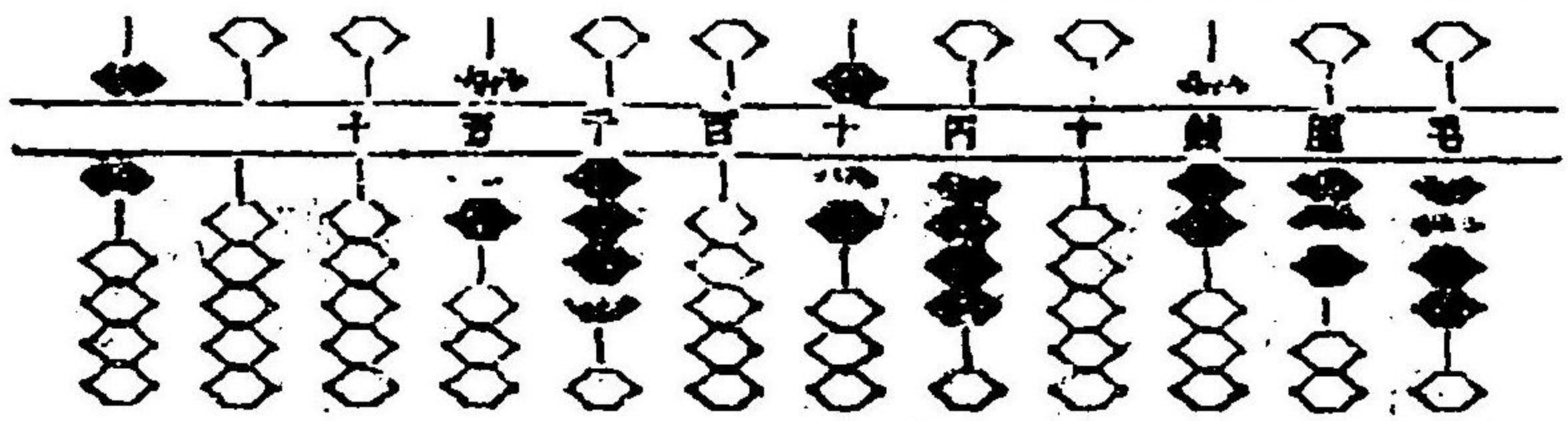
第二、六八四十八といつて
下圖の通りにします。

第三、六七四十二といつて
下圖の通りにします。

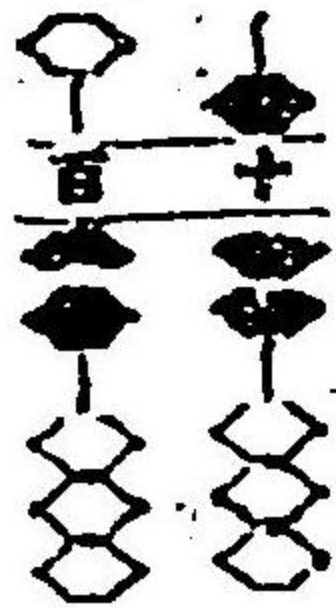
第四、六六三十六といつて、
上圖の通りにする。

第五、五六三十といつて、
下圖の通り。

第六、四六二十四といつて左圖の通りにしま



す



第七、三六十八といつて、
下圖の通り

第八、二六十二といつて
下圖の通りにします。

第九、一六ケ六といつて
下圖の通りにします。

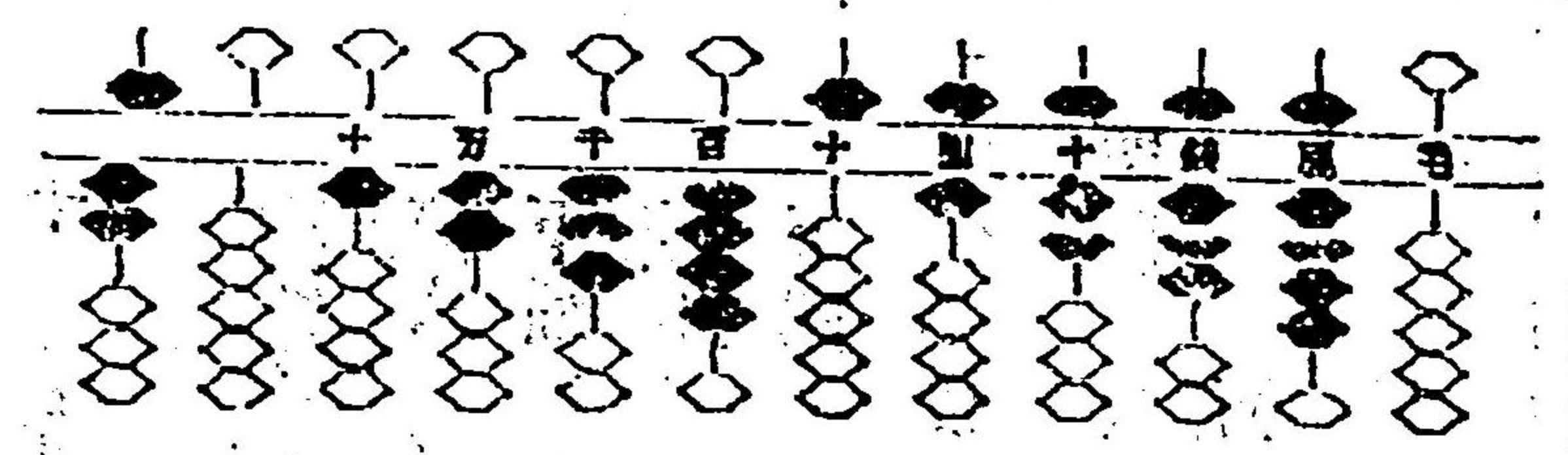
これから七の乗算を説明しませう。

問題

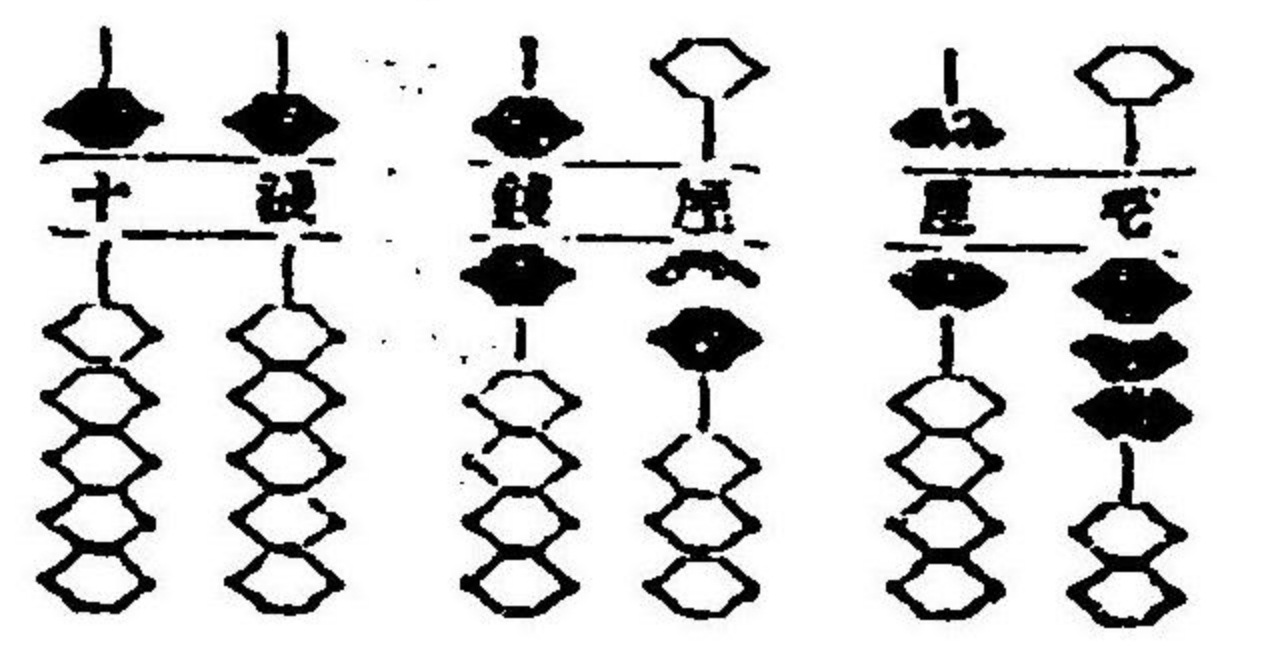
金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘を七倍すれば
何程

答、八十六万四千百九十七圓五十二錢三厘

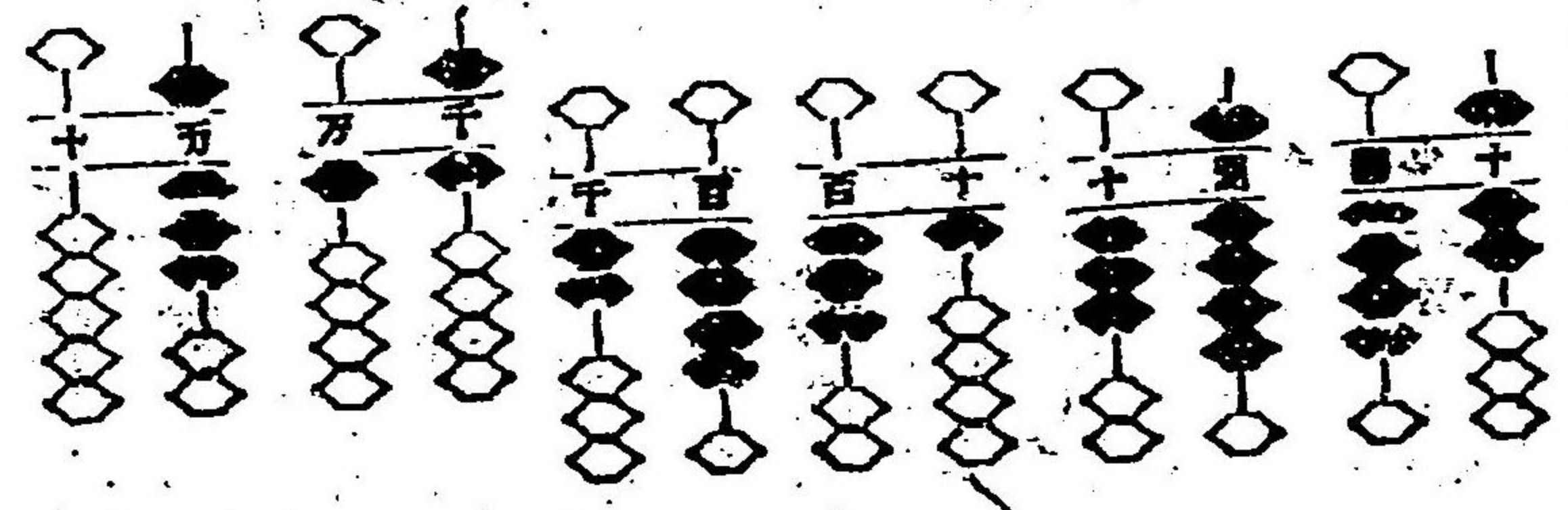
さて、この乗け方を説明しませうか。
 ここで、再び念のために申しませう。
 乗法は、實の一番下の位から乗け始めるのです。
 即ちこの七の段では、法の七と實の九と見て、乗
 け合せるのです。



第一、七九六十三といつて
 下圖の通りにします。
 第二、七八五十六といつて
 下圖の通りにします。
 第三、七七四十九といつて
 下圖の通りにします。



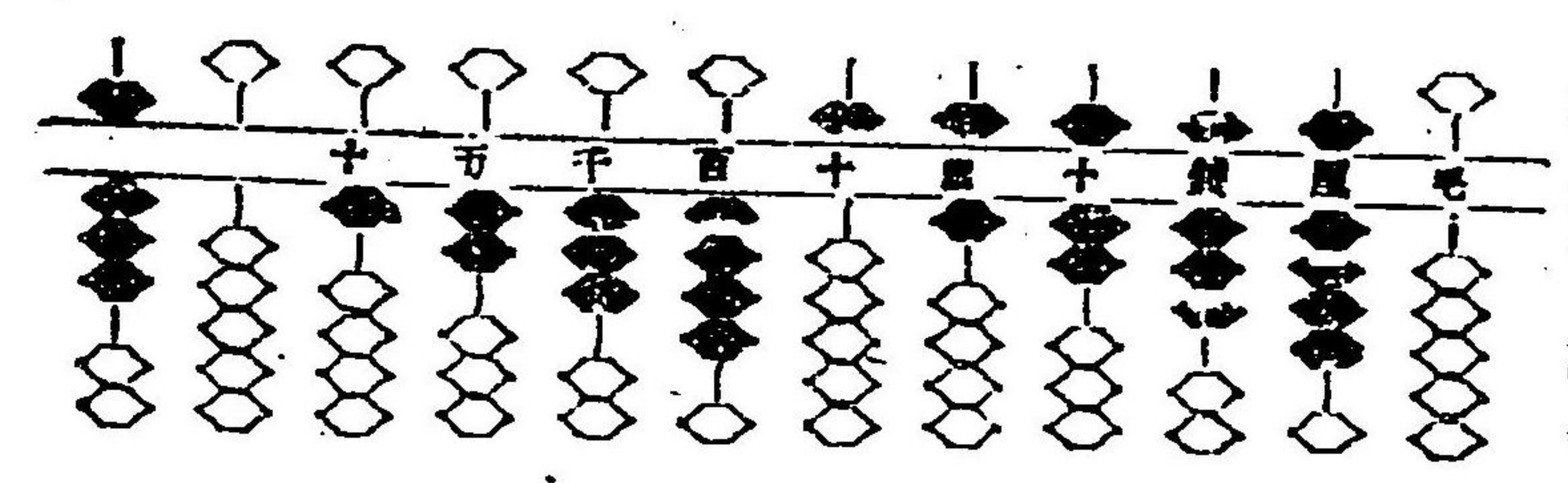
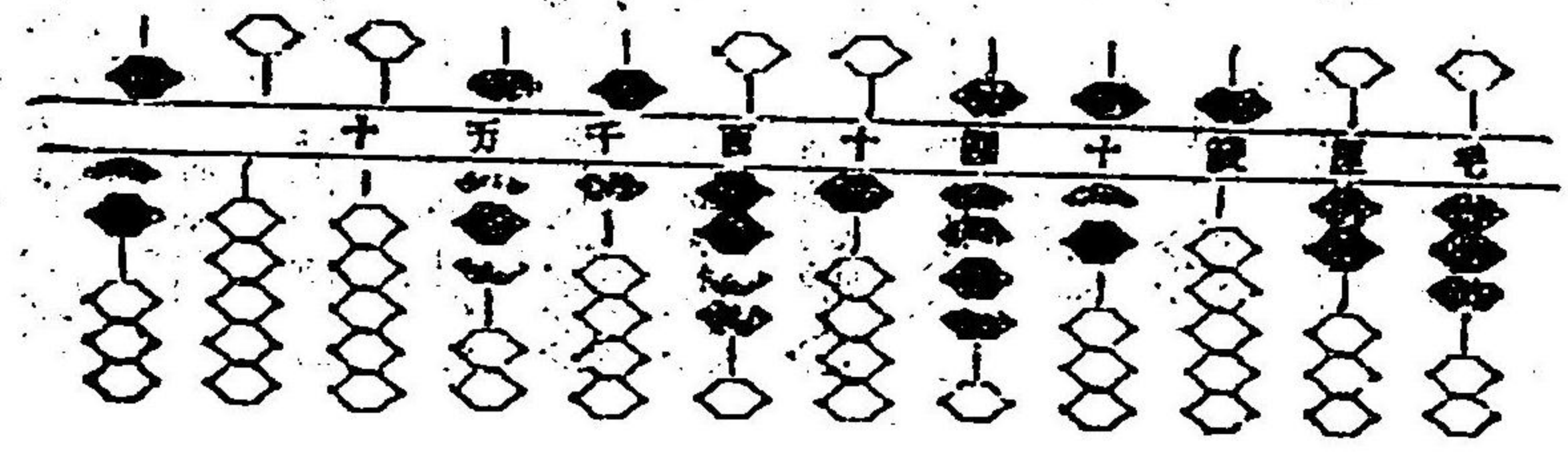
第四、六七四十二といつて
 下圖の通りにいたします。
 第五、五七三十五といつて
 下圖の通りにします。
 第六、四七二十八といつて
 下圖の通りにいたします。
 第七、三七二十一といつて
 下圖の通りにいたします。
 第八、二七十四といつて
 下圖の通りにします。
 第九、一七々七といつて
 下圖の通りにいたします。



これで乗けてしまつたのです。位は、一つ下つたところを、舊の位として、答を求めます。

この位取は、法が二桁になると二つ下つたところが舊の位になるのです。三桁の乘法ならば、三つ下つたところが舊の位です。

これは七段の乗法の結果であります。



これから八の乘法をいたします。

問題 金十二万三千

四百五十六圓

七十八錢九厘

を八倍すれば

何程

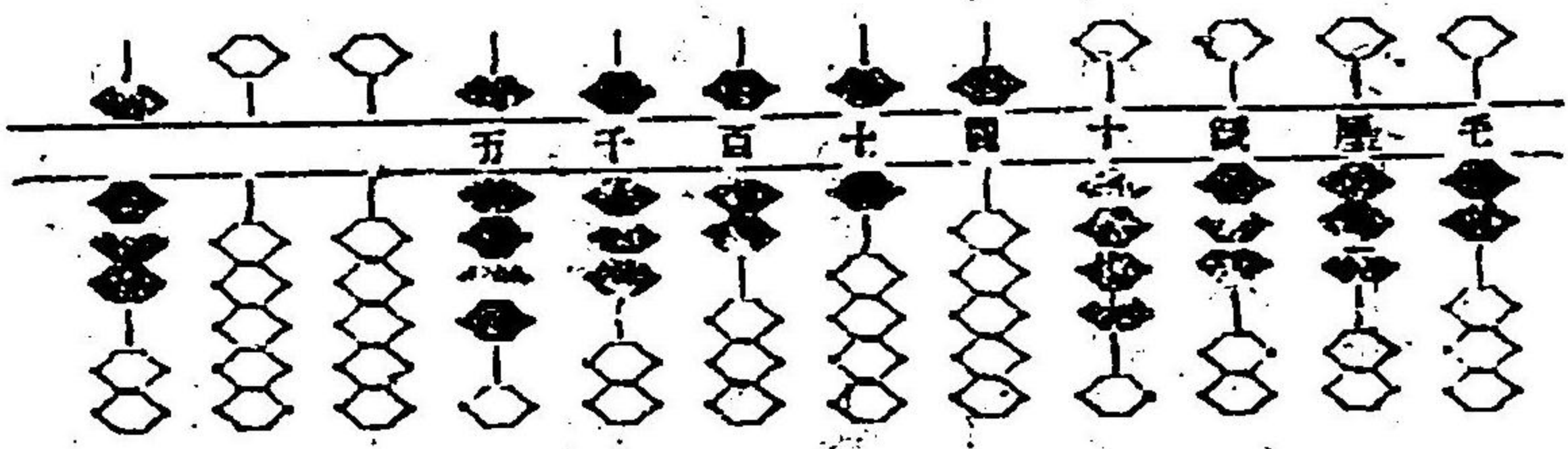
答 九十八万

七千六百五十

四圓三十三錢

二厘

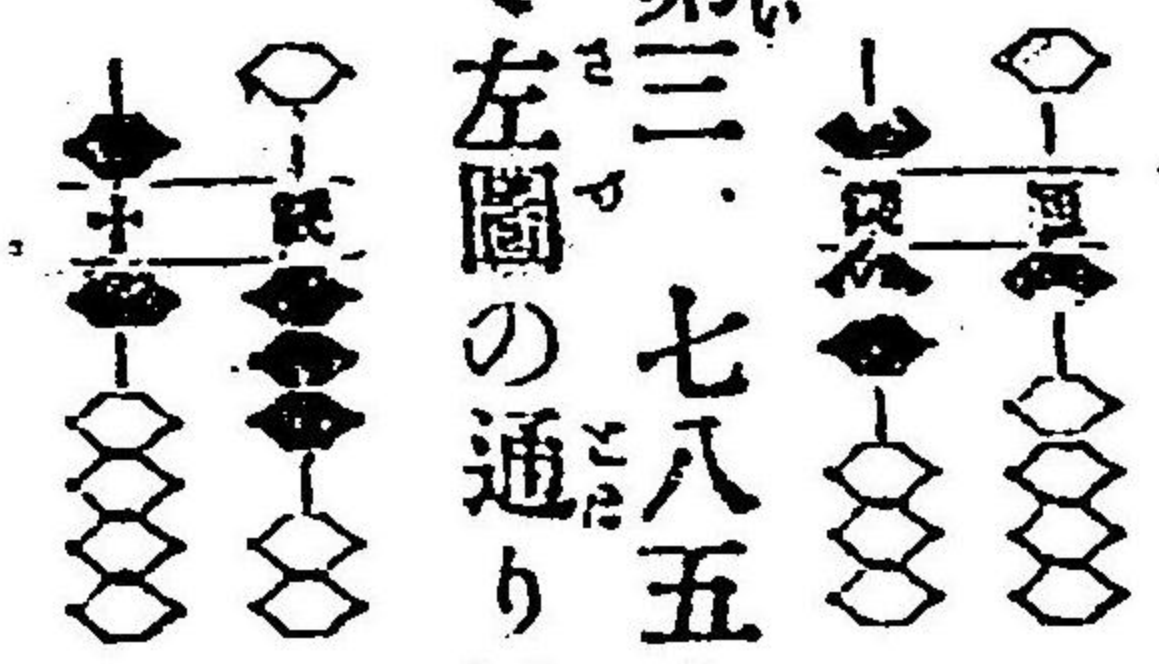
即ち下の圖の通りになります



第一、八九七十二といつて左圖の通りにします。

第二、八八六十四といつて左圖の通りにします。

第三、七八五十六といつて左圖の通りにします。



第四、六八四十八といつて
 下圖の通りにいたします。

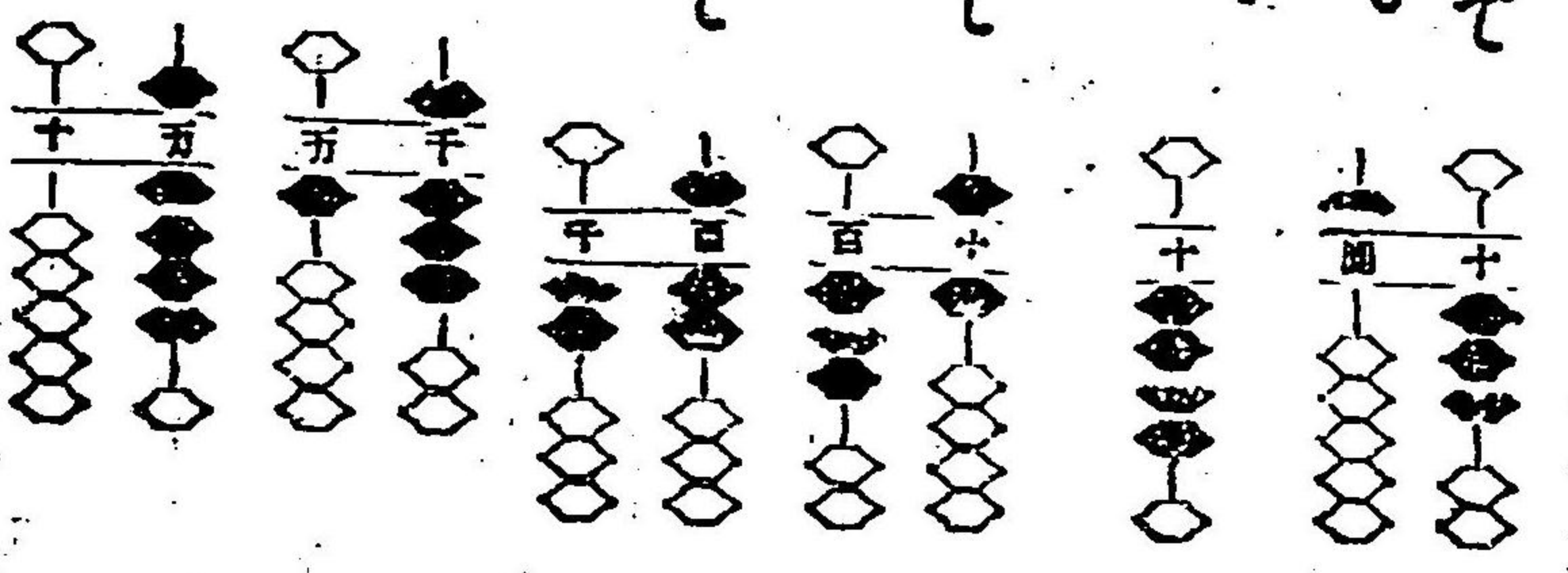
第五、五八四十といつて、
 下圖の通りにいたします。

第六、四八三十二といつて
 下圖の通りにいたします。

第七、三八二十四といつて
 下圖の通りにいたします。

第八、二八十六といつて
 上圖の通りにいたします。

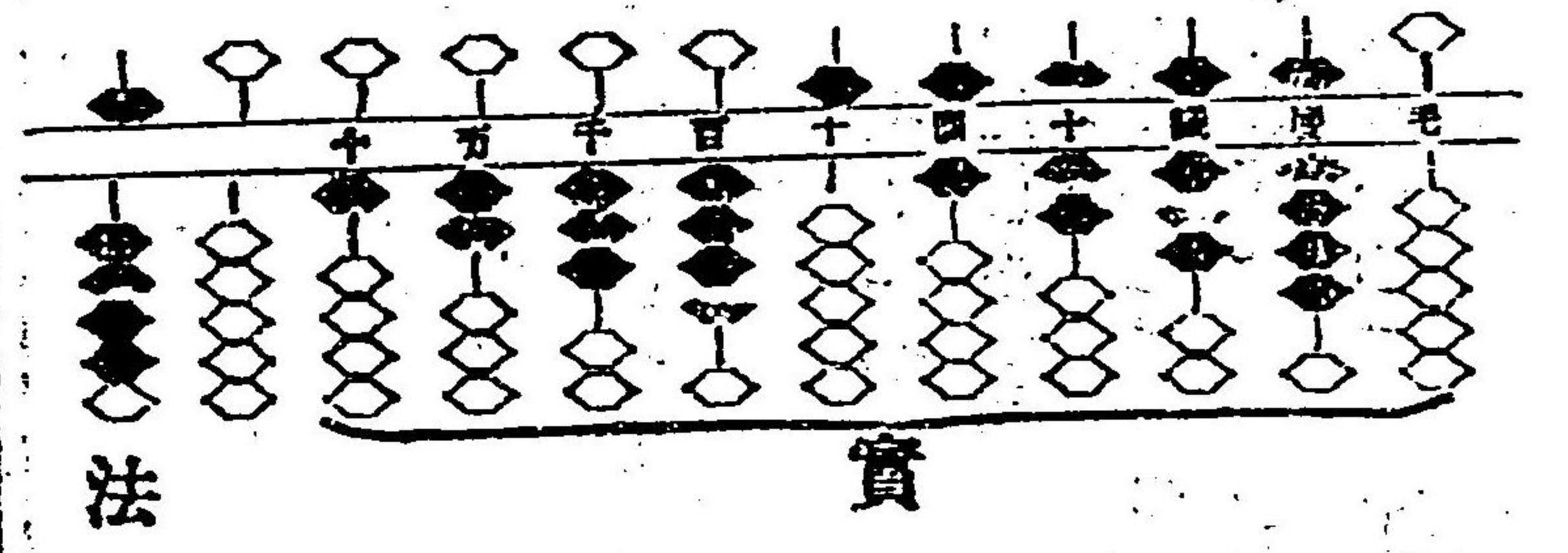
第九、一八ヶ八といつて
 下圖の通りにいたします。



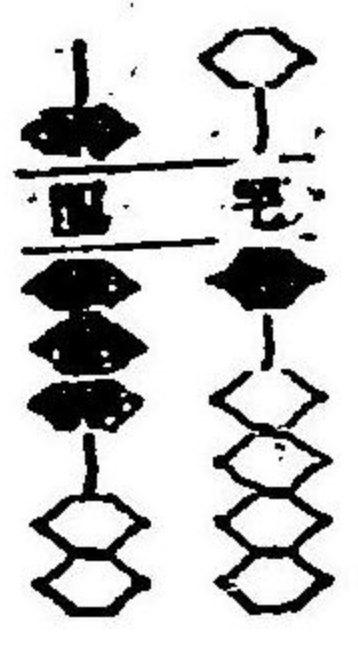
これで、八の段
 も乗けじまいで
 す。

次は九の乘法

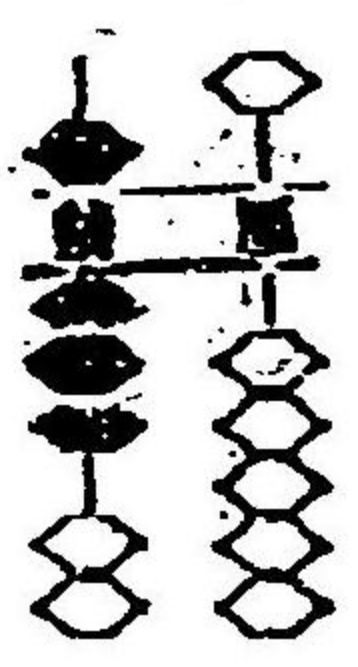
問題 金十二
 万三千四百五
 十六圓七十八
 錢七厘を九倍
 すれば何程
 答 百十一
 万一千百十
 一圓十錢一
 厘



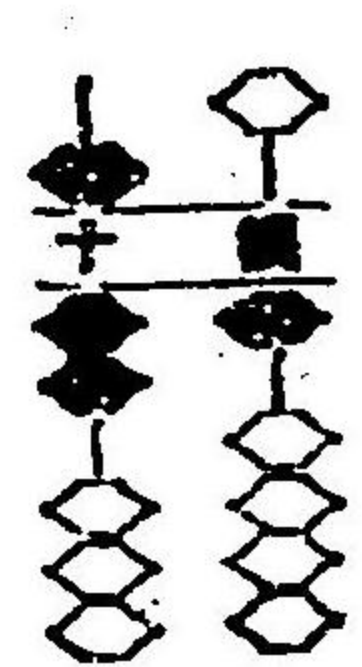
第一、九九八十一といつて
 左圖の通りにいたします。



第二、八九七十二といつて
 左圖の通りにいたします。



第三、七九六十三といつて
 左圖の通りにいたします。



第四、六九五十四といつて
 下圖の通りにします。

第五、五九四十五といつて
 下の通りに布きます。

第六、四九三十六といつて
 圖圖の通りにします。

第七、三九二十七といつて
 下圖の通りにいたします。

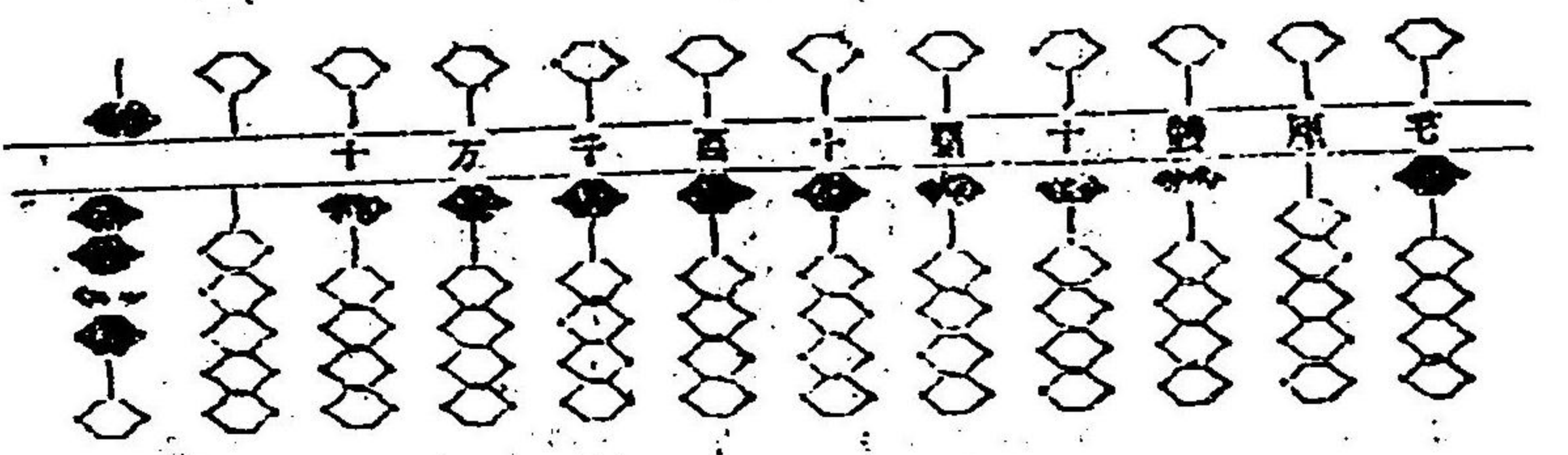
第八、二九十八といつて
 下圖の通りにします。

第九、一九ヶ九といつて
 下圖の通りにいたします。

これにて乗けし
 まつたのであり
 ます。

位は舊の位より
 一つ下つたところ
 から繰ります。
 即ち舊錢の位で
 あつたところが
 十錢、十錢の位
 であつたところが
 一圓の位にな
 るのであります。

これは九
 の段の乗
 法の結果
 を示した
 ものです。



これから二桁の乗法の仕
 方を申しませう。

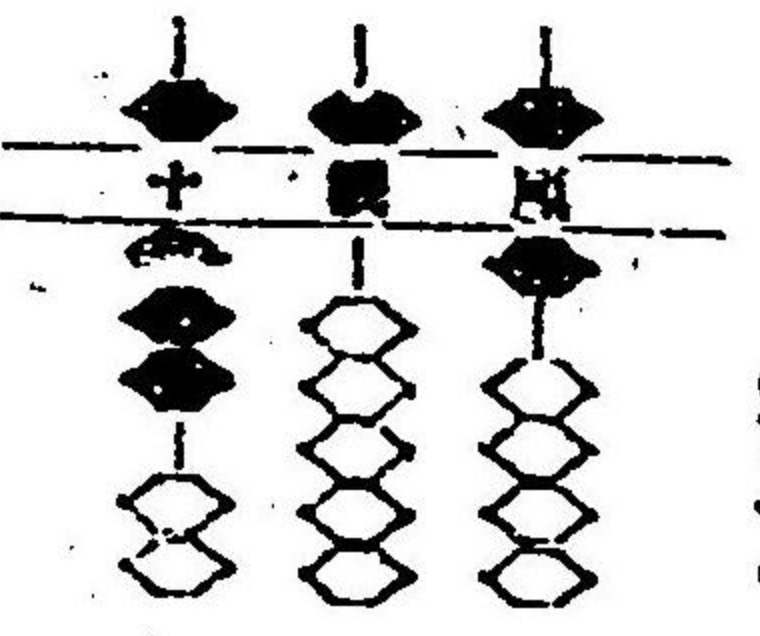
問題 金三百四十八圓
 を六十七倍すれば何程
 答、二万
 三千三百
 十六圓
 即ち上の
 圖の通り
 に布いて
 さて乗け
 合しまし

法 實

よう。

この二桁の乘法は、一桁のやうに手短かには出来ませぬ、よく氣をつけて、説明をお聞きなさい。

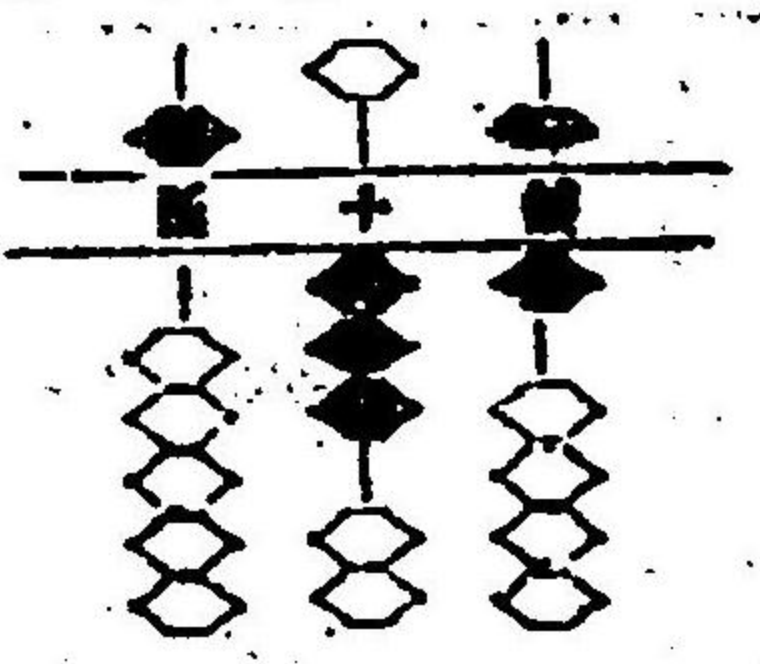
第一、法の下の位の七と實の一番下の位の八と見合せ、七八五十六といつて、次のやうに布く。



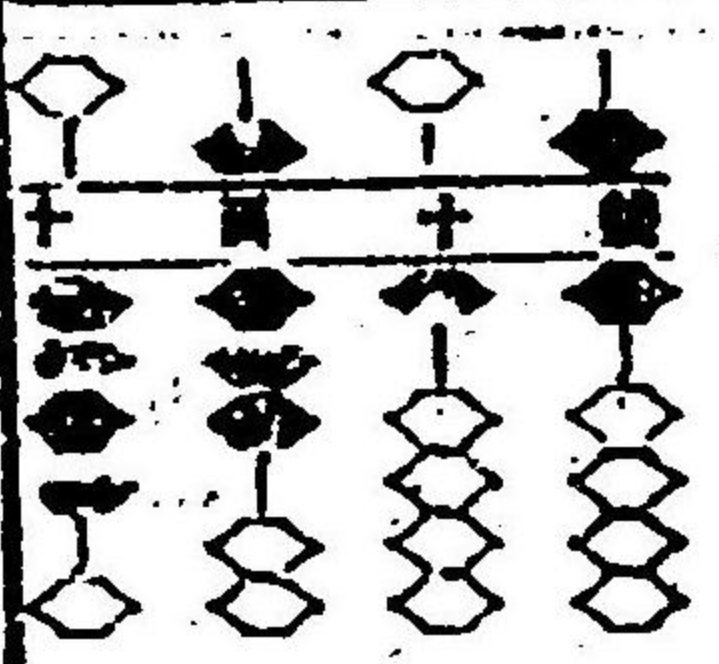
念のために云ふて置く、一桁の時とちがつて、二桁になると、實の一つくに、法を二度かけねばならぬ、委しくいふと實にある、八にも法の六と七を兼ねねばならぬ、四にも六と七を兼ねねばならぬ、三にも六と七を兼ねねばならぬ、そこを、第一に法の下の位の七と、實の下の位の八とを乗けるのですがその布き方は、上の圖の通り、七八五十六といつて、實の

八のある隣の桁即ち下の位に五十六と、圖のやうに布くのです。

第二、法の六と實の八と見合せて、六八四十八といつて、今八のおつたところを、四とし下の位の錢の處へ、八を添へる、即ち、次の圖の通りになります。

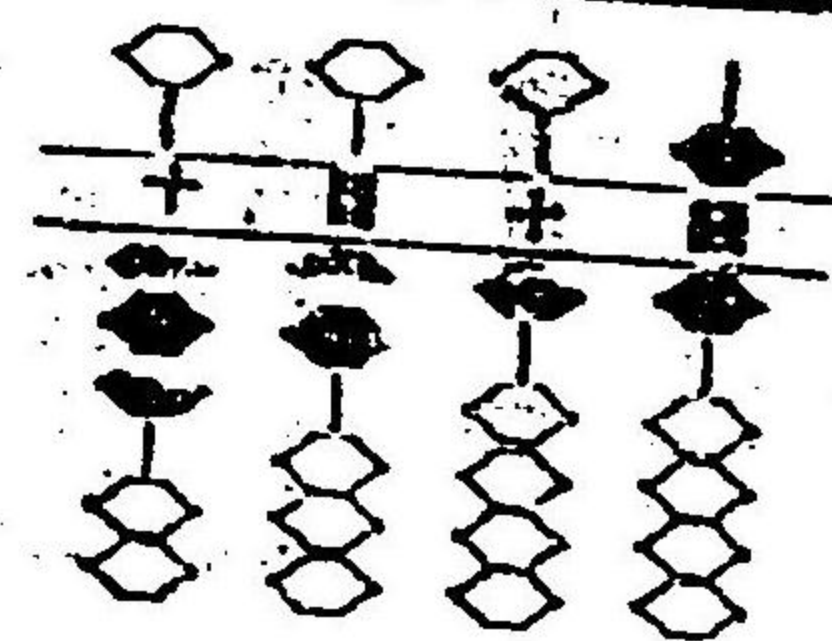


第三、次には法の七と實の四と見合せ、四七二十八といつて、圓の位の處に二、その下の位の十錢の處に八を添へる、即ち、左圖の通りになります。

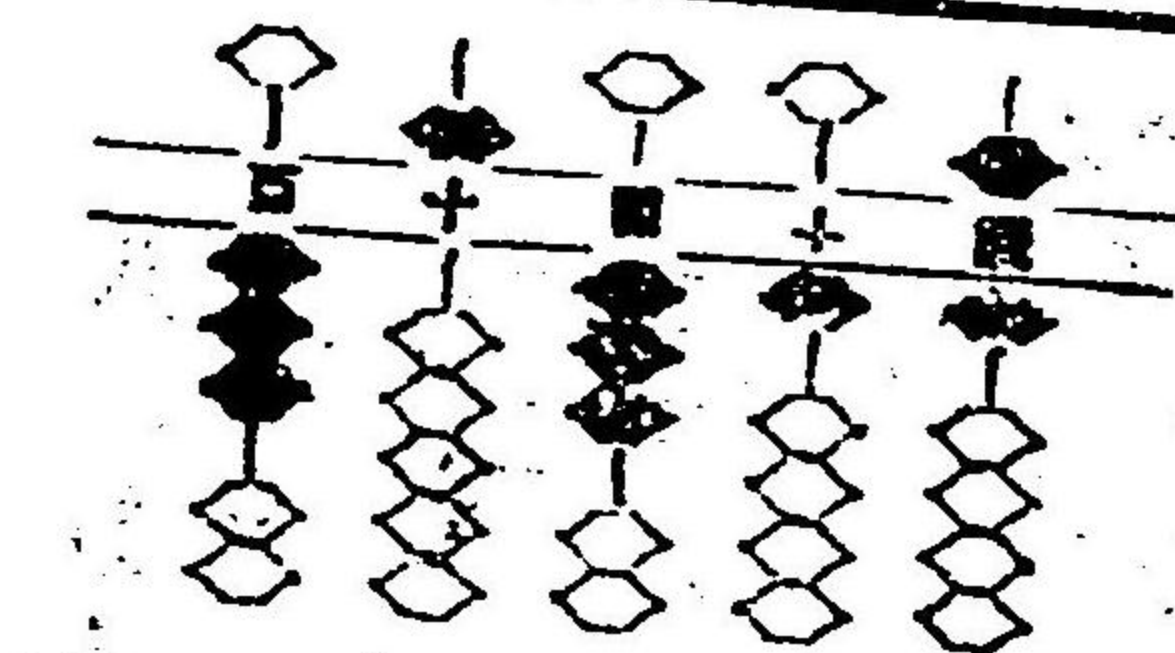


第四、次には法の六と實の四と見合せ、四六二十四といつて、今十圓の位の處にある四を二に改め、次の圓の位の處に四を添へる、即ち左圖の通り

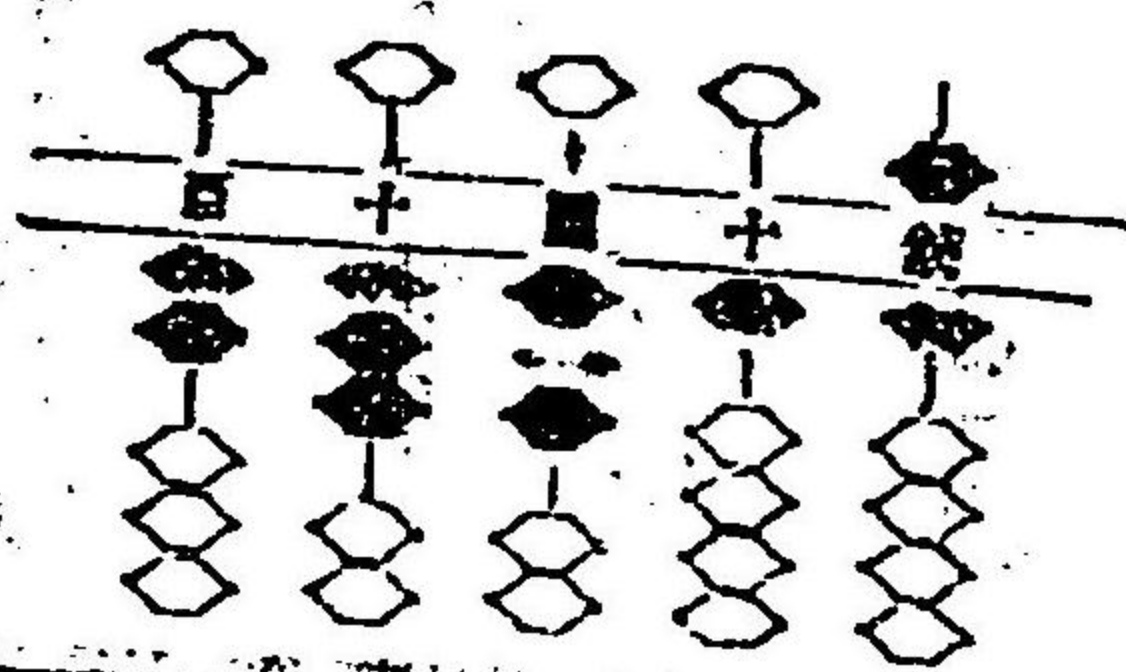
りになる。



第五、次には法の七と實の三とを見合せ、三七二
十一といつて、十圓の位の處に二、圓の位の所に
一を加へます。その布き方は次の上の圖を御覽な
さい合點がいくでせう。



第六、次には、法の六と實の三とを
見合せ、三六十八といつて、百圓の
位にある三を一に改め、次の十圓の
位の處へ、八を加へる、即ち下圖の
通りにします。



これで凡て乗けてしまつたのであります。
所で、この位を取るのには、以前圓であつたものは、それより二
つ下つた所、即ち錢の所を舊の圓の位とするのです、よつて、
錢の位の所を圓と定めて、十、百、千、万と繰り、二万三千三
百十六圓と答へる、これで二桁の乘法は、分つた筈です、三桁
四桁になつても、この仕方を應用すれば宜いのです、即ち、三
桁であれば法にある三つの數を、實にある數に三度かける、四
桁であれば法にある四つの數を實にある數に、四度かけるので
あります、そして位取は、三桁であれば、三つ下つた所、四桁
であれば、四つ下つた所が、即ち舊の位であります。
次は除法の仕方を説明いたしませう。

除法

除法では、除られる数を、實又は被除数といひ、除る数を、法又は除数といひ、除つて出て来た数を、商といひます。左に問題を出して、除り方の仕様を申しませう。

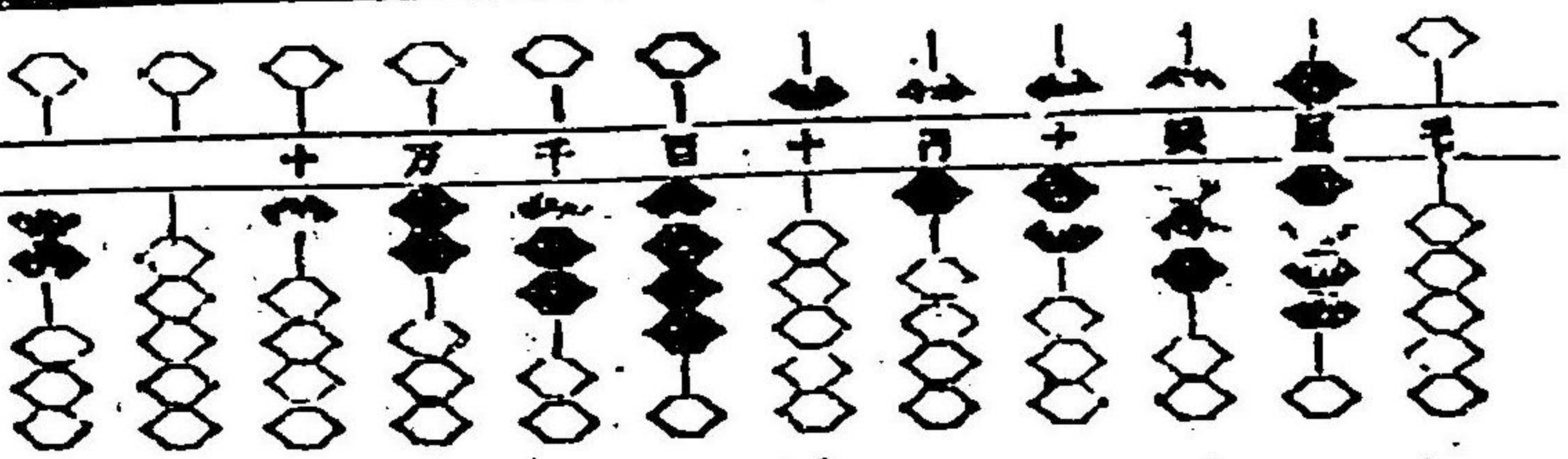
問題 金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘を二で割れば
何程

答 六万千七百二十八圓三十九錢四厘五毛

この次にある圖の通りに、法と實とを布き、割りにかゝります。

除法は、乘法とちがつて、實の一番上の位から、除りはじめます。

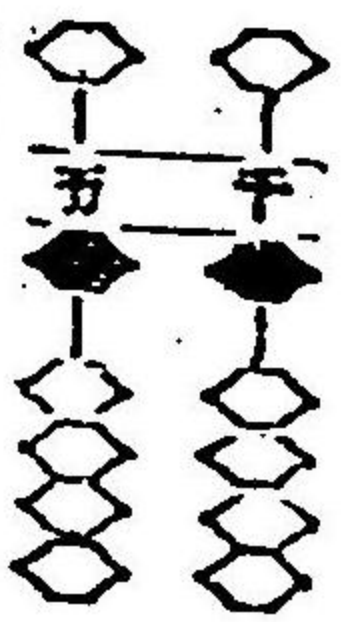
す、即ちの



第一、法の二と實の一とを見、二一添作五といつて、實の一の所を、五にします。即ち十の中には、二が五つあるといふことです。その仕方は下の圖の通りです。

第二、法の二と實の二とを見て、二進の一十といつてその二を取つて、上の位に二を加へます。下の圖の通り。

第三、法の二と實の三とを見て、二進の一十といつてその三の中から二を取り、上の位に一を加へます。即ち、次圖の通りにします。



第四、もう一度、法の二と實の三の所にある一とを見合せ
二一添作五といつて、その一を五にします、即ち、下圖の
通り、

第五、次には法の二と實の四とを見合せ、四進の二十とい
つて、實にある四を取り、上の位に二を加へます、この四
進の二十といふのは、二進の二十を二度すると同じこと
です、その仕方は


第六、法の二と實の五と見合せ、四進の二十といつて、
その五の中から四を取り、上の位に二を加へる、即ち、下圖







の通りに
します、
第七、もう一度、法の二と實の五の所に残つてゐる一とを
見て、二一添作五といひ、その一を五にします、即ち、下
の圖の通りです、

第八、次には法の二と實の六とを見合せ、六進の三十とい
つて、實の六を取り、上の位に三を加へます、即ち二進の
一十を三度したのと同じことです、


第九、次には法の二と實の七とを見て、六進の三十といつ
て、その七の中から六を取り、上の位に
三を加へる、即ち、下の圖の通りです、

第十、次には、もう一度、法の二と、實の七の所に残つた
一とを見合せ、二一添作五といつて、その一を五にします
即ち下の圖に示す通りです 

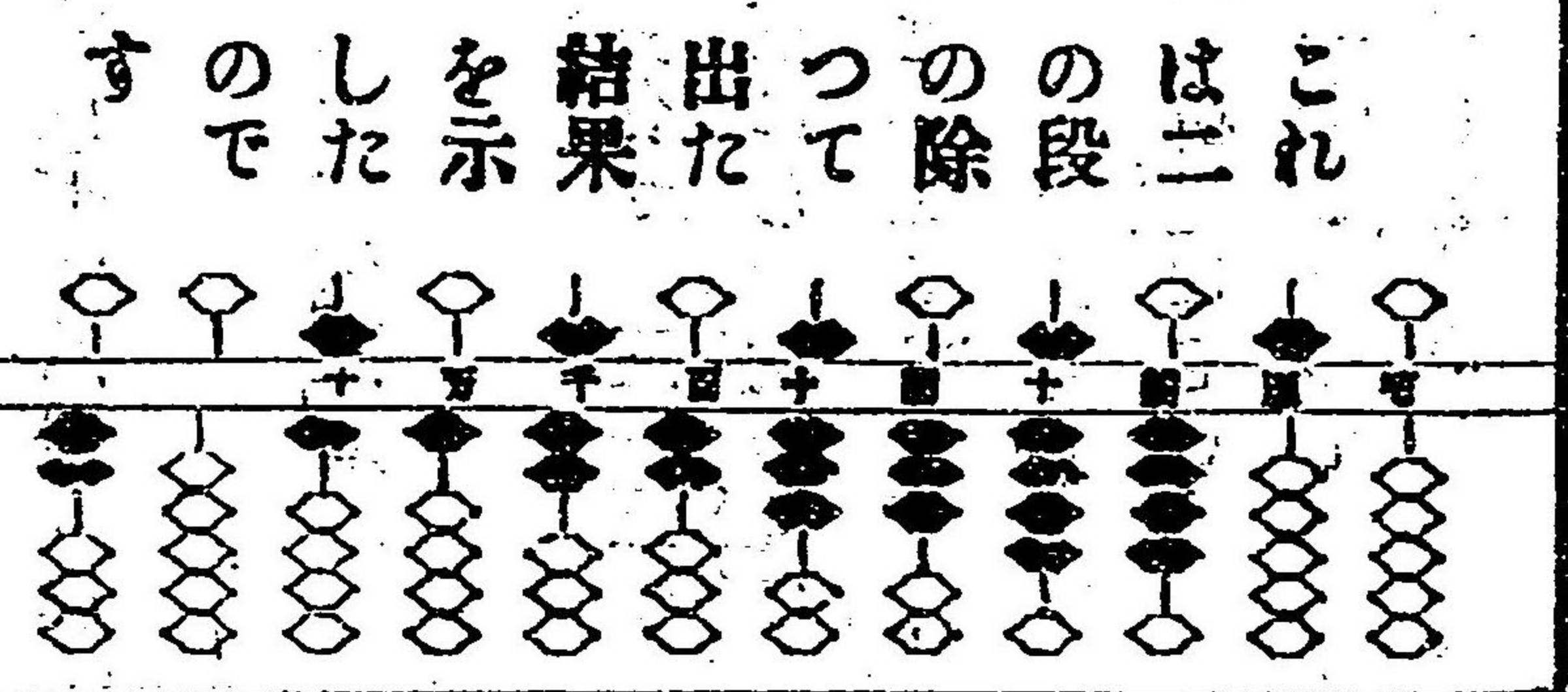
第十一、次には法の二と實の八とを見合せ、八進の四十と
いつて、その八を取り、上の位に四を 
加へます、即ち下の圖の通りです、 

第十二、次には法の二と實の九とを見合せ、四進の二十と
いつて、その九の中より八を取り、上の位に四を加へます
即ち、下圖の通り 
りにいたします 

第十三、次には、もう一度、法の二を以て、實の九の所に
残つてゐる一を割ります、即ち二一添作五といつて、その

一を五にします、その仕方は左の圖の
通り 

これで除つてしまつたのです。
さて、位取はドウするかといふに、一桁の
乗法の時には、一つ下つた所が舊の位であ
つた、その反對で、一桁の除法の時は、一
つ上つた所が舊の位であります、即ち除つ
て出た數の、錢の位にあるのは厘の位で、
十圓の所にある數は圓の位の數です。

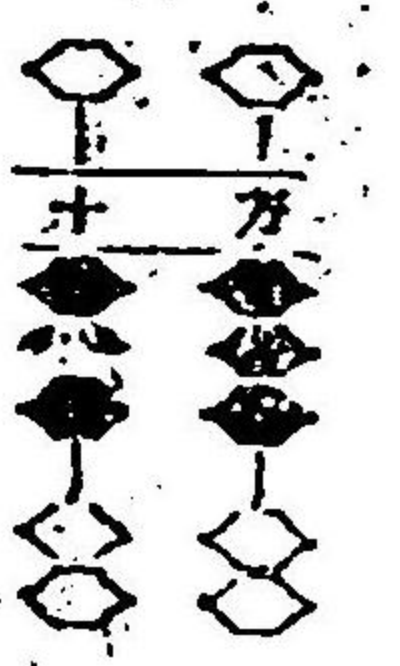
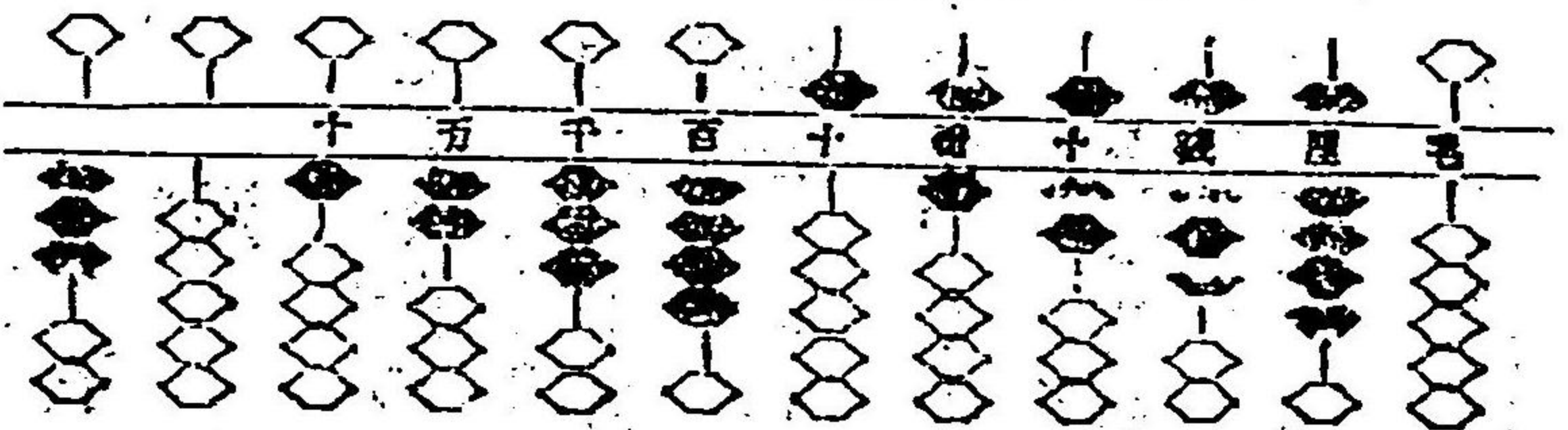


問題 金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘
を三で割れば何程

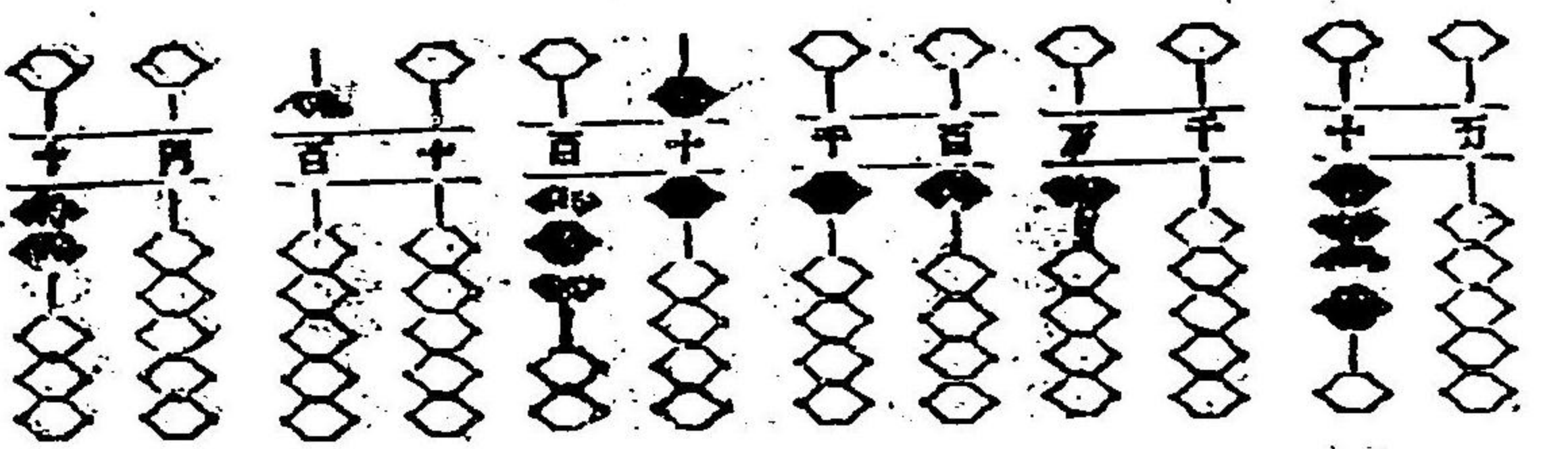
答 四万千百五十二圓二十六錢三厘

この除法を左に説明しませう。

第一、法の三と實の一とを見合せ、三十三十
一といつて、實の一の所を三にし、次の位に
一を加へます。三十三十一といふことは、十
の中に三が三つあつて一残るといふことです
さて、この布き方は次の圖を御覽なさい。



第二、三進の一十といつて
次の圖のやうにします。



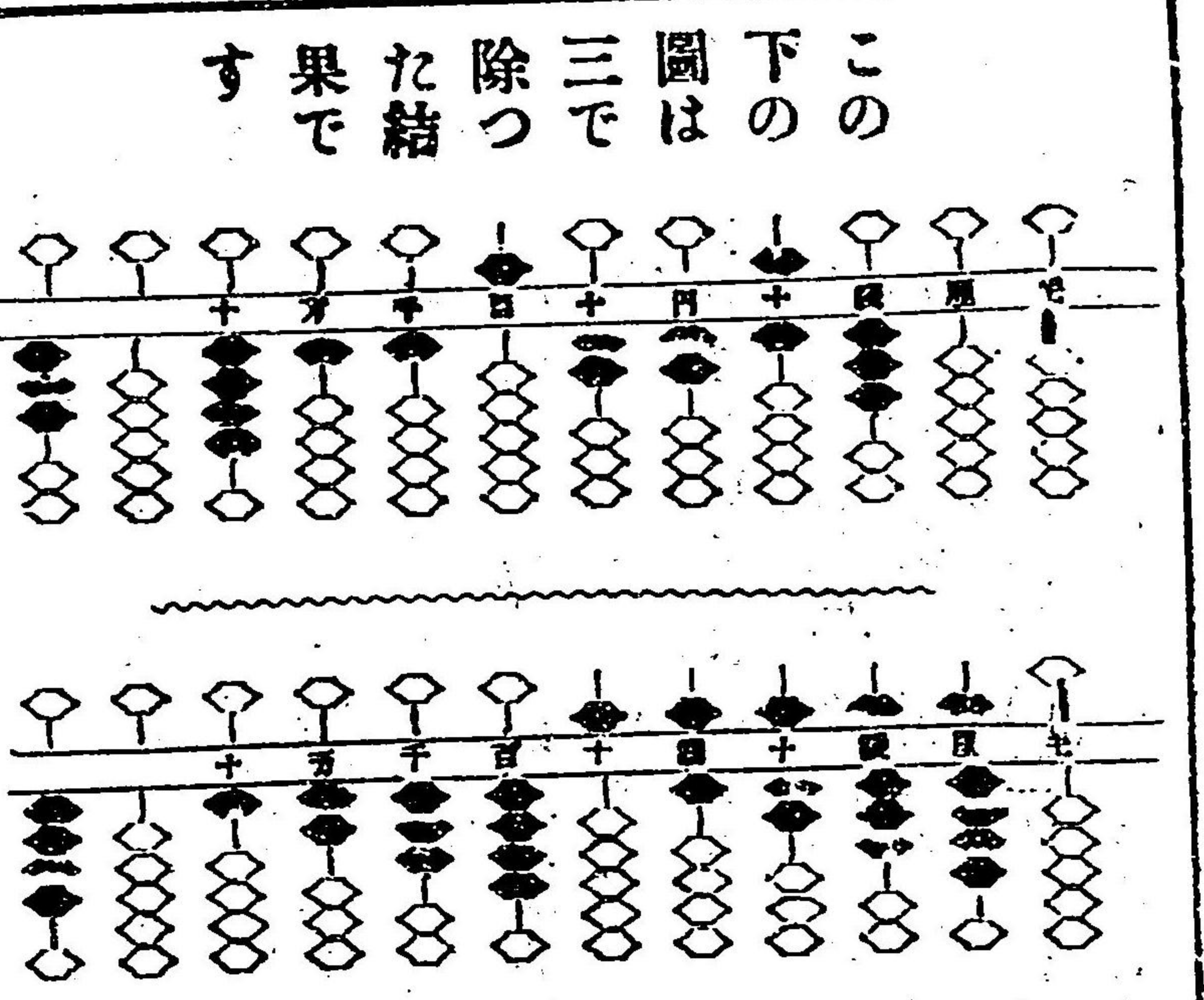
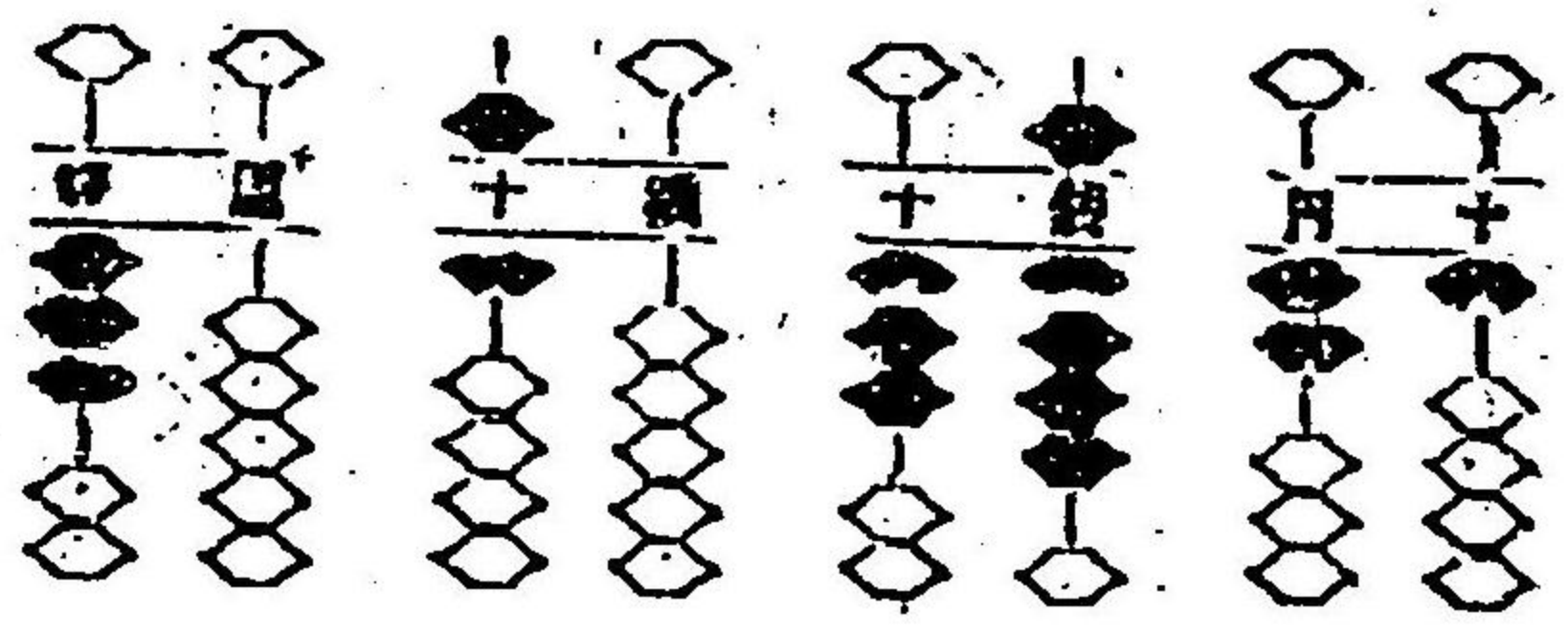
第三、三進の一十といつて
次の圖のやうにします。
第四、三進の一十といつて
次の圖のやうにします。
第五、三三三十一といつて
次の圖のやうにします。
第六、六進の二十といつて
次の圖のやうにします。
第七、六進の二十といつて
次の圖のやうにします。
第八、六進の三十といつて
次の圖のやうにします。

第九、三三三十一といつて
 次の圖のやうにします。

第十、九進の三十といつて
 次の圖のやうにします。

第十一、九進の三十といつて
 次の圖のやうにします。

これで除つてしまつたのです。三三三十一といふのは、十の中に三が三つと外に一が残るといふことです。六進の二十は、三進の二十を二度したのと同じこと、九進の三十は三進の二十を三度したのと同じことです。



問題

金十二万三千四百
 五十六圓七十八錢
 九厘を四で割れば
 何程

答 三万〇八百三
 十四圓十九錢
 六厘二毛五絲

この除法の仕方を左に申し
 ませう。

第一、法の四と實の一
 とを見合せ、四一二十
 二といつて、實の一の
 ところを二とし、次の

この下の圖は三で除つた結果です

位に二を加へます、四一二十二といふことは、十の中に四が二つと、そして二が残るといふことです。次の圖を御覽なさい。

第二、四進の二十といつて

次の圖のやうにします。

第三、四三七十二といつて次の圖のやうにします、四三七十二とは、三十の中に四が七つ

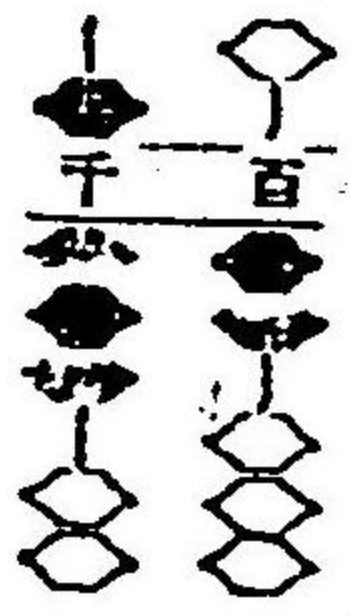
と二残るといふことです。

第四、四進の二十といつて

次の圖のやうにします。

第五、四二添作五といつて

次の圖のやうにします。



第六、四進の二十といつて、次の圖のやうにします。

第七、四二二二といつて

次の圖のやうにします。

第八、八進の二十といつて

下圖の通り

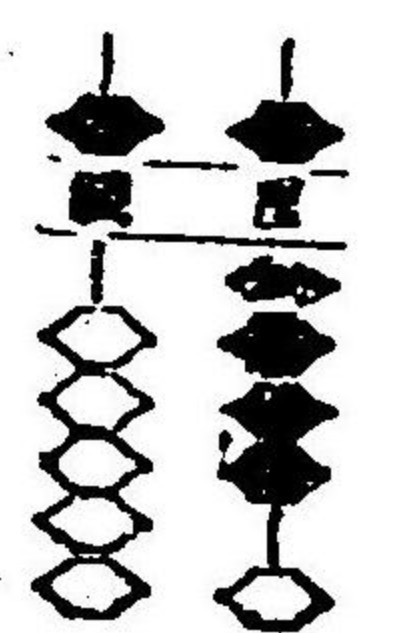
第九、四進の二十といつて

下圖のやうにいたします。

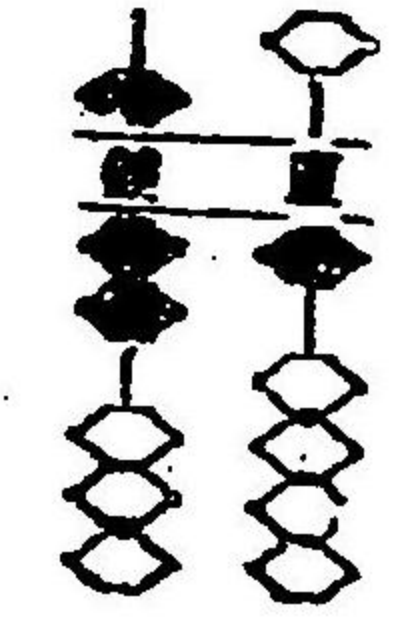
第十、四三七十二といつて

下圖のやうにします。

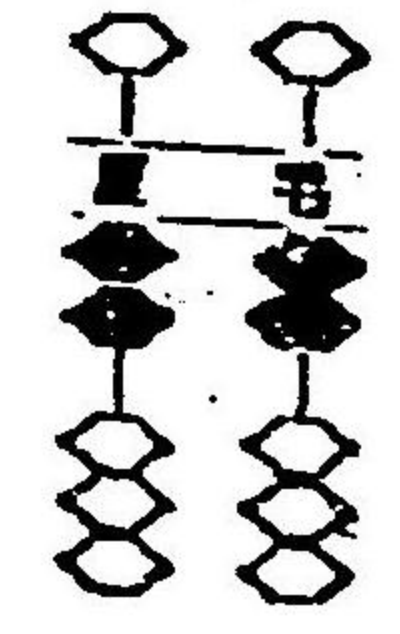
第十二、四二添作五といつて
下の圖のやうにします。



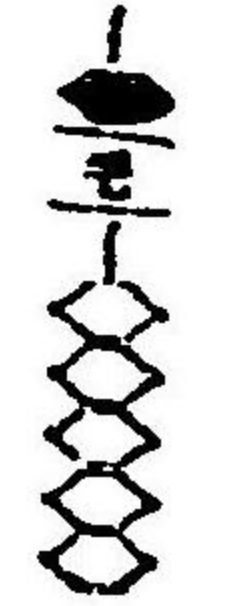
第十三、八進の二十といつて
下の圖のやうにいたします。



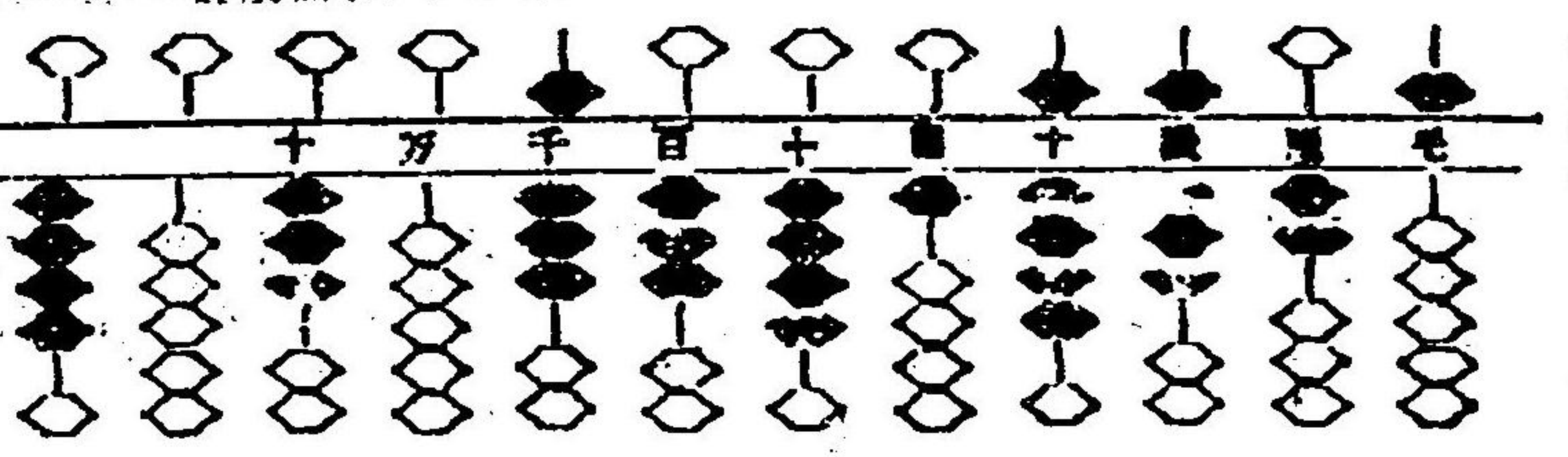
第十四、四二二二といつて
下の圖のやうにします。



第十五、四二添作五といつて
下の圖のやうにします。



これで、凡て除りつくしたのです、位は一つ下つたところが舊の位です。

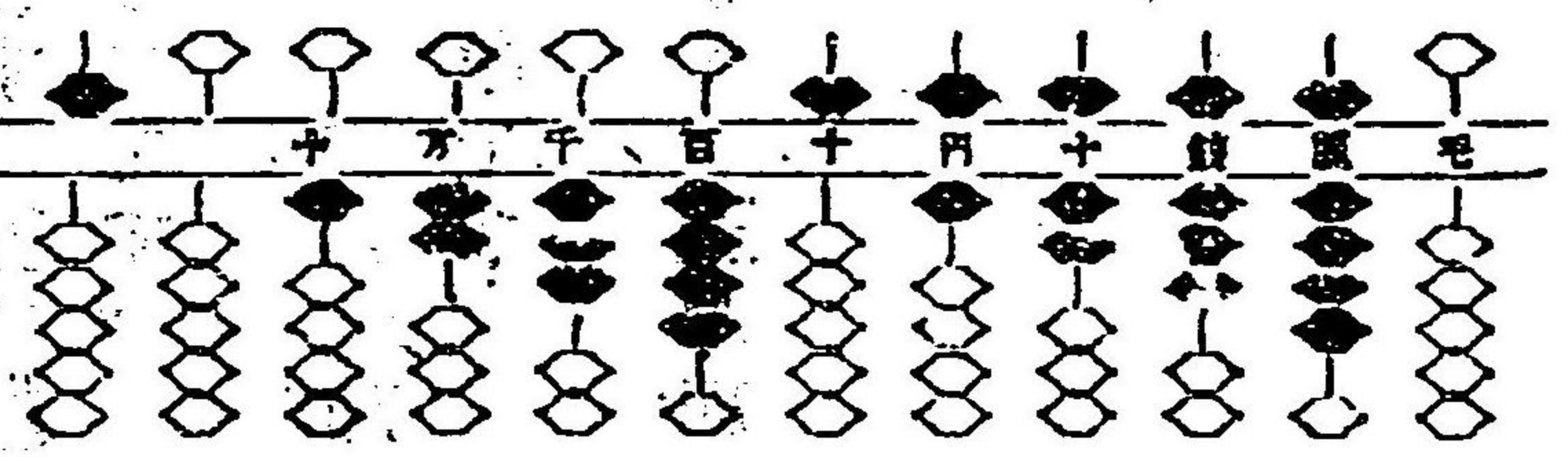


上の圖は四の段の除つた結果を示したものであります

問題

金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘を五で割れば何程か、
答、二万四千六百九十一圓三十五錢七厘八毛

その仕方を説明する。
第一、五一加一といつて次の圖の通りにします、五一加一といふのは、十の中に五が二つあるといふことです



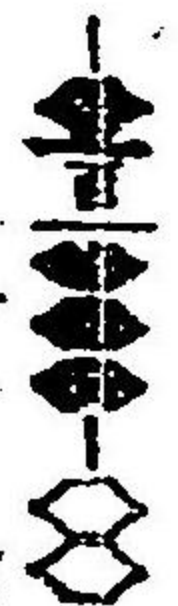
第二、五二加二といつて、次の圖のやうにします。五二加二といふのは、廿の中に五が四つあるといふことです。



第三、五三加三といつて、次の圖のやうにします。五三加三といふのは、三十の中に五が六つあるといふ事です。



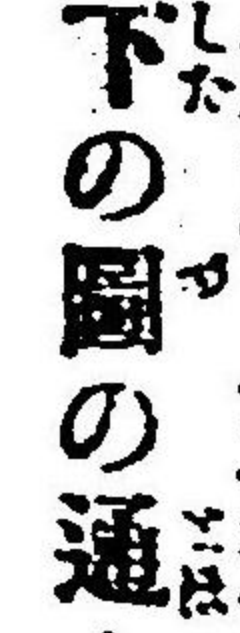
第四、五四加四といつて、次の圖のやうにします。五四加四といふのは四十の中に五が八つあるといふ事です。



第五、五進の二十といつて



第六、五進の二十といつて



第七、五一加一といつて、下の圖の通り

第八、五進の 上の圖の通り

一十といつて

第九、五二加二といつて、下の圖の通り

第十、五進の一十といつて

下の圖のやうにします。

第十一、五三加三といつて下の圖の通り

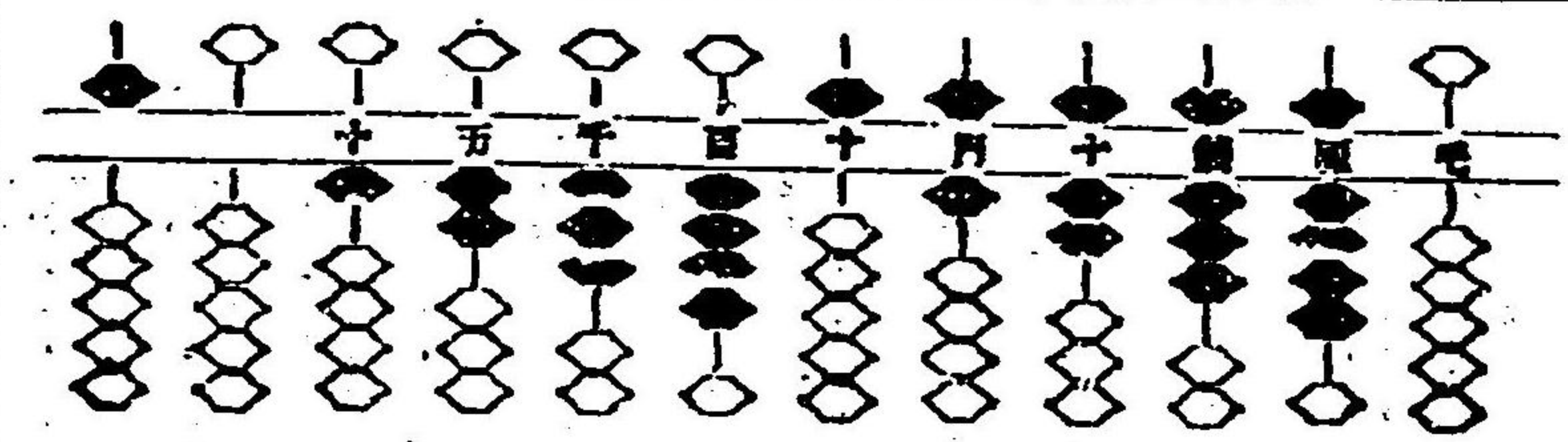
第十二、五進の一十といつて

下の圖のやうにします。

第十三、五四加四といつて、

下の圖のやうにします。

これで、除りつくされたのでもります。



上の圖
は五の
段の除
つた結
果を示
したも
のであ
ります

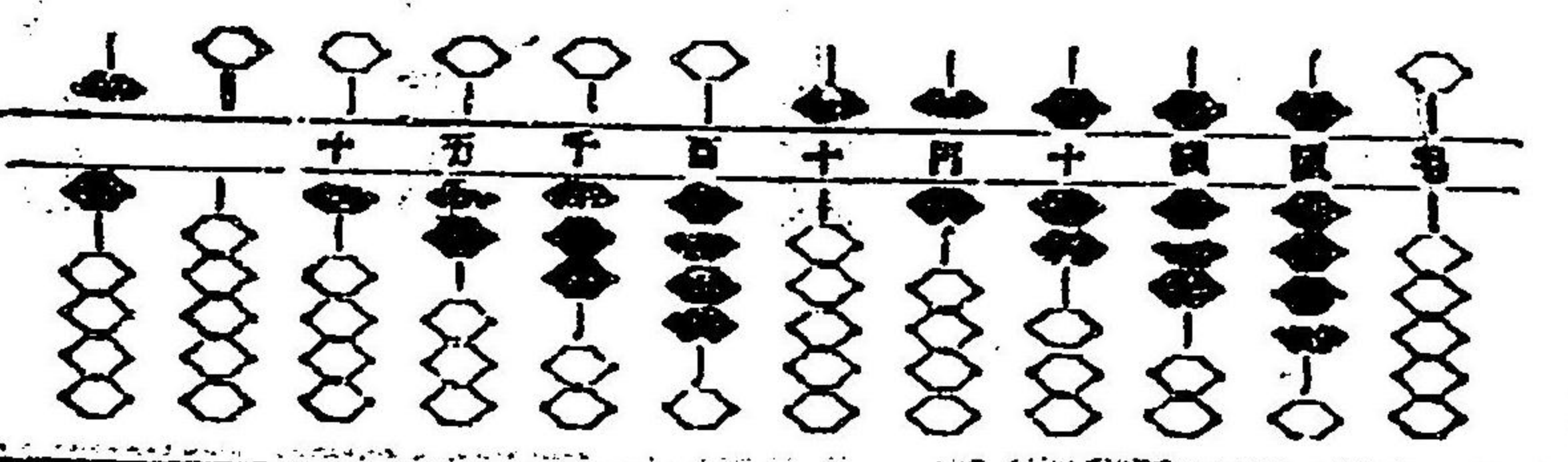
問題

金十二万三千四百
五十六圓七十八錢
九厘を六で割れば
何程

答、二万〇五百七
十六圓十三錢一厘
五毛

その割り方を左に申しませ
う。

第一、六一下加四とい
つて、次の圖のやうに
します、六一下加四と



は、十の中には六が一つと四残るといふことでありませう。

第二、六進の二十といつて

下の圖の通りにする。

第三、六三添作五といつて下の圖の通り

第四、六四六十四といつて次の圖のやうにします。六四六

十四とは、四十の中に六が六つと、四残るといふことであ
ります。

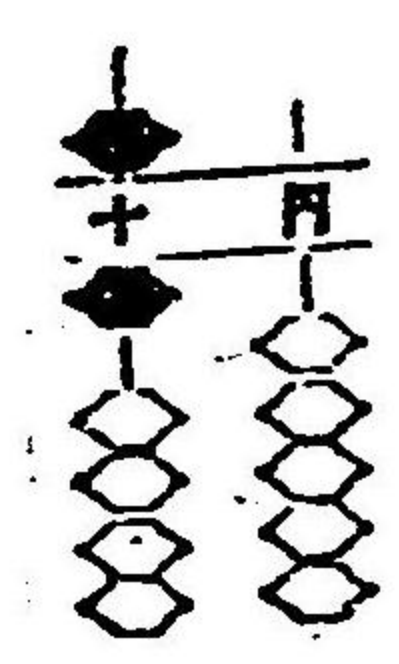
第五、六進の二十といつて

下の圖のやうにする。

第六、六三添作五といつて下の圖の通り

第七、六進の二十といつて

下の圖の通りにする。

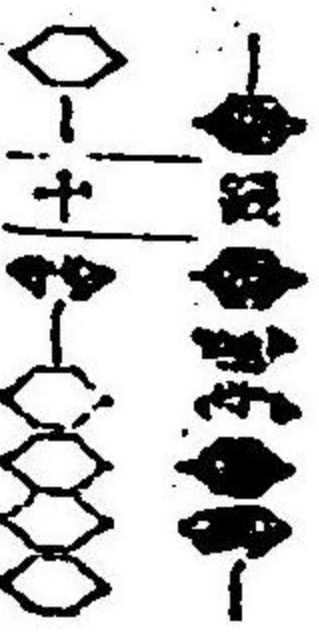


第八、六進の一十

上の圖の通り

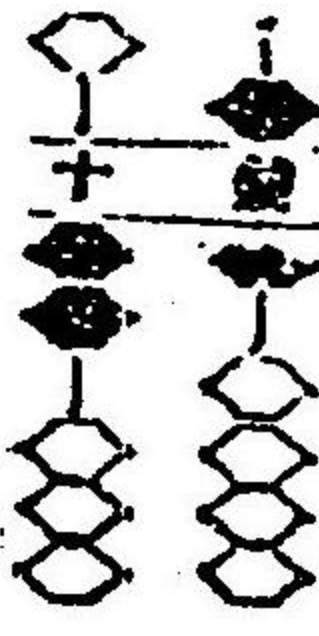


第九、六一下加四といつて

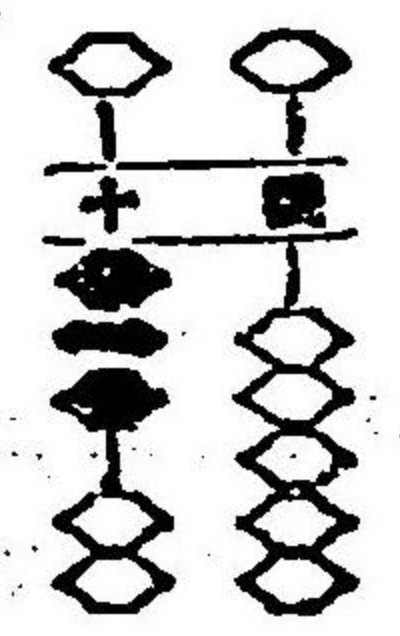


（斯うなつた上に、錢の位の所へもう二つ加へなければならぬのであるが、入らないから、心の中で、二つ入れなければならぬものと覺れて置く）

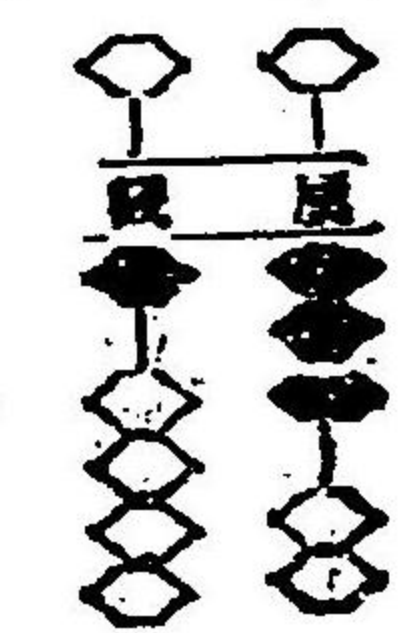
第十、六進の一十といつて



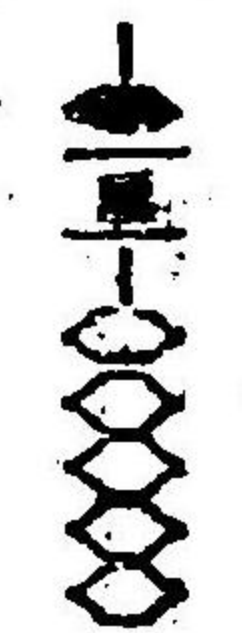
（注意、以前に二つ入れなければならぬのであるから、六進といひながら、四つだけ取り去ることにする）
第十一、六進の一十といつて次圖の通りにします。



第十二、六進の一十といつて

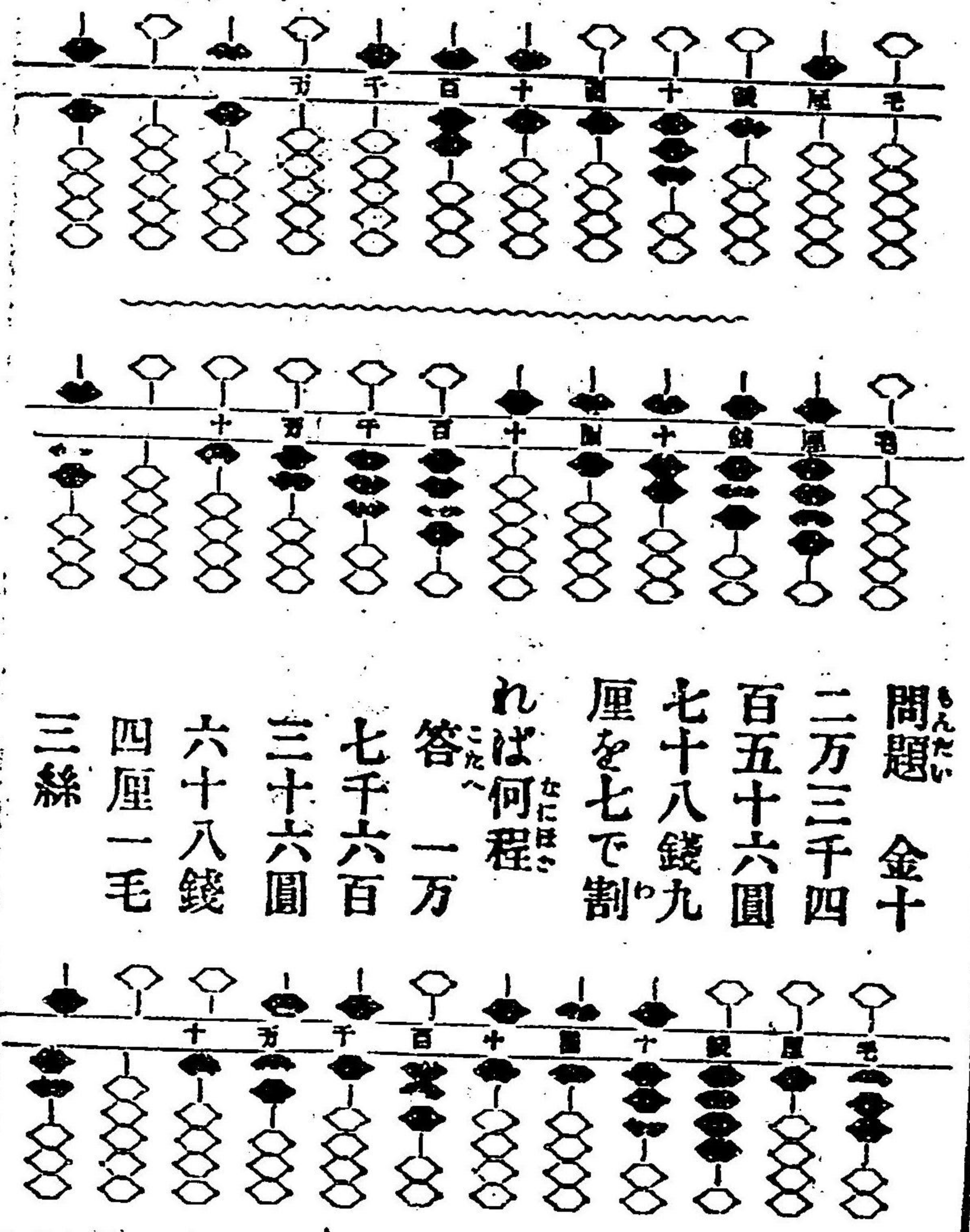


第十三、六三添作五といつて



これで、六の段の除法は、終つたのであります。
念のために、いふて置きます、一桁の除法の位取は、舊の位から一つ下つたところを、覺れておればよろしい。

この圖は六の段の除つた結果を示したものであります



問題 金十
二万三千四
百五十六圓
七十八錢九
厘を七で割
れば何程
答 一万
七千六百
三十六圓
六十八錢
四厘一毛
三絲

この前の下の圖は、七の段で除つた結果を示したものであります。

さて、七の除法の仕方を左に説明いたしませう。

第一、七一下加三といつて次の圖のやうにします、七一下加三といふのは、十の中には七が一つと、三残るといふことです。

第二、七五七十一といつて、次の圖の通りにいたします、七五七十一といふのは、五十の中に七が七つと、一残るといふことです、下の圖

第三、七四五十五といつて次の圖の通りにします、七四五十五といふのは、十四の中に七が五つと五残るといふことを知覧なさい。

であり
ます

第四、七進の十といつて
下の圖の通りにします。

第五、七二下加六といつて、下の圖のやうに
します。七二下加六といふのは、二十の中に
七が二つと、残りが六であるといふことです。

(注意に申しますのは、こゝに七二下加六といひながら、六
を入れることが出来るので、五を入れて置きます。)

第六、七進の十といつて
下の圖の通りにします。

(注意、六取つて、七進といふのは、前に一だけ入れてなか
つたからです。)

第七、七四五十五といつて
下の圖のやうにします。

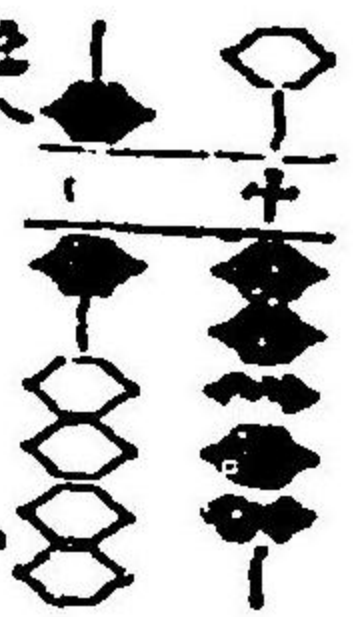
(また一つ入れることが出来る。)

第八、七進の十といつて
下の圖のやうにします。

(前の一が入つてゐないので、七進といつて六を取ります。)

第九、七四五十五といつて
下の圖のやうにします。

(また二つ入れることが出来る。)
第十、七進の十といつて、次の圖のやうにします。



(前に二つ入れることが出来なかつたので、七進といつて五
を取ります。)

第十一、七五七十一といつて



下の圖のやうにします。



第十二、次には、七進の二十といつて



下の圖の通りにします。



第十二、七二下加六といつて

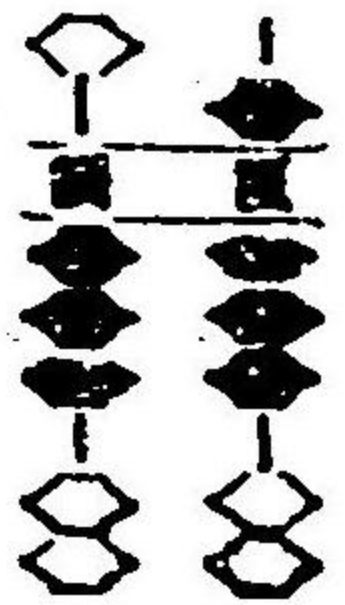


下の圖のやうにします。



(また五つ入れることが出来ぬ。)

第十三、七進の二十といつて次の圖の通りにします。



(前に五つ入れることが出来なかつたから、こゝで七進とい
つて、二つだけ取ります。)

第十四、七進の二十といつて



下の圖の通りにします。



第十五、七一下加三といつて



下の圖の通りにします。



この七の段の除法は、こゝまでいつても除りつくせませんから
こゝで止めて置きます。

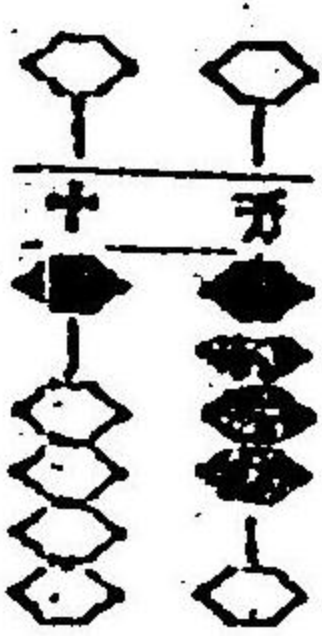
問題 金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘を八で割れば
何程

答

一萬五千四百三十二圓〇九錢六厘一
毛二絲五忽

この割算の仕方を左に申しませう。

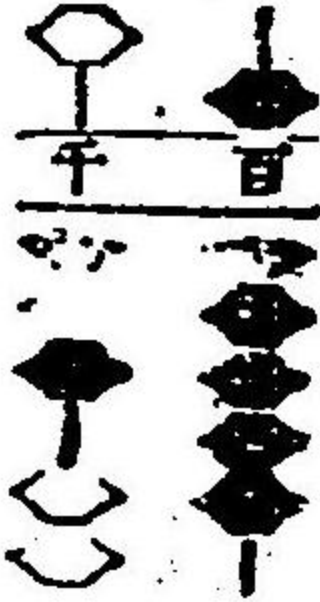
第一、八一下加二といつて次の圖のやうにします、八一下加二とは、十の中に八が一つと残りが二である



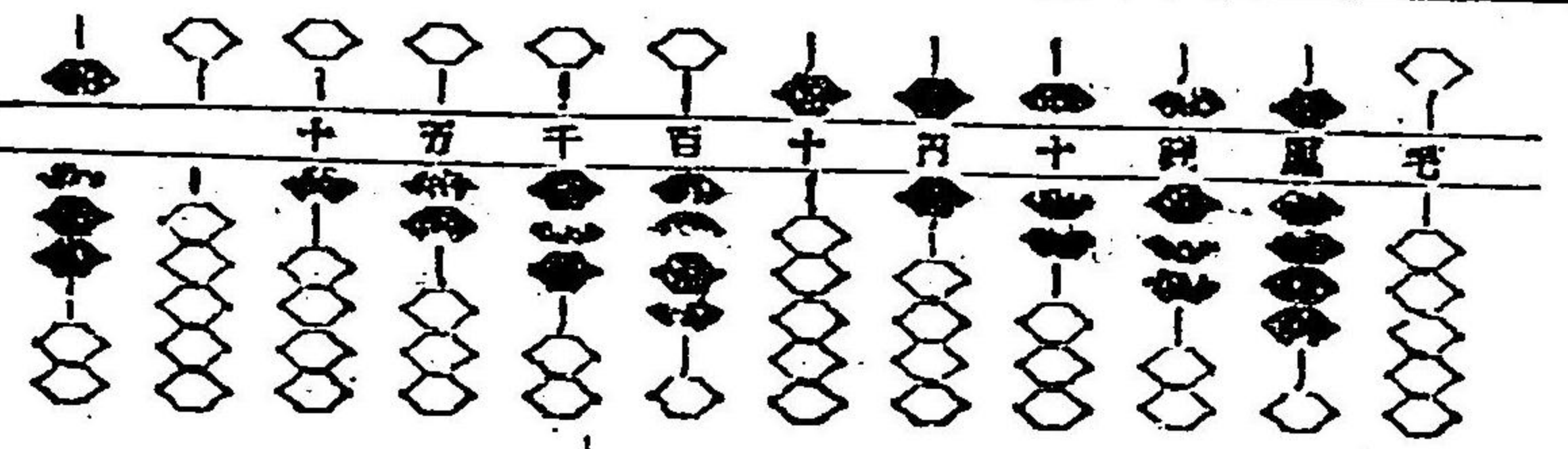
といふことです 第二、八四添作五といつて、次の圖のやうにします



第三、八三下加六といつて 下の圖のやうにします、

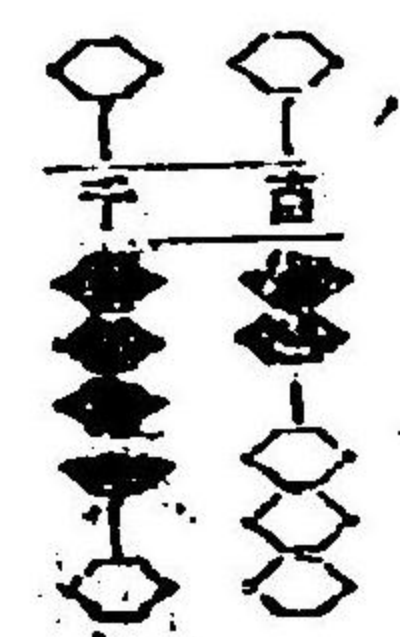


この八三下加六といふのは、三十の中に八か

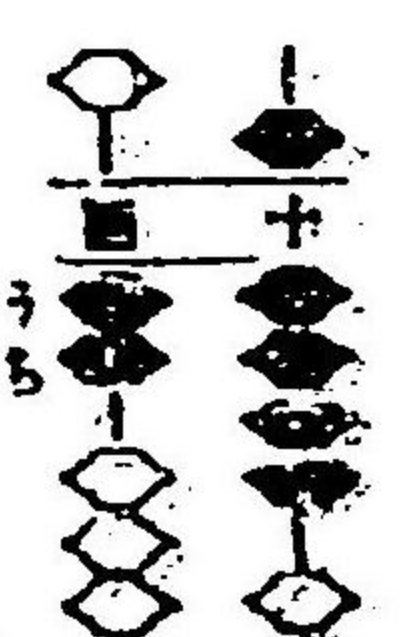


三つと残り六であるといふことをたす。

第四、八進の一十といつて 下の圖の通りにします。

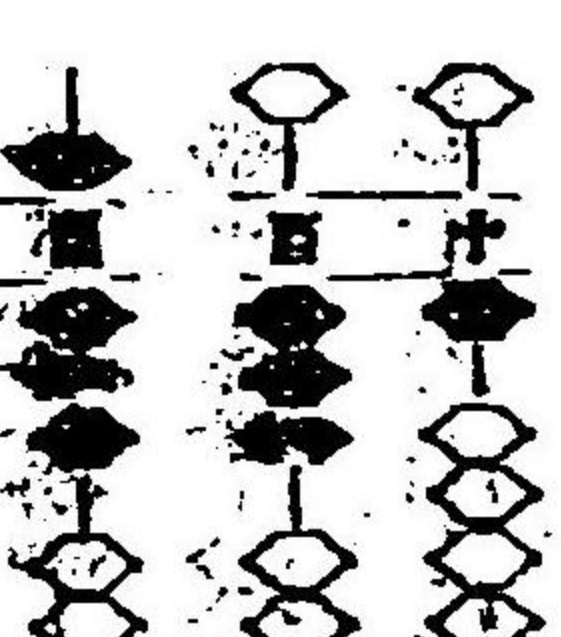


第五、八二下加四といつて 下の圖の通りにします。

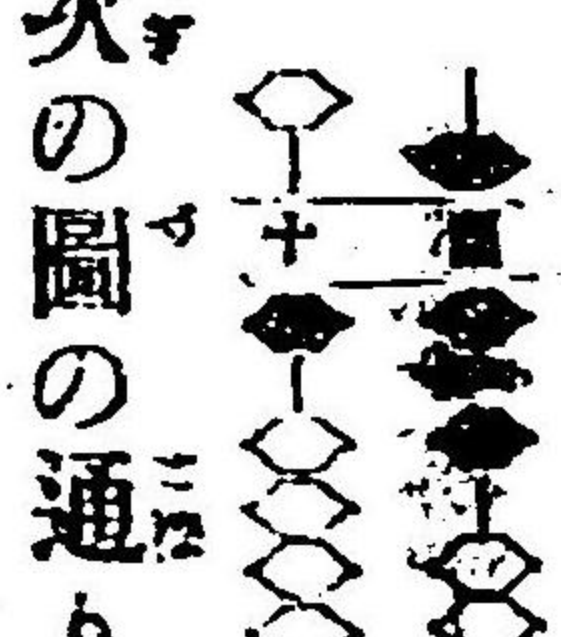


この八二下加四といふのは二十の中に八が二つと残りが四であるといふことであります。

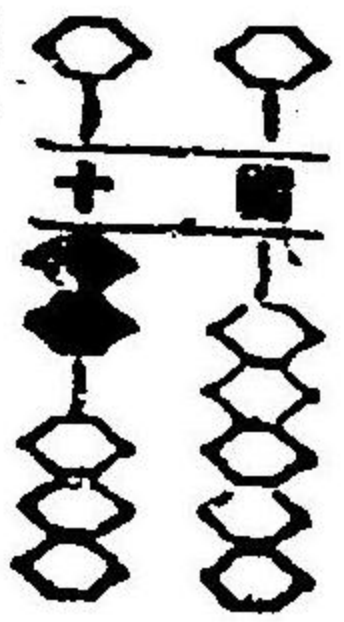
第六、八進の一十といつて 下の圖の通りにします。



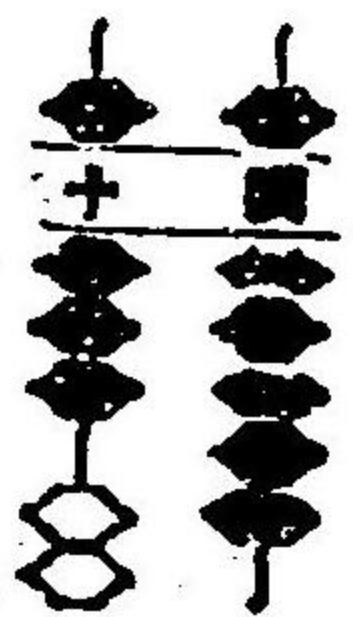
第七、八一下加二といつて 下の圖の通りにします。



第八、八進の一十といつて次の圖の通りに布きます。



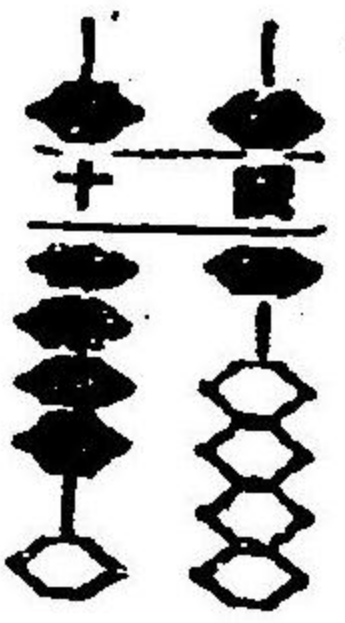
第九、八七八十六といつて
下の圖のやうにします。



この八七八十六といふのは、七十の中に八が八つと残り
六であるといふことです。

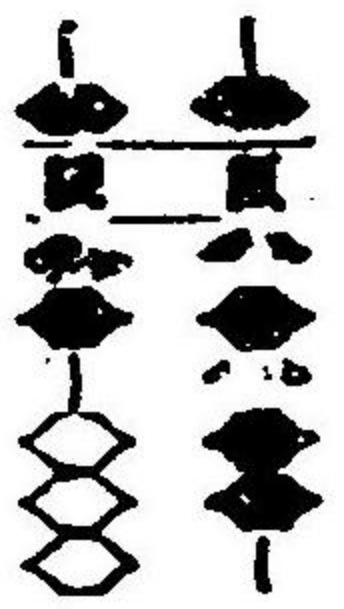
(こゝで又た、四つ入れることが出来ぬ)

第十、八進の一十といつて
下の圖のやうに布きます。



(こゝで、前に四つ入れてないから、八進をいひながら四を
取ります)

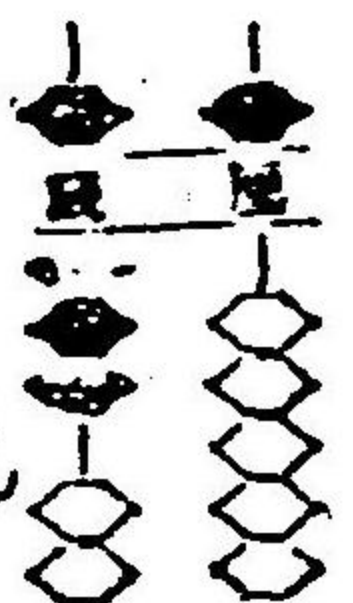
第十一、八六七十四といつて、次の圖の通りにする。



この八六七十四とは、六十の中に八が七つと残り四である
といふことをさす。

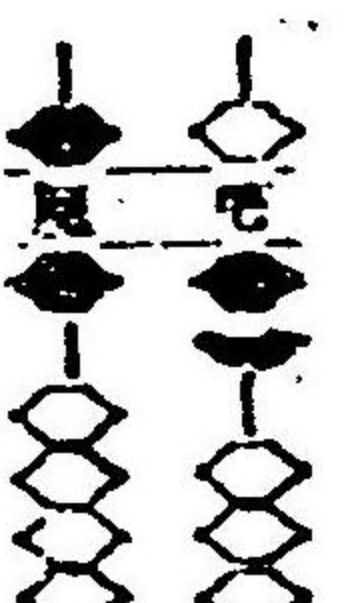
(また、三つ入れることが出来ぬ)

第十二、八進の一十といつて
下の圖の通りにします。



(こゝで、前に三つ入れてないから、八進をいひながら五を
取ります)

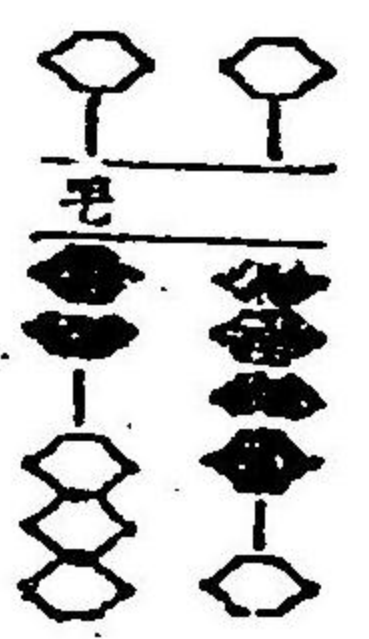
第十三、八五六十二といつて
下の圖の通りにします。



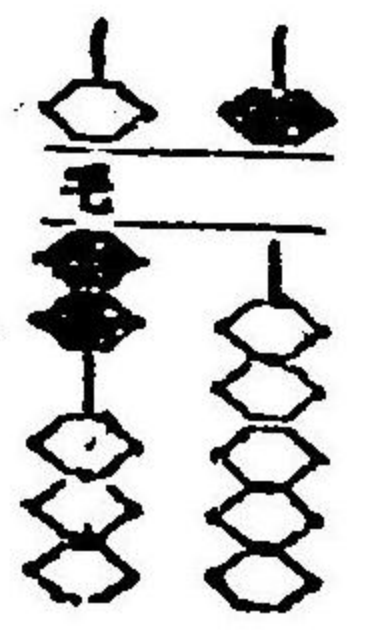
この八五六十二といふのは五十の中に八が六つと残り二で

あるといふことです

第十四、八二下加四といつて
下の圖の通りにします



第十五、八四添作五といつて
下の圖の通りに布きます



これで八の段の除法は除りつくしたのであります

念がために申し置きますのは、位取は、一つ下つたところが舊の位であります。即ち、十圓の所が圓の位と思つて答へれば宜しいのです

次の圖は八の段の除法の結果を示したものであります

問題

金十二万三千

四百五十六圓

七十八錢九厘

を九で割れば

何程

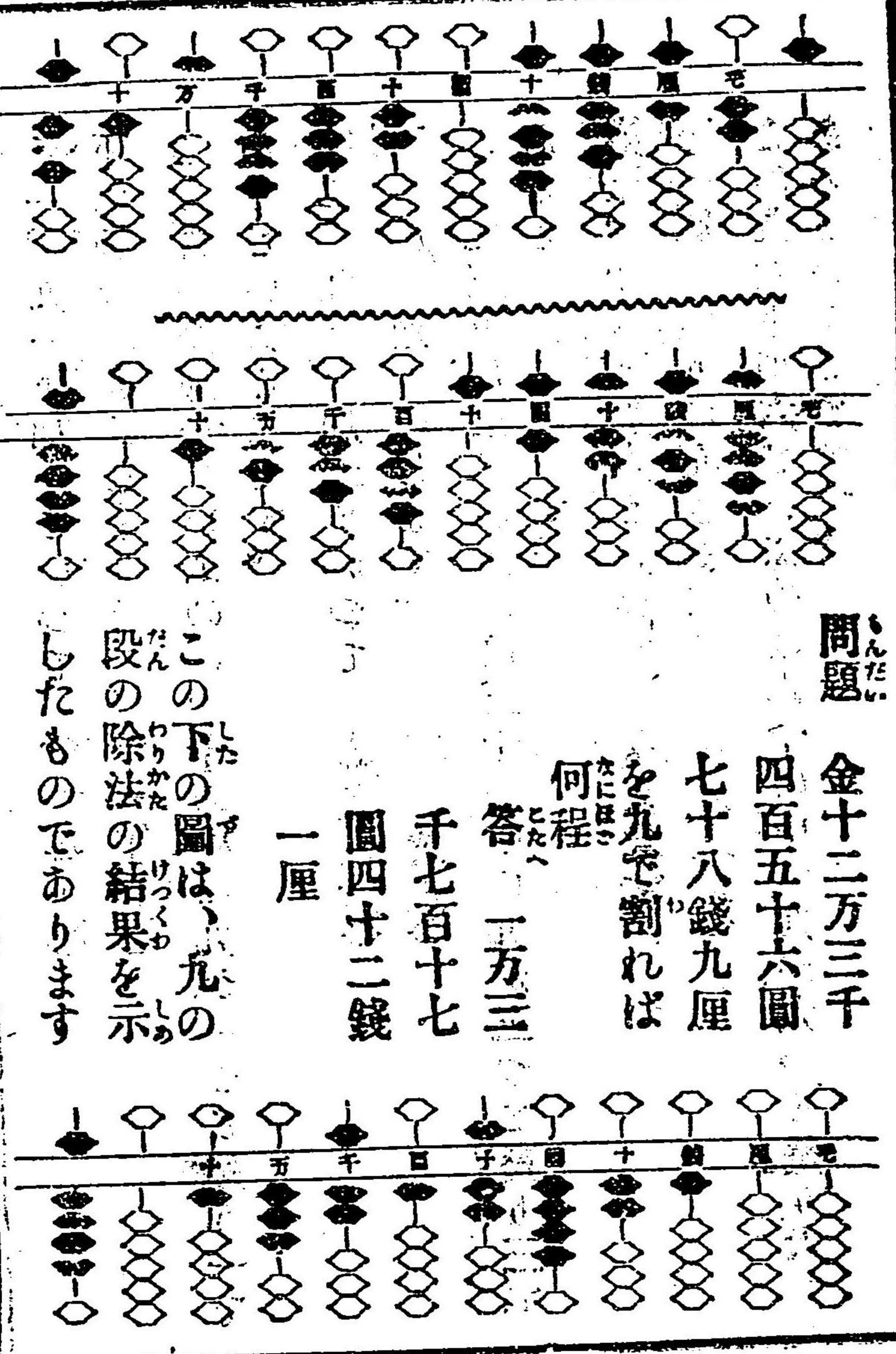
答 一万三

千七百十七

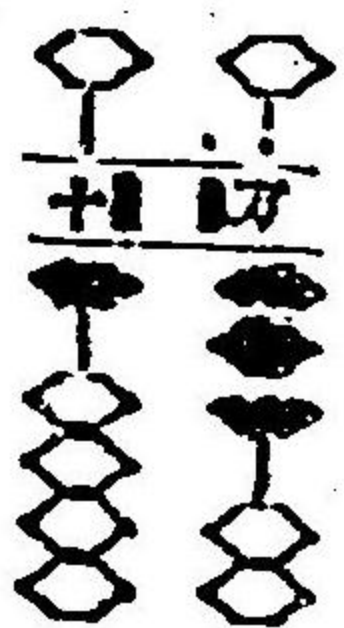
圓四十二錢

一厘

この下の圖は、九の段の除法の結果を示したものであります

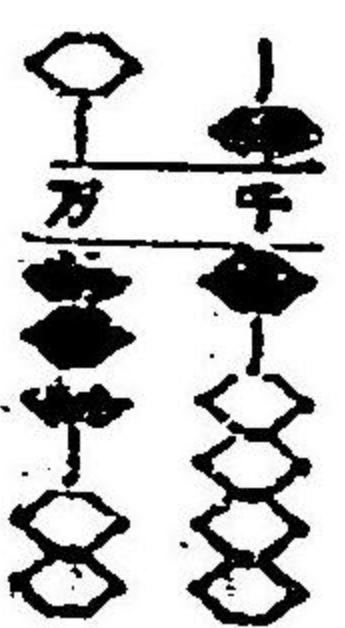


第一、九一下加一といつて
下の圖の通りにします。



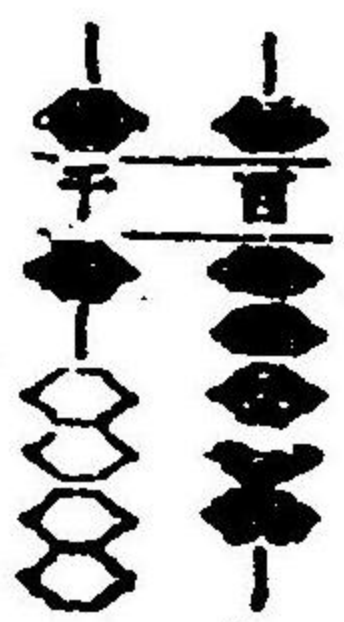
この九一下加一といふのは、十の中に九が一つと残り一であるといふことです。

第二、九三下加三といつて
下の圖の通りにします。



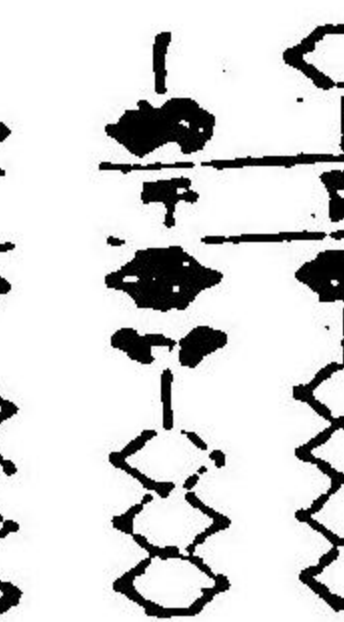
この九三下加三といふのは三十の中に九が三つと残り三であるといふことです。

第三、九六下加六といつて
下の圖の通りに布きます。

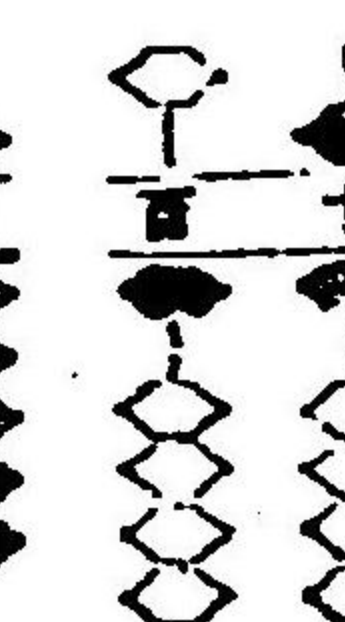


この九六下加六といふのは六十の中に九が六つと残り六であるといふことです。

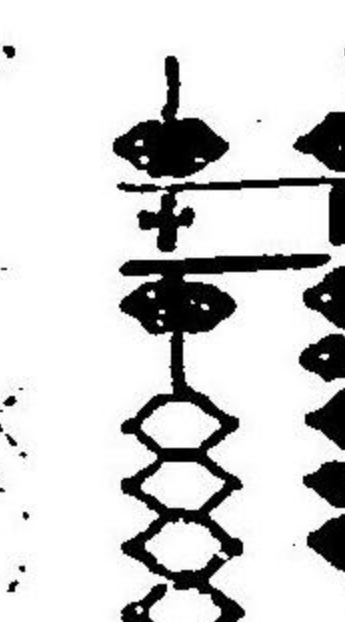
第四、九進の一十といつて
下の圖の通りにします。



第五、九一下加一といつて
下の圖の通りにします。



第六、九六下加六といつて
下の圖の通りにします。



(こゝで又た二つ入れられぬ)

第七、九進の一十といつて
下の圖の通りにします。



(前の入れられぬ二があるから九進といひながら、七だけ取ります)

第八、九三下加三といつて
 下の圖のやうにします。

第九、九進の二十といつて
 下の圖のやうにします。

第十、九一下加一といつて
 下の圖の通りです。

第十一、九進の二十。

第十二、九進の二十。

これにて九の除法終り。
 これから二桁の除法の仕方を申しませう。

問題 金二十三圓三十一錢六厘を六十七人に分ければ、一人
 分、何程になるか

答 三十四錢八厘

即ち、次の圖の通りに布いて除ります。

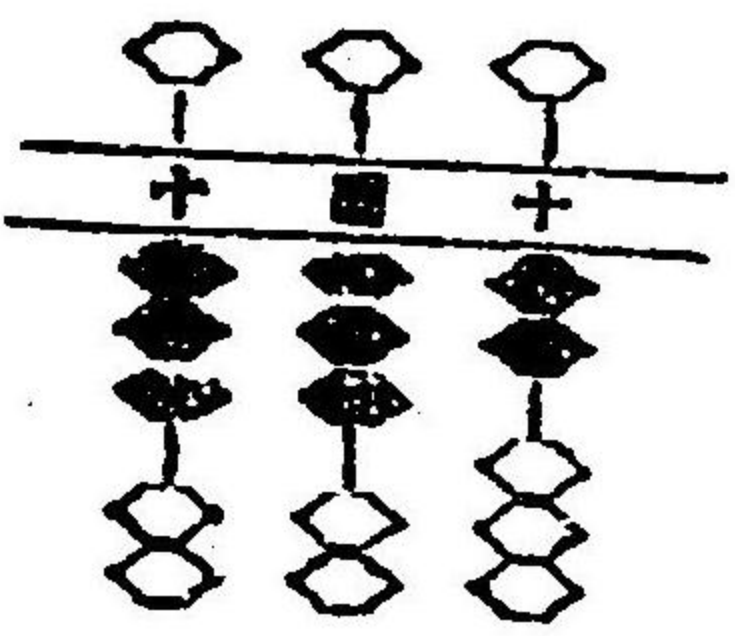
この二桁の除法は、一桁のやうに手短かには出
 来ませぬ、よく氣をつけて説明をお聞き下さい
 先づ、

第一、法の六と實の二とを見合せ、六二三
 十二といつて、下の圖の
 やうに布きます。

第二、次には、法の七と、實の始めの位に
 ある三とを見合せ、三七二十一といつて圓

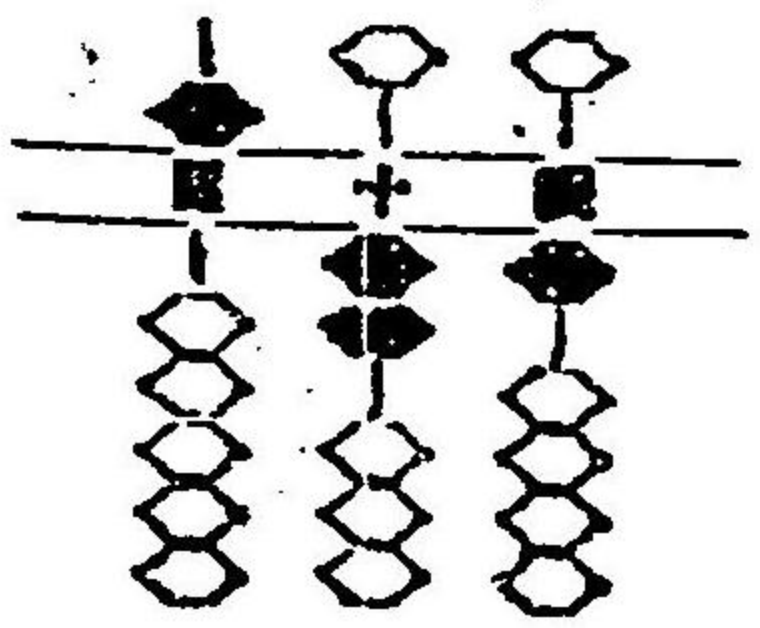
法 實

の位と十銭の位
とから減きます
下の圖の通りで
す。



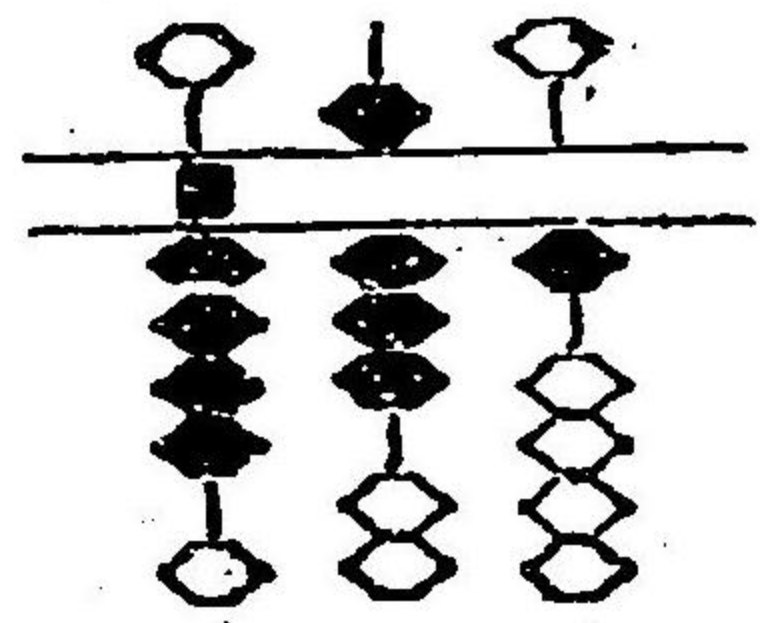
(圓の位から二を減き、十銭の位から一を減きます)

第三、次には、法の六と實の第
二位にある三を見合せ、六三
添作五といつて、下の圖の通り
にいたします。

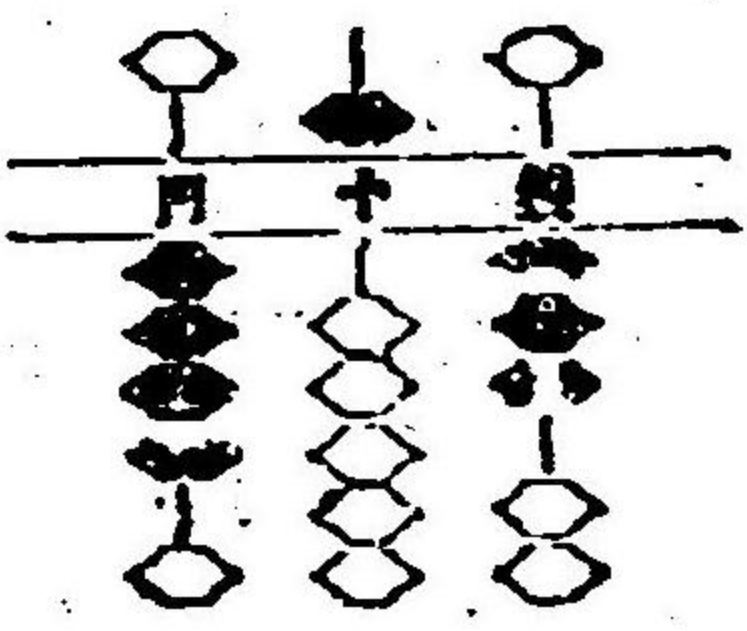


第四、歸一倍六といつて、次の圖のやうにします。この歸
一倍六といふことは、こゝで、普通ならば、五七三十五と
いふて十銭の位と銭の位とから減くべき所ですが、減けな

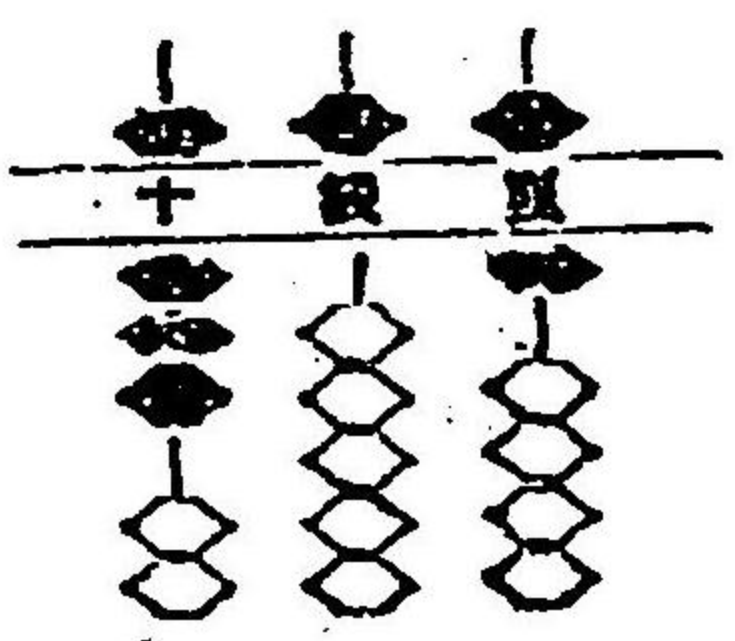
いから、
歸一倍六
といふこ
とをする



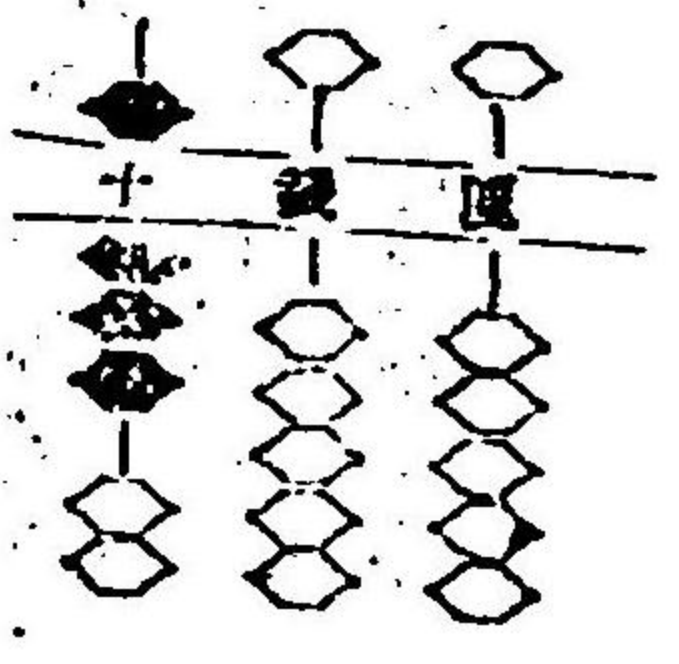
第五、四七二十八と
いつて實から減ま
す、下の圖の通りで
す。



第六、法の六と實の第三位に
ある五を見合せて、六五八
十二といつて、下の圖のやう
にします。



第七、次には、法の七と實の第三位の八と見合せ、七八五十六といつて減きます、下の圖の通り。

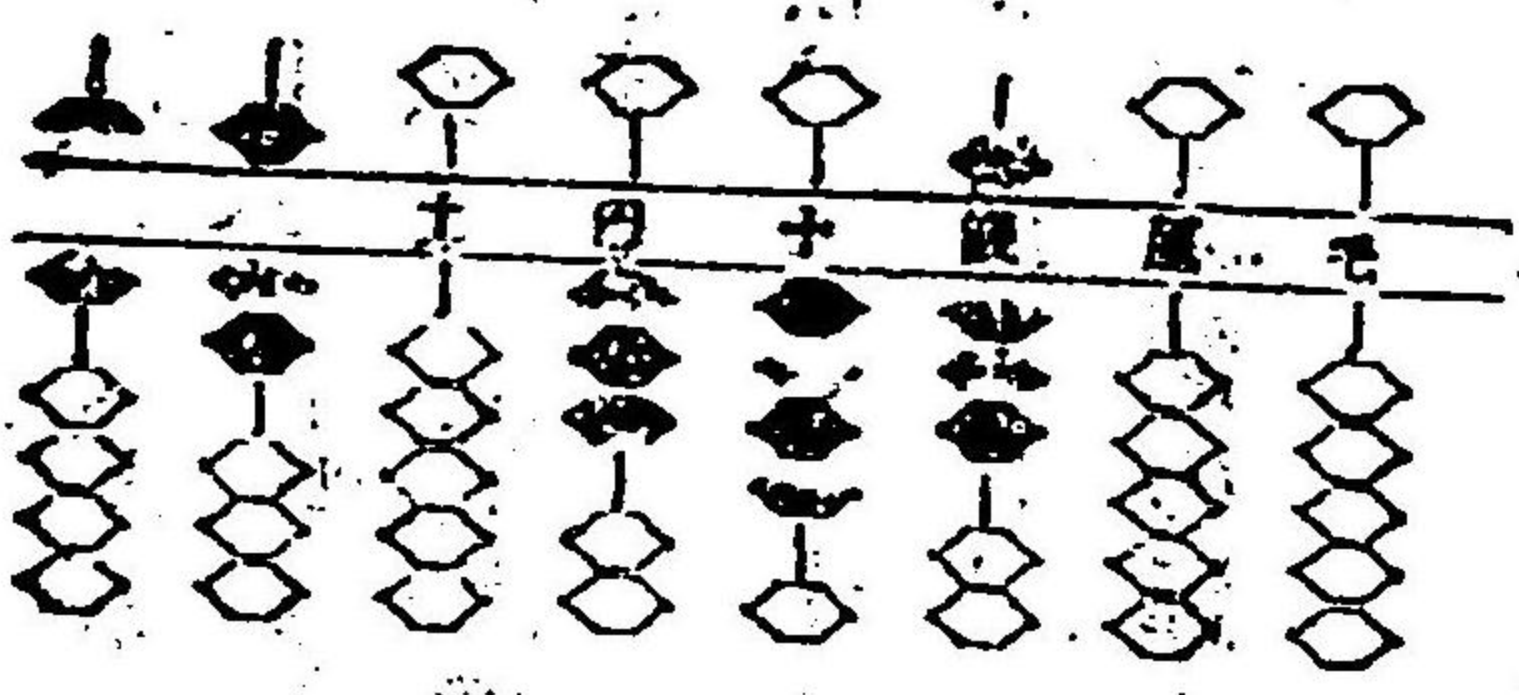


即ち結果は下の圖の通りでありま

これで除り切れました。

そこで、二桁の除法の位取は、以前の位より二つ下つて繰ります、即ち以前に圓の位であつたところが、除り上げたら其所が錢の位になるのです。

この二桁の除法が分つたら、三桁も四桁も同じ道理で計算することが出来ます。



◎洋算早學

ここに、洋算の符號をお話して置きます

+

これは加ふる符號

×

これは乗る符號

—

これは減く符號

÷

これは除る符號

洋算加法

一、金十二錢五厘と二十二錢四厘とを合せて何程、

答 金三十五錢八厘

これを洋算でしますには、先づ十二錢五厘を左の(い)の通り算用數字で書き、次に二十三錢四厘を算用數字で(ろ)の通りに書き、そして左の方に加法の符號十を書き、その下に横線を書きます、さて厘位即ち一番右の方の數字のうと4とを加へた數の9を書き、次に錢位の筋にあるとと3とを合せての5を書き、次に十錢の位にあるとと2とを合せての3を書き、それから、厘、錢

$$\begin{array}{r} 12 \\ + 11 \\ \hline 23 \end{array}$$

二、金五十二錢八厘と七十八錢九厘とを合せて
 何程、 答 壹圓三十二錢七厘

$$\begin{array}{r} 52 \\ + 78 \\ \hline 130 \end{array}$$

前の例の通り、二つの數を算用數字で書き、加法の符號を書き、其下に一線を引くこと、前の如くする。さて厘位の筋に書いてある8と9とを加へると17となる、この時7だけを厘位の筋に書き、錢位の筋の横線の上に小さく1と記して置きます、即ち一錢だけ、下の位から繰り上つて來た符です、(もし、これが一二錢繰上るのであれば、小さく2と書き、二錢であれば、小さく3と書き、四錢ならば4と書きます、以下それに倣ふ) さて錢位の筋の數字、3と8とを加へて11、それに繰上つた1を加へて12となる、ここで2だけを錢位の筋に書き、また繰上るべき1を、十錢の位の線の上に小さく1と書き、それ

から十銭の位の筋にある、5と7と、繰上つた1とを合せる
と13となるから3を十銭の位の筋に書き、もう一つ上の位
即ち圓位の處に1と書き、即ち壹圓三十二銭七厘と
なります。

この二つの例で、加法は合點が行つたでせう、次に減法の説
明をしませう。

洋算減法

一、金三十五銭九厘から二十二銭四厘を減けば
残り何程、 答 十二銭五厘

これを洋算で計算するに、先づ次のページにある(い)の通り

三十五銭九厘を算用数字で書き、その下に(ろ)の通り減
くべき数の二十二銭四厘を算用数字で書き、数字の左方
に減法の符號一を書き、それから横線を書きます、即ち左の通

$$\begin{array}{r}
 945 \\
 532 \\
 \hline
 321
 \end{array}$$

りである
さて減法をするには、厘位即ち一番右方から
するので、9から4を引くと5になる、その5を
厘位の筋に書きます、次に銭位の、5から3を

減いた残り2を銭位の筋に書きます、次に十銭の位の、
3から2を減いた残り1を十銭の位の筋に書きます、即ち
その答十二銭五厘となる。
もう一つ減法をして見ませう。

一金一圓三十二錢五厘から七十八錢九厘を減
けば残り何程、 答 五十三錢八厘

この二つの数を算用数字でかき、減法の符號をつけ横線を書く
こと、前例の通りにする。

$$\begin{array}{r}
 \text{厘} 7 \quad 8 \quad 9 \\
 \text{錢} 2 \quad 8 \quad 3 \\
 \text{分} 3 \quad 5 \\
 \text{十} 1 \quad 7 \\
 \text{圓} 1 \\
 \hline
 \end{array}$$

さて一番下の位即ち厘位から減いた数の残り
を書いてゆく、即ち7から9を減くのですが、足
りない、そこで、一つ上の位、即ち錢位から1
を借り、借りた印を小さい線で書く（上の運算を御覽なさい）
それから、17の中より9を減くと残り8となる、その8を厘
位の筋に書く。

次に錢位の2から8と、今借りた1とを減くことが出来ない
から又た一つ上の位から借りて、その印をつける、即ち12の中
から8と1とを減くと、残り3となる、その3を錢位の
筋にかく。

次に十錢の位の3から7と、今借りた1とを減くことが出来
ぬから、又た一つ上の位の圓位から借りて、その印をつけ、31
の中から7と1とを減いた残り5を書く。

それから圓位の筋は、1から借りた1を減いて、残りが無い
から書かぬ。

洋算乘法

一 金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘を
二倍すれば何程

答 二十四万六千九百十二圓五十七錢八厘

乗法では、乗ける数を乗數、掛けられる数を被乗數、そして
掛け合せて出て来た數を積といひます。

この問題で、十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘は被乗數
で、二は乗數であります。

この運算をするには、先づ被乗數を上にかき、乗數を
下にかき、そして乗法の符號×を書き、下に横線を書くと
左の通りであります。

9	2
8	
7	
6	
5	
4	
3	
2	
1	

$$\begin{array}{r} 246913578 \\ \times 2 \\ \hline \end{array}$$

さて一番下の厘位から掛けてゆきます。即ち2を
2倍する、二九十八といひながら、十は心の中で
上の位に1を繰り上げたものと覚えてゐて、8だ
けを横線の下、厘位の筋に書きます。

次に錢位の8を2倍する、二八十六といつて、十
は上の位に繰り上げたものと覚えてゐて、6を錢位の筋へ書
くのですが、こゝに以前、繰り上げた1がありますから、6に
1を加へ、7と書きます。

次に十錢の位の7を2倍する、二七十四といひながら十は上
の位に1を繰り上げたものと覚えてゐて、4だけを横線の下に
書くのですが、こゝにも下の位から1が繰り上つてゐますから

5と書きます。

次に圓位の6を2倍する。即ち二六十二といつて、十は上の位に1を繰り上げたものと覺わてゐて、2だけを横線の下に書くのですが、やはり茲にも下の位から1が繰り上つてゐますから3と書きます。

次に十圓の位の5を2倍する。二五十二といつて、その十は上の位に1を繰り上げたものと覺わてゐて、其所へは、0を書く筈であるが、下の位から繰り上つて来た1がありますから、1と書く。

次に百圓の位の4を2倍する。二四ゲ八といつて、8と以前に繰り上つて来た1とを合せて、9と書く。

次に千位の3を2倍する。二三ケ六といつて、6を書く。この時は下の位から繰り上つてゐいから、6だけ書いて宜しい。次に万位の2を2倍する。二二ケ四といつて、4と書く。この時も下の位から繰り上つて来た數はあません。次に十万の位の1を2倍する。一二ケ二といつて、2と書く。これで一桁の乗法が分つたでせう、次には二桁のを左に申し上げます。

問題 金四十七錢五厘を三十五倍すれば何程

答 十六圓六十二錢五厘

$$\begin{array}{r}
 55 \\
 73 \\
 \times 35 \\
 \hline
 275 \\
 1650 \\
 \hline
 1925
 \end{array}$$

その運算の仕方は、前の説明の通りですから、茲には略します。上の圖を見て、合點なさい。

序に三桁のを一つ御覺に入れます

問題

金三十七錢八厘を四百六十九倍すれば

何程 答 百七十七圓二十八錢二厘

上の圖を見て、よく考へなさい

これで四桁も五桁も、獨りで計算することが出来るでせう。次には除法の事

$$\begin{array}{r}
 89 \\
 76 \\
 34 \\
 \times 2 \\
 \hline
 178 \\
 728 \\
 1512 \\
 \hline
 177282
 \end{array}$$

除法

問題

金十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘を一人に分ければ、一人分何程

$$\begin{array}{r}
 1728394.5 \\
 2 \overline{) 1234567896} \\
 \underline{12} \\
 3 \\
 2 \\
 14 \\
 14 \\
 5 \\
 4 \\
 16 \\
 16 \\
 7 \\
 6 \\
 18 \\
 18 \\
 9 \\
 8 \\
 10 \\
 10 \\
 0
 \end{array}$$

答 六万七千七百二十八圓三十九錢四厘五毛

この説明をする前、少し云ふて置く事があります、即ち除法では除られる数を、被除数又は實といひ、除る数を除数又は法といひます。

この問題では十二万三千四百五十六圓七十八錢九厘が實で、二が法である、さてその除法をするには、上の通りに認めます

前の圖の通り、中央に被除数をかき、その數と左と右に線を引
き、左の方に除数をかき、右の方に除つて出てきた數、即ち商
をかきます。

さて被除数の最初の數1と除數とをくらべて見るに、除數の方
が大きい、そこで、被除數の第二番目の數までの中に、即ち12
の中に、除數の2が幾つあるかを考へると、6つある、それで
右の方の線の外、即ち商をかくべきところに、6と書き、その
6と除數の2とを乗合せた二六十二2を、被除數の左の端から
書き、その下に一線を引き、そして今書いた2を被除數から減
きます、凡て、前の圖の通り、
次に、被除數の第三番目にある3の中に、除數の2が幾つある

か見る、1つあつて、残りが1である、即ち、商に1を書きま
す、(前の6の次に)

それから、一二が二といつて、商の1と除數の2を乗合せた
數を、3の中から減く、残りが3となる、次にその1の隣へ
被除數の第四番目の4をおろして、そして除つてゆく、凡の前
の圖を見て、合點なさい。

これから二桁の除法の仕方を申します

問題 金八圓七十五

錢を三十五人に分
ければ一人分何程

答 二十五錢

$$\begin{array}{r}
 25 \overline{) 875} \\
 \underline{50} \\
 37 \\
 \underline{35} \\
 25 \\
 \underline{25} \\
 0
 \end{array}$$

上の圖を御覽なさい

前の例によりて、
被除數を中央にか

さ線の左の方に除数を書き、線の右の方に商を書きます。
 さて、その仕方、最初、被除数の第一第二の兩數87の中に、除
 數35が幾つあるかと考へると、2つある、そこで、その2を商
 に書き、2と35を乗合せた70を、被除數の87の下に書き、そ
 の差17を一線の下に書きます。
 次にその17の中には除數の55はないから、17の下の方に、被除
 數の第三位にある5をおろし175の中に、除數の55が幾つあるか
 と考へると、5つある。
 そこで、商に5を書き、(前の2の下の方に)、そして、その5
 と除數の55を乗合せた175を、被除數の下に書きます、そし
 て、その差を求めると、無い、これで除りされたのです。
 三桁も四桁も、その道理は、これと同じであります。

●陸軍の配備

◎近衛師團 (東京)

△歩兵第一旅團 (東京)

近衛歩兵第一聯隊 (東京) 近衛歩兵第二聯隊 (東京)

△歩兵第二旅團 (東京)

近衛歩兵第三聯隊 (東京) 近衛歩兵第四聯隊 (東京)

△騎兵第一旅團 (東京)

近衛騎兵聯隊 (東京) 騎兵第十三聯隊 (東京)

騎兵第十四聯隊 (東京)

△野戰砲兵第一旅團

(東京)

近衛砲兵聯隊

(東京)

野戰砲兵第十三聯隊

(東京)

野戰砲兵第十四聯隊

(東京)

近衛工兵大隊

(東京)

近衛輜重兵大隊

(東京)

◎第一師團

(東京)

△歩兵第一旅團

(東京)

歩兵第一聯隊

(東京)

歩兵第四十九聯隊

(甲府)

△歩兵第二旅團

(東京)

歩兵第三聯隊

(東京)

歩兵第五十七聯隊

(佐倉)

△騎兵第二旅團

(習志野)

騎兵第一聯隊

(東京)

騎兵第十五聯隊

(習志野)

騎兵第十六聯隊

(習志野)

△野戰砲兵第二旅團

(國府臺)

野戰砲兵第一聯隊

(東京)

野戰砲兵第十五聯隊(國府臺)

野戰砲兵第十六聯隊

(國府臺)

△野戰砲兵第三旅團

(下志津)

野戰砲兵第十七聯隊(國府臺)

野戰砲兵第十八聯隊(下志津)

工兵第一大隊

(東京)

輜重兵第一大隊

(東京)

△重砲兵第一旅團

(横須賀)

重砲兵第一聯隊

(東京)

重砲兵第二聯隊

(横須賀)

△交通兵旅團

(千葉)

交通兵聯隊本部 (千葉)
 交通兵第一大隊 (千葉)
 交通兵第二大隊 (千葉)
 交通兵鐵道第三大隊 (津田沼)
 交通兵電信隊 (中野)
 交通兵氣球隊 (中野)

◎第二師團

(仙臺)

△步兵第三旅團 (仙臺)

步兵第二十九聯隊 (仙臺)
 步兵第六十五聯隊 (若松)

△步兵第二十五旅團 (山形)

步兵第四聯隊 (仙臺)
 步兵第三十二聯隊 (山形)

騎兵第二聯隊 (仙臺)
 野戰砲兵第二聯隊 (仙臺)

山砲兵第一大隊 (仙臺)
 工兵第二大隊 (仙臺)

輜重兵第二大隊 (仙臺)

◎第三師團

(名古屋)

△步兵第五旅團 (名古屋)

步兵第六聯隊 (名古屋)
 步兵第六十八聯隊 (岐阜)

△步兵第三十旅團 (津)

步兵第三十三聯隊 (名古屋)
 步兵第五十一聯隊 (津)

騎兵第三聯隊 (名古屋)
 野戰砲兵第三聯隊 (名古屋)

工兵第三大隊 (名古屋)
 輜重兵第三大隊 (名古屋)

◎第四師團

(大阪)

△歩兵第七旅團

(大阪)

歩兵第八聯隊

(大阪)

歩兵第七十聯隊

(篠山)

△歩兵第三十二旅團

(和歌山)

歩兵第三十七聯隊

(大阪)

歩兵第六十一聯隊

(和歌山)

騎兵第四聯隊

(大阪)

工兵第四大隊

(高槻)

野戰砲兵第四聯隊

(大阪)

△重砲兵第三聯隊

(由良)

重砲兵第一大隊

(源山)

重砲兵第二大隊

(福良)

重砲兵第二大隊

(由良)

◎第五師團

(廣島)

△歩兵第九旅團

(廣島)

歩兵第十一聯隊

(廣島)

歩兵第十一聯隊

(松山)

△歩兵第二十一旅團

(山口)

歩兵第四十二聯隊

(山口)

歩兵第七十一聯隊

(廣島)

騎兵第五聯隊

(廣島)

野戰砲兵第五聯隊

(廣島)

工兵第五大隊

(廣島)

輜重兵第五大隊

(廣島)

△重砲兵第四聯隊

(廣島)

重砲兵廣島大隊

(廣島)

重砲兵忠海大隊

(忠海)

◎第六師團

(熊本)

△歩兵第十一旅團

(熊本)

步兵第十三聯隊

(熊本)

步兵第二十三聯隊

(熊本)

△步兵第三十六旅團

(鹿兒島)

步兵第四十五聯隊

(鹿兒島)

步兵第六十四聯隊

(都城)

騎兵第六聯隊

(熊本)

野戰砲兵第六聯隊

(熊本)

工兵第六大隊

(熊本)

輜重兵第六大隊

(熊本)

◎第七師團

(旭川)

△步兵第十三旅團

(旭川)

步兵第二十五聯隊

(札幌)

步兵第二十六聯隊

(旭川)

△步兵第十四旅團

(旭川)

步兵第二十七聯隊

(旭川)

步兵第二十八聯隊

(旭川)

騎兵第七聯隊

(旭川)

野戰砲兵第七聯隊

(旭川)

工兵第七大隊

(旭川)

輜重兵第七大隊

(旭川)

重砲兵函館大隊

(函館)

◎第八師團

(弘前)

△步兵第四旅團

(秋田)

步兵第十七聯隊

(秋田)

步兵第五十二聯隊

(弘前)

△步兵第十六旅團

(弘前)

步兵第五聯隊

(青森)

步兵第三十一聯隊

(弘前)

△騎兵第三旅團

(盛岡)

騎兵第八聯隊

(盛岡)

騎兵第二十二聯隊

(盛岡)

騎兵第二十四聯隊
工兵第八大隊

(盛岡)

野戰砲兵第八聯隊
輜重兵第八大隊

(盛岡)

◎第九師團

(金澤)

△步兵第六旅團

(金澤)

步兵第七聯隊

步兵第三十六聯隊

(鯖江)

△步兵第三十一旅團

(富山)

步兵第三十五聯隊

步兵第六十九聯隊

(富山)

騎兵第九聯隊

(金澤)

野戰砲兵第九聯隊

(金澤)

工兵第九大隊

(金澤)

輜重兵第九大隊

(金澤)

◎第十師團

(姫路)

△步兵第八旅團

(姫路)

步兵第十聯隊

(姫路)

步兵第四十聯隊

(鳥取)

△步兵第二十旅團

(福知山)

步兵第二十聯隊

(福知山)

步兵第三十九聯隊

(姫路)

騎兵第十聯隊

(姫路)

野戰砲兵第十聯隊

(姫路)

工兵第十大隊

(福知山)

輜重兵第十大隊

(姫路)

重砲兵舞鶴大隊

(舞鶴)

◎第十一師團

(善通寺)

△步兵第十旅團

(徳島)

步兵第十二聯隊

(丸龜)

步兵第六十三聯隊

(徳島)

- △歩兵第二十二旅團 (善通寺)
- 歩兵第四十三聯隊 (善通寺)
- 騎兵第十一聯隊 (善通寺)
- 工兵第十一大隊 (善通寺)
- 歩兵第四十四聯隊 (高知)
- 野戰砲兵第十一聯隊 (善通寺)
- 輜重兵第十一大隊 (善通寺)

◎第十二師團

- △歩兵第十二旅團 (小倉)
- 歩兵第四十七聯隊 (小倉)
- △歩兵第三十五旅團 (福岡)
- 歩兵第十四聯隊 (小倉)
- 騎兵第十二聯隊 (小倉)
- 歩兵第七十二聯隊 (大分)
- 歩兵第二十四聯隊 (福岡)
- 野戰砲兵第十二聯隊 (小倉)

- 工兵第十二大隊 (小倉)
- 輜重兵第十二大隊 (小倉)
- △重砲兵第二旅團 (下關)
- 重砲兵第五聯隊 (下關)
- 重砲兵對馬聯隊 (鷓知)
- 重砲兵第六聯隊 (下關)
- 警備歩兵鷓知第一大隊 (殿原)

◎第十三師團

- △歩兵第十五旅團 (新發田)
- 歩兵第十六聯隊 (新發田)
- △歩兵第二十六旅團 (高田)
- 歩兵第五十聯隊 (松本)
- 騎兵第十七聯隊 (高田)
- 歩兵第三十聯隊 (村松)
- 歩兵第五十八聯隊 (高田)
- 野戰砲兵第十九聯隊 (高田)

工兵第十三大隊

(小千谷)

輜重兵第十三大隊

(高田)

◎第十四師團

(宇都宮)

△步兵第二十七旅團

(水戸)

步兵第二聯隊

步兵第五十九聯隊

(宇都宮)

△步兵第二十八旅團

(宇都宮)

步兵第十五聯隊

步兵第六十六聯隊

(宇都宮)

騎兵第十八聯隊

(宇都宮)

野戰砲兵第二十聯隊

(宇都宮)

工兵第十四大隊

(水戸)

輜重兵第十四大隊

(宇都宮)

◎第十五師團

(豊橋)

△步兵第十七旅團

(豊橋)

步兵第十八聯隊

(豊橋)

步兵第六十聯隊

(豊橋)

△步兵第二十九旅團

(静岡)

步兵第三十四聯隊

(静岡)

步兵第六十七聯隊

(濱松)

△騎兵第四旅團

(豊橋)

騎兵第十九聯隊

(豊橋)

騎兵第二十五聯隊

(豊橋)

騎兵第二十六聯隊

(豊橋)

野戰砲兵第二十一聯隊

(豊橋)

工兵第十五大隊

(豊橋)

輜重兵第十五大隊

(豊橋)

◎第十六師團

(京都)

△步兵第十八旅團

(敦賀)

步兵第九聯隊 (大津) 步兵第十九聯隊 (敦賀)

△步兵第十九旅團 (伏見)

步兵第三十八聯隊 (伏見) 步兵第五十三聯隊 (奈良)

騎兵第二十聯隊 (京都) 野戰砲兵第二十二聯隊 (京都)

工兵第十六大隊 (伏見) 輜重兵第十六大隊 (京都)

◎第十七師團 (岡山)

△步兵第三十三旅團 (岡山)

步兵第四十一聯隊 (福山) 步兵第五十四聯隊 (岡山)

△步兵第三十四旅團 (松江)

步兵第二十一聯隊 (濱田) 步兵第六十三聯隊 (松江)

騎兵第二十一聯隊 (岡山) 野戰砲兵第二十三聯隊 (岡山)

山砲兵第二大隊 (岡山) 工兵第十七大隊 (岡山)

輜重兵第十七大隊 (岡山)

◎第十八師團 (久留米)

△步兵第二十三旅團 (大村)

步兵第四十六聯隊 (大村) 步兵第五十五聯隊 (佐賀)

△步兵第二十四旅團 (久留米)

步兵第四十八聯隊 (久留米) 步兵第五十六聯隊 (久留米)

騎兵第二十二聯隊 (久留米) 野戰砲兵第廿四聯隊 (久留米)

山砲兵第三大隊 (久留米) 工兵第十八大隊 (久留米)

輜重兵第十八大隊 (久留米) 重砲兵佐世保大隊 (佐世保)
重砲兵長崎大隊 (長崎)

◎臺灣守備隊

△臺灣守備混成第一旅團 (臺北)
步兵第一大隊 步兵第二大隊 砲兵第一大隊
步兵第八大隊 騎兵第一中隊
工兵第一中隊
△臺灣守備混成第二旅團 (臺中)
步兵第三大隊 步兵第四大隊 步兵第九大隊
步兵第十大隊 騎兵第二中隊 砲兵第二大隊

工兵第二中隊

△臺灣守備混成第三旅團 (臺南)

步兵第五大隊 步兵第六大隊 步兵第十一大隊
步兵第十二大隊 騎兵第三中隊 砲兵第三大隊
工兵第三中隊
基隆要塞砲兵大隊 (基隆) 澎湖島要塞砲兵大隊 (馬公)

◎海軍の配備

◎第一鎮守府

(橫須賀軍港) 相模國三浦郡橫須賀

△横須賀鎮守府

横須賀鎮守府

横須賀水雷團

第二水雷艇隊

横須賀鎮守府艦隊

水雷敷設隊

横須賀海兵團
第一水雷艇隊

▲守備區域

羽後陸奥の國界より本土東海岸に沿ひ紀伊國東牟婁南牟婁郡界に至る海岸海面及び小笠原島北海道千島一帯の海岸及び海面

◎第二鎮守府

(吳軍港)

安藝國安藝郡吳

△吳鎮守府

吳鎮守府

吳水雷團

第二水雷艇隊

吳鎮守府艦隊

水雷敷設隊

吳海兵團
第一水雷艇隊

▲守備區域

紀伊國東牟婁郡南牟婁郡界より長門國大津豊浦郡界に至り又筑前國遠賀宗像郡界より九州東海岸に沿ひ日向大隅國界に至る海岸海面及び四國一帯の海岸海面

◎第三鎮守府

(佐世保軍港)

肥前國東彼杵郡佐世保

△佐世保鎮守府

佐世保鎮守府

佐世保水雷團

第一水雷艇隊

佐世保鎮守府艦隊

佐世保水雷敷設隊

第二水雷艇隊

佐世保海兵團

長崎水雷敷設隊

第三水雷艇隊

▲守備區域

筑前國遠賀宗像郡界より九州西海岸及び南海岸に沿ひ日向大隅の國界に至る海岸海面及び壹岐對馬沖繩諸島并に臺灣澎湖列島の海岸及び海面

◎第四鎮守府

(舞鶴軍港)

丹波國與謝郡舞鶴

△舞鶴鎮守府

舞鶴鎮守府

舞鶴水雷團

舞鶴鎮守府艦隊

舞鶴水雷敷設隊

舞鶴海兵團

舞鶴水雷艇隊

▲守備區域

長門國大津豊浦郡界より本土西海岸に沿ひ羽後陸奥の國界に至る海岸海面及び隱岐佐渡の海岸海面

△竹敷要港部

竹敷要港部

大湊要港部

馬公要港部

水雷敷設隊

大湊水雷團

水雷敷設隊

第一水雷艇隊

水雷敷設隊

水雷敷設隊

第二水雷艇隊

水雷艇隊

水雷艇隊

馬公要港部 水雷敷設隊

(注意) 室蘭鎮守府は未設に付これを省く

◎帝國軍艦

◎戰鬪艦

攝津	二万八千噸	河内	二万八千噸
安藝	一万九千五百噸	薩摩	一万九千五百噸
鹿島	一万六千四百噸	香取	一万五千九百五十噸
三笠	一万五千三百六十噸	朝日	一万四千七百六十五噸
敷島	一万四千五百八十噸	石見	一万三千五百十六噸

肥前	一万二千七百噸	相模	一万二千六百七十四噸
周防	一万二千六百七十四噸	富士	一万二千六百四十九噸
丹後	一万〇九百六十噸		

◎一等巡洋艦 (十三隻)

鞍馬	一万四千六百噸	伊吹	一万四千六百噸
筑波	一万三千七百五十噸	生駒	一万三千七百五十噸
淺間	九千八百八十五噸	常盤	九千八百八十五噸
出雲	九千八百二十六噸	磐手	九千八百二十六噸
八雲	九千七百三十五噸	吾妻	九千四百二十六噸
阿蘇	七千八百噸	春日	七千七百噸

日進 七千七百噸

◎一等巡洋艦 (十隻)

津輕 六千六百三十噸 宗谷 六千五百噸

笠置 五千五百〇三噸 千歲 四千九百九十二噸

嚴島 四千二百七十八噸 松島 四千二百七十八噸

橋立 四千二百七十八噸 利根 四千四百噸

浪速 三千七百〇九噸 高千穂 三千七百〇九噸

◎二等巡洋艦 (八隻)

新高 三千四百二十噸 對馬 三千四百二十噸

秋津州 三千百七十二噸 音羽 三千噸

和泉 二千九百六十七噸 須磨 二千七百噸

明石 二千八百噸 千代田 二千四百三十九噸

◎一等海防艦 (二隻)

壹岐 九千五百九十四噸 鎮遠 七千三百三十五噸

◎二等海防艦 (三隻)

見島 四千九百六十噸 沖島 四千二百二十六噸

扶桑 三千七百七十七噸

◎三等海防艦 (七隻)

松江 二千五百五十噸 比叡 二千二百八十四噸

高雄 一千七百七十八噸
葛城 一千五百〇二噸
武藏 一千五百〇二噸

◎二等砲艦 (六隻)

摩耶 六百二十二噸
鳥海 六百二十二噸
赤城 六百二十二噸
宇治 六百二十噸
伏見 百八十噸
隅田 百二十六噸

◎通報艦 (七隻)

最上 一千三百五十噸
千早 一千二百六十三噸
鈴谷 三千噸
八重山 一千六百〇九噸
姉川 一万一千七百噸
滿洲 三千九百十六噸
八重山 一千六百〇九噸

淀

一千二百五十噸

龍田 八百六十四噸

◎水雷母艦 (二隻)

韓崎 一万〇五百噸

豐橋 四千百二十噸

◎驅逐艦 (五十五隻)

海風 一千余噸 (建造中)

山風 一千余噸 (建造中)

四百噸

四百噸

三百八十一噸

三百八十一噸

三百八十一噸

三百八十一噸

三百八十一噸

三百八十一噸

三百八十一噸

三百八十一噸

神風	三百八十一噸	子日	三百八十一噸	朝風	三百八十一噸	若葉	三百八十一噸	追風	三百八十一噸	初雪	三百八十一噸	夕立	三百八十一噸	朝露	三百八十一噸	初春	三百八十一噸	三日月	三百八十一噸
彌生	三百八十一噸	如月	三百八十一噸	夕暮	三百八十一噸	春風	三百八十一噸	白露	三百八十一噸	時雨	三百八十一噸	響	三百八十一噸	白雪	三百八十一噸	疾風	三百八十一噸	野分	三百八十一噸

白妙	三百八十一噸	卯月	三百八十一噸	長月	三百八十一噸	菊月	三百八十一噸	早月	三百五十噸	雷	三百四十五噸	建	三百四十五噸	白雲	三百三十三噸	叢雲	三百二十六噸	夕霧	三百二十六噸	陽炎	三百二十六噸
夕風	三百八十一噸	水無月	三百八十一噸	松風	三百八十一噸	浦波	三百八十一噸	文月	三百五十噸	曙	三百四十五噸	曉	三百四十五噸	朝潮	三百三十三噸	東雲	三百二十六噸	不知火	三百二十六噸	薄雲	三百二十六噸

霞 三百二十四噸 山彦 二百四十噸

◎水雷艇

小鷹	二百〇三噸	雉	百五十二噸	鴻	百五十二噸
鷗	百五十二噸	隼	百五十二噸	鷓鴣	百五十二噸
真鶴	百五十二噸	千鳥	百五十二噸	雁	百五十二噸
蒼鷹	百五十二噸	鷓	百五十二噸	燕	百五十二噸
雲雀	百五十二噸	鷺	百五十二噸	鶉	百五十二噸
鷓	百五十二噸	白鷹	百五十二噸	福龍	百五十二噸
第六號	五十四噸	第七號	五十四噸	第八號	五十四噸
第九號	五十四噸				

第十號	五十四噸	第十一號	五十四噸
第十二號	五十四噸	第十三號	五十四噸
第十四號	五十四噸	第十五號	五十三噸
第十七號	五十四噸	第十八號	五十四噸
第十九號	五十四噸	第二十號	五十三噸
第二十一號	八十噸	第二十四號	八十噸
第二十五號	八十五噸	第二十六號	六十六噸
第二十七號	七十四噸	第二十九號	八十八噸
第三十號	八十八噸	第三十一號	八十三噸
第三十二號	八十三噸	第三十三號	八十三噸
第三十六號	八十三噸	第三十七號	八十三噸

第三十八號	八十三噸	第三十九號	百十二噸
第四十號	百十二噸	第四十一號	百十二噸
第四十三號	百十二噸	第四十四號	八十三噸
第四十五號	八十三噸	第四十六號	八十三噸
第四十七號	八十三噸	第四十九號	八十三噸
第五十號	五十三噸	第五十二號	五十三噸
第五十四號	五十四噸	第五十五號	五十四噸
第五十六號	五十三噸	第五十七號	五十四噸
第五十八號	五十四噸	第五十九號	五十四噸
第六十號	八十三噸	第六十一號	八十三噸
第六十二號	一百十噸	第六十二號	一百十噸

第六十四號	一百十噸	第六十五號	一百十噸
第六十六號	一百十噸	第六十七號	八十九噸
第六十八號	八十九噸	第七十號	八十九噸
第七十一號	八十九噸	第七十二號	八十九噸
第七十三號	八十九噸	第七十四號	八十九噸
第七十五號	八十九噸		

普通獨學の友(終)

261
731

明治四十三年七月十七日印刷

明治四十三年七月廿二日發行

大阪市南區大寶寺町四之丁廿二番地

發行者 博多久吉

大阪市南區末吉橋通四丁目十六番地

印刷者 井下幸三郎

大阪市南區大寶寺町佐野屋橋筋四入

賣發所 博多成象堂

電話南一七七番
郵政口座大阪七三三番

不許複製

